



特集：

第62回 青年技術者

The 62nd Youth Architects and Engineers Award

淀川水系をめぐる
建築／土木／ランドスケープ

01 浮御堂
唐崎神社

02 天然図画亭
居初氏庭園

03 南郷洗堰

04 浮島十三重石塔

05 澗川橋梁

06 流れ橋
(上津屋橋)

07
鍵屋

08

09

10

11

12

琵琶湖
疏水

桂川

木津川

琵琶湖

定時総会議決の お知らせ

平成27年6月17日開催の平成27年度定時総会において、下記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
平成26年度事業報告の件
(詳細P1)
- ・第2号議案
平成26年度決算報告の件
(詳細P3)
- ・第3号議案
平成26年度公益目的支出計画実施報告の件
- ・第4号議案
平成27年度事業計画の件
(詳細P7)

- ・第5号議案
平成27年度収支予算の件
(詳細P8)
- ・第6号議案
役員選任の件(詳細P10)

●今回退任された理事

浦島 澄男 (株さんでん)
押味 至一 鹿島建設(株)
上林 研二 地域生活空間研究所
小橋 鴻三 清水建設(株)
福田 泰造 福田泰造建築事務所
山田 文啓 大成建設(株)

退任された理事の方には、長年にわたり会務遂行にご尽力いただきありがとうございました。

再任、新任の理事、監事はP10の会務分掌の表にとおりです。

通常理事会議決の お知らせ

平成27年6月17日開催の平成27年度第1回通常理事会において、右記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
平成26年度事業報告の件
(詳細P1)
- ・第2号議案
平成26年度決算報告の件
(詳細P3)
- ・第3号議案
平成26年度公益目的支出計画実施報告書の件

- ・第4号議案
平成27年度事業計画の件
(詳細P7)
- ・第5号議案
平成27年度収支予算の件
(詳細P8)
- ・第6号議案
役員選任の件(詳細P10)

臨時理事会議決の お知らせ

平成27年6月17日開催の平成27年度第1回臨時理事会において、右記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
役員役員選任の件
- ・第2号議案
常任理事、常設委員長委嘱の件

- ・第3号議案
理事の会務分掌の件
いずれもP10の会務分掌の表のとおりです。

定時評議員会議決の お知らせ

平成27年6月8日開催の平成27年度定時評議員会において、右記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
評議員会議長、副議長互選の件

- ・第2号議案
役員(理事、監事)、候補者推薦の件

平成26年度事業報告

平成26年 4 月 1 日～平成27年 3 月31日

Ⅰ	本	部
---	---	---

◎役員会等の開催状況

1. 総会、理事会、評議員会、常任理事会

- 定時総会 平成26年 6 月18日（水）
 ①平成25年度事業報告・収支決算報告
 ②平成26年度事業計画・収支予算計画
 ③平成25年度公益目的支出計画実施報告
 ④役員改選

第1回 通常理事会 平成26年 6 月18日（水）

- ①平成25年度事業報告・収支決算報告
 ②平成26年度事業計画・収支予算計画
 ③平成25年度公益目的支出計画実施報告
 ④役員改選

第2回 通常理事会 平成26年11月26日（水）

- ①平成26年度上半期（4月～9月）事業執行状況報告

第1回 臨時理事会 平成26年 6 月18日（水）

- ①会長選任
 ②役付役員選任
 ③常任理事ならびに常設委員長の委嘱
 ④理事の会務分掌

定時評議員会 平成26年 6 月 9 日（月）

- ①議長改選
 ②役員等推薦

常任理事会 8 回

- ①理事会提出議案の作成、理事会議決事項の処理
 ②協会の会務執行 など

2. 常設委員会

協会の事業を円滑に遂行するため、4つの常設委員会を設置している。

(1) 編集委員会

協会の会誌「建築と社会」の企画・編集のため、計画や構造、法令など5つの分科会で構成する特集小委員会を56回、作品作風小委員会10回、広告企画小委員会を12回開催した。

(2) 事業委員会

見学会や講演会、研修会などを企画する情報見学小委員会を7回開催した。概ね35歳以下の若手みずからの企画による催しものを行い、若手会員の増強と協会活動の活性化を目指すU-35小委員会を12回開催した。

(3) 出版委員会

建築に関する図書の企画・編集・刊行を行うため、11回開催した。

(4) 教育委員会

建築工事実務講習会の打ち合わせのため講習会小委員会や工高生のデザインコンクールを開くための工高生教育小委員会を運営しており、講習会小委員会を2回、工高生教育小委員会を3回開催した。大阪府や建築団体で構成する協議会が実施する諸行事に協力するため、大阪府住まいまちづくり普及協議会を11回開催した。

3. 特別委員会

協会の事業を円滑に遂行するため、3つの特別委員会を設置している。

(1) 青年技術者選考委員会

設計・計画、構造、設備、施工など建築に関連する分野から満35歳以下の青年技術者を顕彰するため、選考委員会を4月15日（火）に開催した。

(2) 工高生デザインコンクール審査委員会

工高生デザインコンクールは、工高生の設計技能向上のため、昭和30年創立以来毎年実施してきた。審査委員会を10月18日（土）に開催した。

(3) 読者と選ぶ「建築と社会」賞選考委員会

「建築と社会」に掲載された前年の作品、記事の中から社会性、環境などに配慮した建築作品や建築にかかわる論文や記事などを顕彰するため、選考委員会を4月18日（金）に開催した。

4. 100周年関連事業委員会

平成29年（2017年）の創立100周年関連事業を実施するため、委員会等を設置している。

(1) 史料研究会

関西の歴史的名建築物を「建築と社会」誌に毎号連載してきた「再読 関西近代建築」のための史料研究会を4回開催した。

(2) 10年委員会

次世代の建築界を担う人材の育成のため、ものづくりの実感を体感する建築現場見学会やまちづくりやまちおこしに役立てることを目的とした「大阪ええとこそうせい（創生）プロジェクト」を実施するため、10年委員会を12回開催した。

(3) 群像委員会

関西の建築界のさまざまな分野の人を「建築と社会」誌に紹介している「関西の建築界/群像」のための群像委員会を開催している。平成26年度は2回開催し、インタビューを12回実施した。

5. 創立100周年記念事業準備委員会

創立100周年記念事業の企画や調整など全般を総括する「創立100周年記念事業準備委員会」を7月に発足した。委員会を1回、打合せ会を7回開催した。

◎事業の執行状況

1. 「建築と社会」誌の発行

「建築と社会」は、大正6年の創立以来協会活動の中核として、会員相互あるいは会員と社会を結ぶ役割を果たしている。毎月発行し会員の手元に届けている。平成27年3月号で通巻1116号を数えるに至った。

発行月	特集内容	特集以外の 主な内容
4月号	第20回会員作品「私の空間作法」	○作品作風
5月号	オフィスビル設備の変遷とこれから	○galley
6月号	オフィスのこれから	○法令コーナー
7月号	第61回青年技術者	○構造・設備の頁
8月号	建築と時間	○再読 関
9月号	省エネ・低炭素のこれまでとこれから	西近代建築
10月号	大阪・上町台地・あべのハルカス 複雑・高度化する建築とその技術について	○関西の建築界/群像
11月号	でっかいものはすごいぞ	○新製品レビュー
12月号	安井建築設計事務所90周年	○インフォメーション
1月号	フォー・オールの時代に向けて	など
2月号	闘つ（ぶ）プロダクトの挑戦-リノベーションのリアル	
3月号	支部復活55周年記念 東海支部特集	

2. 講演会の開催

今話題の建築物や構造物、都市問題など様々なジャンルを対象にエピソードや苦勞話、ノウハウなどを聞く講演会を毎年開催している。今年度は2回開催した。

定時総会記念講演 平成26年 6 月18日（水） 50名

「旧くからあるけれど新しい大阪の魅力をもつ北船場。街の活動を通して新しいコミュニティを考える」

㈱ケイオス代表 澤田 充

U35小委員会企画 平成26年 6 月27日（金） 79名

2nd action「建築と拡張」

大阪市 高橋和也

グランフロント大阪 木村美樹雄

㈱大林組 橋本英樹

㈱日建設計 塚島 健

3. 見学会の実施

著名建築物や近代建築などの見学会を実施している。今年度は6回開催した。

- ・グランフロント大阪ナレッジキャピタル見学会
平成26年 4 月23日（水） 18名
- ・学校法人龍谷大学深草キャンパス新1号館見学会
平成26年 7 月 3 日（木） 23名
- ・NHK京都放送会館見学会
平成26年 8 月25日（月） 19名
- ・稲盛記念会館見学会
平成26年 9 月17日（水） 14名
- ・川島織物セルコン本社工場見学会
平成26年11月28日（金） 30名
- ・「廣誠院」茶室見学会
平成27年 2 月21日（土） 34名

4. 建築工事実務講習会の開催

昭和32年以降、毎年主として中堅クラスの建築技術者を対象に標記講習会を実施している。平成26年度は平成27年1月14日（水）に実施し参加者は70名。

5. 顕彰事業の実施

(1) 青年技術者の顕彰

昭和29年度から毎年実施している。今回は26名を顕彰した。顕彰者を称え激励するため、総会後に表彰式を行った。

- ・設計・計画部門 11名
上野山貴嗣、大平卓磨、岡田惇史、北川拓哉、杉山和也、曾我部曉人、廣富 純、逸見篤俊、若江直生、堀 沙樹、粕谷貴司
- ・構造部門 5名
足立幸多朗、久保山寛之、蔵野昌浩、下西智也、高山直行
- ・設備部門 6名
泉 孝典、堤 美沙子、中下一成、中村友久、西山敏史、藤井拓郎
- ・施工部門 4名
総田良樹、佐藤有希、空久保 光、長谷洋司

(2) 読者と選ぶ「建築と社会」賞の顕彰

作品部門4点、論考部門3点を選び総会後に表彰式を行った。

- ・作品部門

①中之島フェスティバルタワー

建築主 ㈱朝日新聞社

設計 ㈱日建設計 江副敏史ほか

施工 ㈱竹中工務店

②旧ジェームス邸

建築主 ㈱ノバレーゼ

設計 ㈱竹中工務店 有田博、中村圭祐、松隈章

施工 ㈱竹中工務店

③IDEC本社・技術研究センター

建築主 IDEC㈱

設計 鹿島建設㈱ 小松啓一、大平直子

施工 鹿島建設㈱

④上村工業新中央研究所

建築主 上村工業㈱

設計 ㈱東畑建築 中村文紀、倉橋尉仁、

事務所 下田康晴

施工 ㈱竹中工務店

・論考部門

①人口減少、高齢化時代の集約型都市圏構造

～京都府丹後地方を事例に～

龍谷大学教授 矢作 弘

②伊勢神宮と式年遷宮

愛知工業大学客員教授 飯田喜四郎

③建築を見る写真家のまなざし

写真家 村井 修

(3) 優秀卒業生の表彰

優秀な建築科卒業生を表彰することにより、研鑽意欲の向上を促し、激励するため昭和27年から実施している。平成26年度は、工業高校や専門学校など32校 53名を表彰した。

6. コンクールの実施

(1) 工高生デザインコンクールの実施

平成26年度で60回を数えた。平成26年度は参加校数24校（昨年度17校）、応募作品数143点（昨年度83点）と参加校数、作品数とも増加した。

(2) 「新ええとこ」提案コンクールの実施

普段見過ごされそうなまわりの資源を発掘し、「こうしたらもっとよくなる」「もっといきいきする」等のアイデアを創立100周年まで様々なテーマで募集することにより、まちづくりや町おこし賑わいづくりに役立てていくことを目的としている。

平成26年度は、いろんな人たちがそぞろ歩き「知らん間にこんなとこまで歩いてしまった」と御堂筋を楽しめるアイデアを募集した。全国から59点の応募があり、6点を顕彰し表彰作品は3月末から4月上旬にかけて御堂筋沿いのビルで展示した。

7. 出版物の刊行

時代のニーズに即した新しい著書の発掘を第一とし、建築に関する図書の企画・編集・刊行を行っており、昭和27年以来多くの図書を出版してきた。「建築技術選書」と「プロのノウハウ」シリーズはその代表である。

平成26年度は、建築に関する図書の企画・編集を行い、27年度当初に「プロのノウハウ」シリーズ「工務店のクレーム対応術」を発行した。

8. 共援、後援、協賛、協力の承認

協会の事業主旨に合致する事業に後援・協賛・協力した。

(1) 共援

- ・大阪都市景観建築賞 大阪府、大阪市ほか

(2) 後援

- ・建築材料・住宅設備総合展KENTEN2014（一社）日本建築材料協会
- ・LIVING&DESIGN2014（一社）L&D
- ・2014年児童画展（一社）大阪府建築士事務所協会
- ・第6回建築紛争フォーラム「集合住宅・戸建住宅等の建築紛争の現状と課題」（一社）日本建築学会
- ・大阪府知事指定「建築基準法及び建築士法の一部改正の解説講習会」第1回目（一社）大阪府建築士事務所協会
- ・あまあるきプロジェクト「ぶらり大阪「景観」ウオーク平野区編」（一社）大阪府建築士事務所協会

- ・講習会「建築士業務の紛争・保険・処分事例解説講習会」他5件（公社）大阪府建築士会

- ・大阪府知事指定「建築基準法及び建築士法の一部改正の解説講習会」第2回目（一社）大阪府建築士事務所協会

- ・開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会（一社）大阪府建築士事務所協会・（一社）日本建築士事務所協会連合会

- ・講習会「木造住宅耐震診断・耐震改修の実務」他1件（公社）大阪府建築士会

- ・住環境デザインフォーラム 摂南大学

- ・建築材料・住宅設備総合展 KENTEN2015（一社）日本建築材料協会

- ・講習会「木造住宅耐震診断・耐震改修入門コース」他1件（公社）大阪府建築士会

- ・「建築物の火害診断および補修・補強方法方針」改定講習会（一社）日本建築学会

- ・講習会「建築設計のためのBIM活用講習会」他2件（公社）大阪府建築士会

(3) 協賛

- ・平成26年度（第24回）大阪府公共建築設計コンクール「あすなる夢建築」大阪府他

- ・Japan Home & Building Show2014（一社）日本能率協会

- ・建築・建材展2015（第21回）日本経済新聞社

- ・第38回人間生活環境系シンポジウム

- ・人間生活環境系学会

- ・セミナー「南海トラフ巨大地震に備えての耐震化」NPO法人耐震総合安全機構

- ・シンポジウム「環境が形態を決める」他1件（一社）日本建築学会近畿支部

(4) 協力

- ・街の色研究会・京都 シンポジウム2014「京都の街なみ景観を考える」街の色研究会・京都

9. 建築関係団体との交流、連携

建築関係をはじめとする各団体と交流・連携事業を積極的に推進するため、平成21年度から関西建築4団体（大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会）で構成する会長・支部長懇談会に4回出席した。

10. 工事請負契約約款事業

民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款委員会に委員を派遣するとともに、引き続き「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」の販売を行った。

平成26年度は新たに「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」と、「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」の販売を始めた。

11. 役員派遣

大阪商工会議所に2号議員として役員1名を派遣した。

Ⅱ 支 部

（中国支部）

◎役員会等の開催状況

1. 総会、常議員会、幹事会の開催

定時総会 平成26年5月29日（木）

- ①平成25年度事業報告
- ②平成25年度収支決算及び監査報告
- ③平成26年度事業計画（案）
- ④平成26年度収支予算（案）
- ⑤役員改選（案）
- ⑥建築施工技術研究委員会（仮称）設置（案）

第1回 常議員会 平成26年4月28日（月）

- ①平成25年度事業報告
- ②平成25年度収支決算報告及び監査報告
- ③平成26年度事業計画（案）
- ④平成26年度収支予算（案）
- ⑤役員改選（案）
- ⑥建築施工技術研究委員会（仮称）設置（案）
- ⑦平成26年度支部総会開催（案）

第1回 幹事会 平成26年4月17日（木）

- ①建築工実務講習会の報告
- ②建築施工技術研究委員会（仮称）の設置
- ③次期役員改選（案）
- ④幹事改選（案）
- ⑤平成25年度収支決算（案）
- ⑥平成26年度収支予算（案）
- ⑦常議員会・総会

第2回 幹事会 平成26年10月9日（木）

- ①中国支部半期決算報告
- ②あべのハルカス講演会報告
- ③若手・新入社員技術講習会報告
- ④中堅社員技術講習会

第3回 幹事会 平成26年12月18日（木）

- ①中堅社員技術講習会報告
- ②建設工実務講習会
- ③会長・副会長・常任理事・支部長会議及び通常会議報告
- ④東海支部との交流
- ⑤小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約約款の販売

第4回 幹事会 平成27年3月30日（月）

- ①26年度決算報告
- ②27年度事業計画（案）報告
- ③支部総会・常議員会
- ④建築施工技術研究委員会活動報告
- ⑤講演会
- ⑥東海支部交流

◎事業の執行状況

1. 講演会の開催

日本一の高さになったあべのハルカスの設計・集約型都市建築の可能性についての講演会を開催した。

- ・タイトル：超高層複合建築あべのハルカスの設計施工
- ・講師：竹中工務店大阪本店設計部課長 米津 正臣
- ・講演日：平成26年5月29日（木）
- ・参加者：84名

2. 若手・新入社員技術講習会の開催

平成26年6月30日（月）実施。参加者は29名。

- ①若手・新入社員の心構え 講師：尾野本 悟（広島工業大学教授）
- ②杭・土工事の品質管理 講師：松山和生（大林組広島支店副部長）
- ③鉄筋・コンクリート工事のポイント 講師：井上 昇（清水建設広島支店工事長）
- ④交流会

3. 中堅社員技術講習会の開催

平成26年10月29日（水）実施。参加者は46名。

- ①建設業の安全管理 講師：尾野本 悟（広島工業大学教授）
- ②建築防水の現状と今後の課題 講師：中沢 裕二（日本防水材料連合会技術委員長）
- ③設計・監理施工者のため建築品質トラブル予防のツボ 講師：仲本 尚志（日本建築協会出版委員会委員（元竹中工務店設計部）馬渡 勝昭（一級建築士事務所Atelier・YOU代表（元竹中工務店設計部）

④交流会

4. 建築工実務講習会の開催

平成27年2月12日（木）実施。参加者は40名。

- ①施工計画 講師：井上 昇（清水建設㈱広島支店工事長）
- ②仮設見積 講師：岩崎 哲也（㈱大林組広島支店建築工部技術課副課長）
- ③積算業務 講師：八道 憲一（鹿島建設㈱中国支店建築部見積グループ次長）
- ④交流会

5. 工事請負契約約款の販売

「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」の販売を行った。

今年度から新たに「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」の販売を始めた。

（東海支部）

◎役員会等の開催状況

1. 総会、常議員会、幹事会の開催

第1回 常議員会 幹事会

平成26年4月2日（水）

- ①平成26年度予算
- ②平成26年度総会案内
- ③（本部起家）平成25年度実績記載依頼の件
- ④総会講演会と案内はがき
- ⑤各常置委員会活動報告

第2回 常議員会 幹事会

平成26年5月13日（火）

- ①平成26年度支部総会
- ②平成25年度事業報告・収入支出決算
- ③平成26年度事業計画
- ④平成26年度次期役員会構成
- ⑤当日の段取り
- ⑥各常置委員会活動報告

定時総会 平成26年5月30日（金）

- ①平成25年度事業報告・収支決算報告
- ②平成26年度事業計画・収支予算計画
- ③役員改選
- ④支部規程

第3回 常議員会 幹事会

平成26年7月2日（水）

- ①平成26年度常置委員会構成
- ②平成26年度定時総会収支
- ③各常置委員会活動報告
- ④「東海の建築」第81号発行

第4回 常議員会 幹事会

平成26年8月7日（木）

- ①平成26年度常置委員会構成
- ②支部復活55周年記念事業計画
- ③各常置委員会活動報告

第5回 常議員会 幹事会

平成26年9月2日（火）

- ①支部復活55周年記念事業計画
- ②常置委員会活動報告

第6回 常議員会 幹事会

平成26年10月7日（火）

- ①支部復活55周年記念事業計画
- ②本部報告「平成26年度上半期（4～9月）事業報告内容について
- ③常置委員会活動報告

第7回 常議員会 幹事会

平成26年11月5日（火）

- ①支部復活55周年記念事業計画
- ②建築と社会2015年3月東海支部特集号、「東海の建築」第82号
- ③2014年度の会員名簿前段記事
- ④常置委員会活動報告

第8回 常議員会 幹事会

平成26年12月4日（木）

- ①支部復活55周年記念事業計画
- ②建築と社会2015年3月東海支部特集号、「東海の建築」第82号
- ③常置委員会活動報告

第9回 常議員会 幹事会

平成27年1月15日（木）

- ①建築と社会2015年3月東海支部特集号、「東海の建築」第82号
- ②27年度事業計画
- ③平成27年度決算見込み、27年度予算審議
- ④支部復活55周年記念見学会準備委員会のたち上げ
- ⑤常置委員会活動報告

第10回 常議員会 幹事会

平成27年2月3日（火）

- ①実務講習会収支報告
- ②平成26年度決算見込み、27年度予算審議
- ③平成27年度支部役員人事
- ④常置委員会活動報告

第11回 常議員会 幹事会

平成27年3月24日（火）

- ①平成27年度事業計画審議
- ②平成27年度支部総会案内
- ③平成27年度支部役員人事
- ④常置委員会活動報告

2. 常置委員会の開催

支部の事業を円滑に遂行するため、6つの委員会を設置している。

(1) 総務委員会

平成26年度総会準備および平成26年度決算、平成27年度予算作成のため4回開催した。

(2) 事業委員会

現地見学会、海外見学会候補検討のため4回開催した。

(3) 編集委員会

「東海の建築」第81・82号構成・手配のため2回開催した。

(4) 会員委員会

会員名簿、協賛会社名簿手配、確認のため5回開催した。

(5) 研修委員会

建築工実務講習会日時、講師検討・手配準備、講師打合会の準備、および運営準備のため5回開催した。

(6) 東海特集特別編集委員会

東海特集構成や本部との調整、執筆者との打ち合わせなど5回開催した。

◎事業の執行状況

1. 支部機関紙「東海の建築」の発行事業（7月、3月）

「東海の建築」第81号を平成26年7月1日に発行。第82号は「建築と社会平成27年3月東海特集号」に支部だよりとして執筆した。

主な内容は、

第81号：「重なる建築」ーリノベーションを通してー、

「見学記」など

第82号：「東海支部だより」

- ・建築家ヴォ・チョン・ギア氏の建築とベトナム歴史建築の旅
- ・建築工実務講習会の報告

2. 見学会の実施

海外建築視察として「建築家ヴォ・チョン・ギア氏の建築とベトナム歴史建築の旅」を平成26年10月30日～11月3日に実施。参加者は14名

3. 建築工実務講習会の開催

平成27年1月22日（木）実施。参加者は52名。

①施工計画

講師：日吉 智紀（清水建設名古屋支店）

②仮設見積

講師：福井 浩二（大林組名古屋支店）

③積算業務

講師：時武 治（竹中工務店名古屋支店）

4. 支部会員名簿の発行

平成26年11月30日に東海支部会員名簿2014年度を発行。

5. 「建築と社会」3月号東海特集の編集事業

平成27年3月号の企画、編集を担当。タイトルは「東海支部のこれまでとこれから（支部復活55周年記念特集）」とした。「作品作風」では東海3県下などの建築作品13点、スケッチブックでは支部会員作品10点を紹介した。

6. 建築関係団体との交流、連携

建築八団体（愛知建築士会、愛知県建築士事務所協会、日本建築家協会東海支部愛知地域会、日本建築学会東海支部、日本建築構造技術者協会中部支部、日本積算協会東海北陸支部、愛知県設備設計監理協会、日本建築協会東海支部）連絡協議会に6回出席した。

（京都支部）

◎役員会等の開催状況

1. 総会、常議員会、幹事会の開催

定時総会 平成26年7月15日（火）

- ①平成25年度事業報告・収支決算報告
- ②平成26年度事業計画・収支予算計画

役員会 平成26年6月27日（金）

- ①通常総会の運営
- ②その他
 - ・京都支部会員数について

幹事会 開催していない

◎事業の執行状況

1. 見学会の実施

国宝知恩院御影堂半解体修理見学研修会を平成26年10月21日（火）に実施。参加者27名。

旧三井家下鴨別邸見学研修会を平成27年3月10日（火）に実施。参加者33名。

2. 2級建築士受験講習会の開催

京都府建築士会共催「製図（基本・応用）」

平成26年7月13日～8月31日 受講者：21名

①2級受験講習会 製図（基本）2日間

講 師：福井基文／福井一級建築士事務所

京都府建築士会事業委員会委員

②製図（応用）延べ6日間

講 師：福井基文／福井一級建築士事務所

京都府建築士会事業委員会委員

3. 工事請負契約約款の販売

民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款の販売を行った。

今年度から新たに「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」の販売を始めた。

平成26年度決算報告

貸借対照表

平成27年 3 月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	27,654,972	17,161,166	10,493,806
貯蔵品	42,089	33,559	8,530
未収入金	1,075,250	2,820,717	-1,745,467
前払費用	824,862	1,656,724	-831,862
仮払金	66,152	64,214	1,938
流動資産合計	29,663,325	21,736,380	7,926,945
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	27,000,000	27,000,000	0
事業基金積立預金	29,000,000	29,000,000	0
退職給付引当資産	9,088,348	10,081,954	-993,606
特定資産合計	65,088,348	66,081,954	-993,606
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260	111,260	0
投資有価証券	447,879	447,695	184
保証金	3,527,250	3,527,250	0
その他固定資産合計	4,086,389	4,086,205	184
固定資産合計	69,174,737	70,168,159	-993,422
資産合計	98,838,062	91,904,539	6,933,523
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,427,164	321,411	1,105,753
前受金	7,874,348	2,848,073	5,026,275
預り金	115,761	304,621	-188,860
流動負債合計	9,417,273	3,474,105	5,943,168
2. 固定負債			
退職給付引当金	9,028,881	10,081,954	-1,053,073
固定負債合計	9,028,881	10,081,954	-1,053,073
負債合計	18,446,154	13,556,059	4,890,095
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	80,391,908	78,348,480	2,043,428
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(56,059,467)	(56,000,000)	(59,467)	(59,467)
正味財産合計	80,391,908	78,348,480	2,043,428
負債及び正味財産合計	98,838,062	91,904,539	6,933,523

貸借対照表内訳表

平成27年3月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	合 計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金・預金	1,050,047	10,023,173	16,581,752	27,654,972
貯蔵品		1,018	41,071	42,089
未収入金	282,400		792,850	1,075,250
前払費用	824,862			824,862
仮払金			66,152	66,152
流動資産合計	2,157,309	10,024,191	17,481,825	29,663,325
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
基本財産合計				0
(2) 特定資産				
記念事業積立預金	27,000,000			27,000,000
事業基金積立預金	9,000,000		20,000,000	29,000,000
退職給付引当資産		9,088,348		9,088,348
特定資産合計	36,000,000	0	29,088,348	65,088,348
(3) その他固定資産				
什器備品	111,260			111,260
投資有価証券	447,879			447,879
保証金		90,600	3,436,650	3,527,250
その他固定資産合計	559,139	90,600	3,436,650	4,086,389
固定資産合計	36,559,139	90,600	32,524,998	69,174,737
資産合計	38,716,448	10,114,791	50,006,823	98,838,062
II 負債の部				
1. 流動負債				

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	合 計
未払金	908,014		519,150	1,427,164
前受金			7,874,348	7,874,348
預り金			115,761	115,761
流動負債合計	908,014	0	8,509,259	9,417,273
2. 固定負債				
退職給付引当金			9,028,881	9,028,881
固定負債合計	0	0	9,028,881	9,028,881
負債合計	908,014	0	17,538,140	18,446,154
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計	0	0		
2. 一般正味財産				
(うち基本財産への充当額)	37,808,434	10,114,791	32,468,683	80,391,908
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)
(36,000,000)	(36,000,000)	(0)	(20,059,467)	(56,059,467)
正味財産合計	37,808,434	10,114,791	32,468,683	80,391,908
負債及び正味財産合計	38,716,448	10,114,791	50,006,823	98,838,062

正味財産増減計算書

平成26年 4 月 1 日から平成27年 3 月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	33,663,775	34,695,725	-1,031,950
個人正会員受取会費	9,207,075	9,760,125	-553,050
個人正会員（地方）受取会費	827,400	839,700	-12,300
団体正会員受取会費	23,612,500	24,087,500	-475,000
準会員受取会費	16,800	8,400	8,400
事業収益	29,686,351	22,393,597	7,292,754
事業収益	29,001,551	21,479,597	7,521,954
事業雑収益	684,800	914,000	-229,200
雑収益	185,997	224,720	-38,723
経常収益計	63,536,123	57,314,042	6,222,081
(2) 経常費用			
事業費	42,745,675	36,626,669	6,119,006
給料・手当	14,640,338	13,737,137	903,201
法定福利費	2,952,352	2,784,592	167,760
事業費	24,964,450	19,796,685	5,167,765
事業雑費	188,535	308,255	-119,720
管理費	19,263,166	21,047,364	-1,784,198
給料・手当	4,883,632	6,268,241	-1,384,609
退職給付費用	456,679	707,726	-251,047
法定福利費	984,117	1,350,554	-366,437
福利厚生費	21,000	0	21,000
助成費	0	0	0
会議費	1,697,991	1,723,755	-25,764
旅費交通費	191,515	224,280	-32,765
通信運搬費	449,380	471,058	-21,678
集金費	491,002	480,410	10,592
消耗品費	1,424,513	1,469,861	-45,348
備品購入費	0	150,937	-150,937
修繕費	2,504	6,090	-3,586
印刷製本費	63,720	18,900	44,820
光熱費	213,814	210,671	3,143
火災保険料	21,710	21,710	0
租税公課	1,108,300	586,100	522,200
建物管理費	4,269,849	4,349,739	-79,890
事務委託費	1,370,736	1,353,300	17,436
雑費	1,612,704	1,654,032	-41,328
経常費用計	62,008,841	57,674,033	4,334,808
当期経常増減額	1,527,282	-359,991	1,887,273
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
退職給付引当金戻入	516,146	0	516,146
経常外収益計	516,146	0	516,146
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	516,146	0	516,146
当期一般正味財産増減額	2,043,428	-359,991	2,403,419
一般正味財産期首残高	78,348,480	78,708,471	-359,991
一般正味財産期末残高	80,391,908	78,348,480	2,043,428
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	80,391,908	78,348,480	2,043,428

平成26年度正味財産増減計算書内訳表

平成26年 4 月 1 日から平成27年 3 月31日まで

(単位：円)

科 目	実施事業等会計			その他事業会計				法人会計					総合計 (H26年度 決算)
	継続事業	共通	継続事業	契約約款 事業	支部活動 事業	共通	その他 事業	継続事業 管理費	その他事 業管理費	管理費	法人会計	内部取引 消去	
I 一般正味財産増減の部													
1. 経常増減の部													
(1) 経常収益													
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33,663,775	0	33,663,775
個人正会費受取会費			0				0	0	0	0	9,207,075		9,207,075
個人正会費（地方）受取会費			0				0	0	0	0	827,400		827,400
団体正会費受取会費			0				0	0	0	0	23,612,500		23,612,500
準会費受取会費			0				0	0	0	0	16,800		16,800
支部活動収入			0		1,549,760		1,549,760	0	0	0		1,549,760	0
事業収益	19,280,329	0	19,280,329	4,521,462	7,612,352	0	12,133,814	0	0	0	0	1,727,792	29,686,351
継続事業収益	19,280,329		19,280,329				0	0	0	0		506,432	18,773,897
その他事業収益			0	4,521,462	7,612,352		12,133,814	0	0	0		1,221,360	10,912,454
雑収益	78,161		78,161		107,836		107,836	0	0	0			185,997
引当金繰入収入			0				0			0	0		0
経常収益計	19,358,490	0	19,358,490	4,521,462	9,269,948	0	13,791,410	0	0	0	33,663,775	3,277,552	63,536,123
(2) 経常費用										0			
事業費	35,985,165	3,614,638	39,599,803	2,464,022	6,024,280	0	8,488,302	0	0	0	0	1,727,792	46,360,313
給料手当	16,544,774		16,544,774	0	0		0	0	0	0			16,544,774
法定福利費	2,952,352		2,952,352	0	0		0	0	0	0			2,952,352
事業費	14,976,058	3,614,638	18,590,696	2,453,654	5,408,534		7,862,188	0	0	0		1,727,360	24,725,524
雑費	1,511,981		1,511,981	10,368	615,746		626,114	0	0	0		432	2,137,663
管理費	0	0	0	0	0	0	0	14,443,215	2,755,073	17,198,288	0	1,549,760	15,648,528
給料手当			0				0	4,883,632	0	4,883,632			4,883,632
法定福利費			0				0	984,117	0	984,117			984,117
退職給付費用			0				0	456,679	0	456,679			456,679
福利厚生費			0				0	21,000	0	21,000			21,000
会議費			0				0	971,801	726,190	1,697,991			1,697,991
旅費交通費			0				0	6,400	185,115	191,515			191,515
通信運搬費			0				0	151,549	146,282	297,831			297,831
集金費			0				0	491,002	0	491,002			491,002
消耗品費			0				0	667,108	90,298	757,406			757,406
備品購入費			0				0	0	0	0			0
修繕費			0				0	2,504	0	2,504			2,504
印刷製本費			0				0	63,720	0	63,720			63,720
光熱水料費			0				0	106,907	0	106,907			106,907
賃借料			0				0	2,134,925	0	2,134,925			2,134,925
保険料			0				0	21,710	0	21,710			21,710
諸謝金			0				0	0	0	0			0
委託費			0				0	0	0	0			0
事務委託費			0				0	0	1,370,736	1,370,736			1,370,736
租税公課			0				0	554,150	0	554,150			554,150
助成費			0				0	1,549,760	0	1,549,760		1,549,760	0
雑費			0				0	1,376,252	236,452	516,146			516,146
経常費用計	35,985,165	3,614,638	39,599,803	2,464,022	6,024,280	0	8,488,302	14,443,215	2,755,073	17,198,288	0	3,277,552	62,008,841
当期経常増減額	-16,626,675	-3,614,638	-20,241,313	2,057,440	3,245,668	0	5,303,108	-14,443,215	-2,755,073	-17,198,288	33,663,775	0	1,527,282
2. 経常外増減の部													
(1) 経常外収益													
経常外収益計											516,146		516,146
(2) 経常外費用													
経常外費用計													0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	516,146	0	516,146
当期一般正味財産増減額	-16,626,675	-3,614,638	-20,241,313	2,057,440	3,245,668	0	5,303,108	-14,443,215	-2,755,073	-17,198,288	34,179,921	0	2,043,428
一般正味財産期首残高	61,428,436		58,049,747	2,015,048	2,796,635	0	4,811,683	-16,300,938	-2,907,737	-19,208,675	34,695,725	0	78,348,480
一般正味財産期末残高	44,801,761	-3,614,638	37,808,434	4,072,488	6,042,303	0	10,114,791	-30,744,153	-5,662,810	-36,406,963	68,875,646	0	80,391,908
II 指定正味財産増減の部													
当期指定正味財産増減額			0				0			0			0
指定正味財産期首残高			0				0			0			0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	44,801,761	-3,614,638	37,808,434	4,072,488	6,042,303	0	10,114,791	-30,744,153	-5,662,810	-36,406,963	68,875,646	0	80,391,908

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
その他の有価証券 時価のあるもの……期末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）によっている。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
什器備品……定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
退職給付引当金……期末退職給与の要支給額を引当てている。
- (4) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	0	0	0	0
特定資産				
記念事業積立預金	27,000,000	0	0	27,000,000
事業基金積立預金	29,000,000	0	0	29,000,000
退職給付引当資産	10,081,954	0	993,606	9,088,348
小 計	66,081,954	0	993,606	65,088,348
合 計	66,081,954	0	993,606	65,088,348

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
小 計	0	—	—	—
特定資産				
記念事業積立預金	27,000,000	—	(27,000,000)	—
事業基金積立預金	29,000,000	—	(29,000,000)	—
退職給付引当資産	9,088,348	—	(59,467)	(9,028,881)
小 計	65,088,348	—	(56,059,467)	(9,028,881)
合 計	65,088,348	—	(56,059,467)	(9,028,881)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	1,112,560	1,001,300	111,260
合 計	1,112,560	1,001,300	111,260

付属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2に記載しているので、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	10,081,954	456,679	993,606	516,146	9,028,881

財産目録

平成27年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	27,654,972		
現金手許有高	60,923		
普通預金 三井住友銀行大阪中央支店	9,915,258		
普通預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	9,401,571		
普通預金 りそな銀行北浜支店	491,238		
郵便振替口座 マーチンダイズビル内支店	2,886,244		
普通預金 郵貯銀行マーチャンダイズビル内支店	38,032		
普通預金 広島銀行本川支店	1,291,767		
普通預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	892,556		
普通預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	1,008,494		
定期預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	1,505,030		
普通預金 みずほ銀行京都中央支店	56,781		
普通預金 郵貯銀行御池柳馬場支店	105,316		
郵便振替口座 御池柳馬場支店	1,762		
貯蔵品	42,089		
切手・はがき	42,089		
未収入金	1,075,250		
会誌収入	282,400		
個人正会員会費収入	765,600		
地方会員会費収入	21,000		
団体正会員会費収入	6,250		
前払費用	824,862		
教育委員会事業費	824,862		
仮払金	66,152		
見学会・会議保険料	66,152		
流動資産合計		29,663,325	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計		0	
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	27,000,000		
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	11,000,000		
定期預金 りそな銀行北浜支店	13,000,000		
定期預金 三井住友銀行大阪中央支店	1,000,000		
普通預金 りそな銀行北浜支店	2,000,000		
事業基金積立預金	29,000,000		
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	9,000,000		
定期預金 りそな銀行北浜支店	20,000,000		
退職給付引当資産	9,088,348		
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	9,088,348		
特定資産合計	65,088,348		
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260		
書棚 1 式	111,260		
投資有価証券	447,879		
中期国債ファンド 三菱UFJモルガン・スタンレー証券	447,879		
保証金・敷金	3,527,250		
本部事務所賃貸契約による保証金	3,436,650		
京都支部事務所貸借敷金	90,600		
その他固定資産合計	4,086,389		
固定資産合計		69,174,737	
資産合計			98,838,062
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,427,164		
会誌発行費	137,224		
10年委員会費	251,640		
租税公課	1,038,300		
前受金	7,874,348		
個人正会員会費収入	2,093,600		
団体正会員会費収入	5,187,498		
地方会員会費収入	120,450		

科 目	金 額		
準会員会費収入	16,800		
会誌収入	456,000		
預り金	115,761		
給与源泉税預り	28,270		
報酬源泉税預り	84,918		
語振込外	2,573		
流動負債合計		9,417,273	
2. 固定負債			
退職給付引当金	9,028,881		
固定負債合計		9,028,881	
負債合計			18,446,154
正味財産			80,391,908

収支計算書

平成26年 4 月 1 日から平成27年 3 月31日まで (単位：円)

科 目	予算額	決算額	内部取引 消 去 額	連 結 決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
会費収入	32,701,628	33,663,775	0	33,663,775	-962,147
個人正会員	9,242,430	9,207,075	0	9,207,075	35,355
個人正会員 (地方)	806,395	827,400	0	827,400	-21,005
団体正会員	22,636,003	23,612,500	0	23,612,500	-976,497
準会員	16,800	16,800	0	16,800	0
支部活動収入	1,455,300	1,549,760	-1,549,760	0	1,455,300
事業収入	31,857,000	31,414,143	-1,727,792	29,686,351	2,170,649
事業収入	30,977,000	30,729,343	-1,727,792	29,001,551	1,975,449
事業雑収入	880,000	684,800	0	684,800	195,200
雑収入	171,978	185,997	0	185,997	-14,019
雑収入 (支部正味財産繰入収入)	60,252	0	0	0	60,252
前受金収入	0	7,874,348	0	7,874,348	-7,874,348
前払費用収入	0	831,862	0	831,862	-831,862
仮払金収入	0	655,495	0	655,495	-655,495
預り金収入	0	4,306,471	0	4,306,471	-4,306,471
貯蔵品収入	0	0	0	0	0
事業活動収入計	66,246,158	80,481,851	-3,277,552	77,204,299	-10,958,141
2. 事業活動支出					
事業費支出	42,952,997	44,473,467	-1,727,792	42,745,675	207,322
事業関係人件費支出	15,285,497	17,592,690	0	17,592,690	-2,307,193
事業費支出	27,437,500	26,692,242	-1,727,792	24,964,450	2,473,050
事業雑支出	230,000	188,535	0	188,535	41,465
管理費支出	24,286,766	21,349,853	-1,549,760	19,800,093	4,486,673
管理関係人件費支出	8,090,332	5,867,749	0	5,867,749	2,222,583
退職給付支出	993,606	993,606	0	993,606	0
福利厚生費支出	10,000	21,000	0	21,000	-11,000
助成費支出	1,455,300	1,549,760	-1,549,760	0	1,455,300
会議費支出	1,803,375	1,697,991	0	1,697,991	105,384
旅費交通費支出	262,460	191,515	0	191,515	70,945
通信運搬費支出	526,000	449,380	0	449,380	76,620
集金費支出	548,645	491,002	0	491,002	57,643
消耗品支出	1,669,000	1,424,513	0	1,424,513	244,487
備品購入費支出	150,000	0	0	0	150,000
修繕費支出	25,000	2,504	0	2,504	22,496
印刷製本費支出	30,000	63,720	0	63,720	-33,720
光熱費支出	220,000	213,814	0	213,814	6,186
火災保険料支出	25,000	21,710	0	21,710	3,290
租税公課支出	730,000	1,108,300	0	1,108,300	-378,300
建物管理費支出	4,480,196	4,269,849	0	4,269,849	210,347
事務委託費支出	1,365,600	1,370,736	0	1,370,736	-5,136
雑支出	1,902,252	1,612,704	0	1,612,704	289,548
記念事業費支出	150,000	0	0	0	150,000
前受金支出	0	2,848,073	0	2,848,073	-2,848,073
預り金支出	0	4,486,417	0	4,486,417	-4,486,417
前払費用支出	0	0	0	0	0
仮払金支出	0	666,347	0	666,347	-666,347

科 目	予算額	決算額	内部取引 消 去 額	連 結 決 算 額	差 異
貯蔵品支出	0	8,530	0	8,530	-8,530
事業活動支出計	67,389,764	73,832,687	-3,277,552	70,555,135	-3,165,371
事業活動収支差額	-1,143,606	6,649,164	0	6,649,164	-7,792,770
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
特定資産取崩収入					
退職給付引当資産取崩収入	993,606	1,450,285	0	1,450,285	-456,679
記念事業積立預金取崩収入	150,000	0	0	0	150,000
投資活動収入計	1,143,606	1,450,285	0	1,450,285	-306,679
2. 投資活動支出					
特定資産取得支出	0	456,679	0	456,679	-456,679
退職給付引当資産取得支出	0	456,679	0	456,679	-456,679
記念事業積立預金支出	0	0	0	0	0
事業基金積立預金支出	0	0	0	0	0
中期国債ファンド積立支出	0	184	0	184	-184
保証金支出	0	0	0	0	0
投資活動支出計	0	456,863	0	456,863	-456,863
投資活動収支差額	1,143,606	993,422	0	993,422	150,184
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入計	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出					
財務活動支出計	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0
IV 予備費支出					
当期収支差額	0	7,642,586	0	7,642,586	-7,642,586
前期繰越収支差額	0	19,660,472	0	19,660,472	-19,660,472
次期繰越収支差額	0	27,303,058	0	27,303,058	-27,303,058

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金・預金・未収入金及び未払金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記 2 に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金 預 金	17,161,166	27,654,972
未 収 入 金	2,820,717	1,075,250
合 計	19,981,883	28,730,222
未 払 金	321,411	1,427,164
合 計	321,411	1,427,164
次期繰越収支差額	19,660,472	27,303,058

平成27年度事業計画

平成27年 4月1日～平成28年 3月31日

1. 平成26年度の概況

平成26年度のわが国経済をみると、個人消費等に弱さがみられ、年度前半には実質GDP成長率がマイナスとなるなど、不安定要素があったが、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」の一体的推進により、緩やかな回復基調が続いた。

このような景気回復基調を背景に、建設業界の平成26年度建設工事受注高は、77兆6688億円で前年度比2.3%増となった。住宅や工場といった民間設備の投資の伸びが目立った。

一方、労働者不足や資材価格の上昇などの課題は依然として解消されておらず、今後も引き続きその解決に向けての取組が求められる。

日本建築協会の運営については、「建築と社会」誌の広告収入をはじめとする事業収入の増と管理費の抑制等により、正味財産が増加するなど少々改善されたものの、収入の大きな部分を占める会費の減少は続いており、依然として厳しい状況である。

事業については、「建築と社会」誌の発行をはじめ見学会や講演会・講習会の開催、「建築と社会」賞をはじめとした各種顕彰事業やコンクール、建築関係団体との交流・連携、100周年を視野に入れた各種事業を引き続き実施するとともに、100周年記念事業の企画・調整を行う準備委員会を立ち上げた。

また、人材の発掘・育成の視点から35歳以下の若手設計者による「U35小委員会」の運営や青年技術者の顕彰や工高生デザインコンクール、中堅クラスを対象とした実務講習会などを実施した。

2. 平成27年度の活動方針

平成27年度のわが国の経済は、雇用・所得環境が引き続き改善し、好循環が更に進展するとともに、堅調な民需に支えられた景気回復が見込まれる。

民間住宅投資についても、雇用・所得環境の改善に加え、住宅関係の政策効果等により、ゆるやかに持ち直し平成27年度は実質で対前年度比1.5%程度の増加が見込まれている。

また、平成32年の東京オリンピック・パラリンピックの開催は、建設事業をはじめ公共関係のインフラ整備や設備投資が大きく膨らむなど、建設業界にとって追い風と言えよう。

平成27年度の日本建築協会は、協会の中心事業である「建築と社会」誌をはじめ、数々の活動を引き続き展開するとともに、新企画にも挑戦していく。

平成27年度予算については、「建築と社会」誌の周年特集や大規模建築物の企画特集が見込めないことによる広告収入の減と会員の減少による会費収入の落ち込みにより、収入、支出とも前年度を下回った。協会としては、個人や企業に対しわれわれの役割を積極的にアピールするとともに、魅力あるプログラムを提供し会員の増強を図らなければならない。

個々の事業についても増収、増益を図るための仕掛けが必要である。特に協会事業のメインである「建築と社会」誌については、周年事業の有無に左右されない安定した広告収入に力を入れるとともに、新しい試みにも挑戦するなど、より一層の努力が求められる。

支出については、収入減に合わせ事業経費および管理費を抑制する。

特に、予算規模の大きな「建築と社会」誌につい

ては、発行経費のきめ細やかな抑制を図るとともに他の事業についても抑制に努め、事業費のコスト削減を図る。管理費についても昨年度に続き一層の削減に努める。

引き続き、増収を図り支出を抑えることにより、財務体質の強化に努め、協会の活性化を図る。

「建築と社会」誌は、新たな切り口での連載物を掲載するとともに会員発表のコーナーを充実するなど記事、内容をより一層豊かなものとする。時代に応じたテーマによる催しや近代建築物の見学会、講演会、講習会、出版物の企画・発行、建築関係団体との交流・連携事業など、数々の活動を引き続き展開していく。

人材の発掘・育成にも積極的に取り組む。「U-35小委員会」をはじめ、未来を担う若い優秀な技術者を発掘する青年技術者の顕彰や工高生デザインコンクール、「建築工事実務講習会」などにも引き続き取り組む。

協会は平成29年に創立100周年を迎える。平成27年度は、記念事業を具体化するための「100周年記念事業委員会」を発足させ、「記念誌」をはじめ「関西の建築界/群像」や「再読関西近代建築」を100周年記念誌としての発行を検討する。

3. 平成27年度活動計画

(1) 編集委員会

協会の会誌「建築と社会」誌の企画・編集および青年技術者の顕彰と読者と選ぶ「建築と社会賞」の顕彰を実施している。

①会誌「建築と社会」の発行

- ・会誌「建築と社会」は、大正6年の創立以来、当協会活動の中核として会員相互あるいは会員と社会を結ぶ役割を果たしてきた。
- ・平成27年度は、新たに「建築を通じて社会に貢献する」という本会の設立趣旨を再確認し、社会に貢献する建築のあり方、建築技術者の役割などを、論考、取り組み事例などを連載で掲載する。また、投稿やレポートなど会員の発表の場を充実するなど、記事、内容をより一層広げる。

②青年技術者の顕彰

- ・満35歳以下の青年技術者を対象とする青年技術者顕彰制度は、平成26年度で61回に達し、建築界の優秀な人材を顕彰してきた。平成17年度からその意義をより一層深めるため、表彰式および受賞者も出席しての懇親会をあわせて実施している。
- ・平成27年度も引続き実施するとともに、表彰式を総会後の懇親会時に実施する。

③「建築と社会賞」の顕彰

- ・従来からの「作品部門」、「論考部門」に加え平成27年度から作品の企画や活動報告、寄稿等にスポットをあてた「審査員特別賞」を新設。表彰式は総会後の懇親会時に実施する。

(2) 事業委員会

著名建築物や茶室、近代建築などの見学会、話題建築を紹介する講演会、研修会などを実施している。また、若手建築技術者が新しい視点による活動を行っている。

①見学会等の実施

- ・時代に応じたテーマによる講演会などの催しや新建築や古建築などの見学会を毎年度実施している。話題建築については、設計者・施工者等から話を聞く場を設けている。
- ・平成27年度も前年度同様4回程度の見学会を実施するとともに、講演会を1回程度実施する。

②若手建築技術者の新しい視点による活動

- ・概ね35歳以下の若手建築技術者の活動の場として、立ち上げた「U-35小委員会」は、若手自らの企画による催し等を行い、若手会員の増強と協会活動の活性化を目指す。

(3) 出版委員会

平成27年度は、引き続き建築に関する図書の企画・編集・刊行を計画している。

(4) 教育委員会

建築工事実務講習会や工高生を対象とした建築に関するデザインコンクール、優秀な建築科卒業生の表彰などを行っている。また、大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会が実施する諸行事に協力している。

①建築工事実務講習会の実施

- ・昭和32年以降、毎年主として初・中堅クラス
- の建築技術者を対象に標記講習会を実施している。平成26年度までに延90回を数えている。
- ・平成26年度は、本部、中国・東海支部とも1日コースを各1回実施した。
- ・平成27年度も本部、中国・東海支部でそれぞれ1回実施する。

②工高生デザインコンクールの実施

- ・昭和30年に創設し平成26年度で60回を数えた。
- ・平成26年度は参加校数、作品数とも増加した。
- ・平成27年度はさらに参加校数、作品数の増加を目指す。

③建築科優秀卒業生の表彰

- ・平成27年度も会員校および会誌購読校を対象に実施する。

④大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会への参画

- ・平成27年度も協議会が実施する諸行事に協力する。

(5) 100周年関連事業

平成29年の創立100周年という大きな節目に実施する記念事業のあり方について具体化するため、「創立100周年記念事業委員会」を立ち上げ、「100周年記念誌」をはじめ「建築と社会」誌への連載を終えた「再読 関西近代建築」、「関西の建築界/群像」について記念誌としての出版について企画検討する。

10年委員会では、引き続き見学会を実施するとともに「大阪ええとこそうせい（創生）プロジェクト」の新たな方向性を探る。

①創立100周年記念事業委員会

- ・平成27年度は、記念誌の出版をはじめ式典やイベントなどの具体化に向け「記念誌出版WG」、「式典WG」、「次世代WG」の3つのWGを立ち上げ企画内容を検討する。

②10年委員会

- ・建築現場見学会の実施
次世代の建築界を担う人材の育成に繋がることを目的として、学生向けに設計の意図を活かした建築現場やそれを支える施工者の工夫、現代技術を駆使した工場での製作過程など、さまざまな“ものづくり”の実際を総合的に体感できる場を提供する。平成27年度は26年度同様2回程度実施する。
- ・大阪ええとこそうせい（創生）プロジェクトの実施
平成27年度は100周年に向けて社会実験的な事業の可能性に向けて検討を行う。

(7) 工事請負契約約款事業

- ・民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款委員

会に委員を派遣するとともに、「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」を販売する。

- 「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約約款」、「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」の販売を積極的に行う。

(8) 他団体との交流、連携

- 建築関係をはじめとする各団体と交流・連携事業を行う。特に、平成21年度から進めてきた関西建築4団体（大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会）会長・支部長懇談会における連携活動を引き続き推進する。
- 平成27年度も4団体が緊密な連携で、共同でできることを検討・実行していく。

(9) 支部活動

中国支部

(1) 指導、宣伝、技術向上事業

- 「講演会」や「建築工事実務講習会」、「『建築と社会』中国支部の企画・編集」を行う。
- 平成27年度は、東海支部と合同で見学会やセミナーを実施する。
- 支部活性化事業として、ホームページの充実、

会員名簿を編さんする。

(2) 協力事業

- 行政や団体が実施する講演会、フォーラム、建築展などの事業に共催、協力を行う。

(3) 他団体との連絡、連携

- 官公庁との連絡会や新年互礼会など建築8団体と連携する。

(4) 工事請負契約約款の販売

- 「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」をはじめ「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約約款」および「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」を販売する。

東海支部

(1) 会議、会合への参加

- 愛知県建築開発等行政推進団体協議会、中部建築賞協議会など各種団体の会議や会合などに参加する。

(2) 指導、宣伝、技術向上事業

- 「講演会・見学会」や「建築工事実務講習会」、「『建築と社会』東海特集号の企画・編集」を行う。
- 特に、平成27年度は支部設立55周年に当たるため、記念事業として中国支部と合同で見学会や

セミナーを実施する。

- 支部活性化事業として、機関誌「東海の建築」の刊行やホームページの充実、会員名簿を発行する。

(3) 協力事業

- 行政や団体が実施する講演会、フォーラム、建築展などの事業に共催、協力を行う。

(4) 他団体との連絡、連携

- 官公庁との連絡会や新年互礼会など建築8団体と連携する。

京都支部

(1) 指導、宣伝、技術向上事業

- 「見学会」や「研修会」を行う。

(2) 協力事業

- 行政や団体が実施する「講演会」や「2級建築士受験講習会」などの事業に共催、協力を行う。

(3) 工事請負契約約款の販売

- 「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」をはじめ「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約約款」および「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」を販売する。

平成27年度収支予算

平成27年 4 月 1 日から平成28年 3 月31日まで

(単位：千円)

科 目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考	科 目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考
Ⅰ 事業活動収支の部									
1. 事業活動収入					印刷製本費支出	30	30	0	印刷製本費
①会費収入					光熱費支出	220	220	0	電気代
個人正会費	8,717	9,242	-525	14,400円／1名	火災保険料支出	25	25	0	火災保険料
個人正会費(地方)	823	806	17	12,600円／1名	租税公課支出	999	730	269	消費税、法人府市民税
団体正会費	22,662	22,636	26	25,000円／1口	建物管理費支出	4,300	4,480	-180	事務所賃借料等
準会費	17	17	0	8,400円／1名	事務委託費支出	1,371	1,366	5	支部事務局委託費
会費収入計	32,218	32,702	-484		雑支出	1,747	1,902	-155	監査、保守、協賛、購読、未収金償却外
②支部活動収入	1,435	1,455	-20	本部から支部への活動収入	管理費支出計	21,958	24,287	-2,329	
支部活動収入計	1,435	1,455	-20		③記念事業費支出				
③事業収入					記念事業費支出	150	150	0	100周年記念事業準備費
事業収入	24,853	30,977	-6,124	本部及び支部の事業収入	事業活動支出計	61,047	67,390	-6,343	
事業雑収入	842	880	-38	会員交流会、事業協力金外	事業活動収支差額	-990	-1,144	154	
事業収入計	25,695	31,857	-6,162		Ⅱ 投資活動収支の部				
④雑収入	186	172	14	利息、雑損処理後の過年度会費外	1. 投資活動収入				
⑤支部正味財産前期増加分繰入	523	60	463	前期支部正味財産増加分を繰入	①特定資産取崩収入				
事業活動収入計	60,057	66,246	-6,189		退職給付引当資産取崩収入	958	994	-36	今年度退職職員退職金充当
2. 事業活動支出					記念事業積立預金取崩収入	150	150	0	100周年記念事業準備に充当
①事業費支出					投資活動収入計	1,108	1,144	-36	
事業関係人件費支出	17,147	15,285	1,862	法定福利費含む	2. 投資活動支出				
事業費支出	21,512	27,437	-5,925	本部及び支部の事業費	①特定資産取得支出				
事業雑支出	280	230	50	会員交流会外	退職給付引当資産取得支出	0	0	0	今年度積立不要
事業費支出計	38,939	42,953	-4,014		記念事業積立預金支出	0	0	0	現状予定なし
②管理費支出					特定資産取得支出計	0	0	0	
管理関係人件費支出	5,716	8,090	-2,374	法定福利費含む	投資活動支出計	0	0	0	
退職給付支出	958	994	-36	今年度退職職員退職金	投資活動収支差額	1,108	1,144	-36	
福利厚生費支出	25	10	15	職員福利厚生費	Ⅲ 財務活動収支の部				
助成費支出	1,435	1,455	-20	本部から支部への活動費	1. 財務活動収入				
会議費支出	1,850	1,803	47	本部・支部総会外会議費	財務活動収入計	0	0	0	
旅費交通費支出	308	262	46	旅費、交通費	2. 財務活動支出				
通信運搬費支出	510	526	-16	電話、FAX、メール、郵送等通信費	財務活動支出計	0	0	0	
集金費支出	500	549	-49	会費、グループ会費、広告料集金手数料等	財務活動収支差額	0	0	0	
消耗品費支出	1,823	1,669	154	HP維持費、PCソフト、トナー、文房具外消耗品	Ⅳ 予備費支出				
備品購入費支出	120	150	-30	事務所内備品	当期収支差額	118	0	118	
修繕費支出	20	25	-5	事務所内修繕費	前期繰越収支差額	19,660	19,660	0	
					次期繰越収支差額	19,778	19,660	118	

平成27年度正味財産増減予算

平成27年 4 月 1 日から平成28年 3 月31日まで

(単位：千円)

会
告

科 目	実施事業等 会計	その他事業 会計	法人会計			総合計 (H26年度 予算)	前年度予算	増減
	継続事業	その他事業	管理費	法人会計	内部取引消去			
Ⅰ 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
受取会費	0	0	0	32,218	0	32,218	32,702	-483
個人正会費受取会費	0	0	0	8,717		8,717	9,242	-526
個人正会費（地方）受取会費	0	0	0	823		823	806	16
団体正会費受取会費	0	0	0	22,662		22,662	22,636	26
準会費受取会費	0	0	0	17		17	17	0
支部活動収入	0	1,435	0		1,435	0	0	0
事業収益	15,447	10,248	0	0	1,386	24,309	30,488	-6,179
継続事業収益	15,447	0	0		569	14,878	17,553	-2,675
その他事業収益	0	10,248	0		817	9,431	12,935	-3,504
雑収益	80	106	0			186	172	14
退職給付収益	0	0	0	958		958	994	-35
経常収益計	15,527	11,789	0	33,177	2,821	57,672	64,355	-6,683
(2) 経常費用								0
事業費	35,909	6,775	0	0	1,386	41,298	45,389	-4,091
給料手当	15,645	0	0			15,645	14,614	1,031
法定福利費	2,937	0	0			2,937	2,714	223
臨時雇賃金	6	0	0			6	0	6
旅費交通費	443	3	0			446	377	69
通信運搬費	1,478	260	0			1,738	1,883	-145
消耗品費	917	44	0			961	997	-36
印刷製本費	6,903	446	0			7,349	8,566	-1,217
光熱水料費	110	0	0			110	110	0
賃借料	2,150	0	0			2,150	2,385	-235
保険料	22	0	0			22	13	9
諸謝金	2,389	436	0		56	2,769	2,675	94
租税公課	499	2,887	0			3,387	526	2,861
委託費	828	2,013	0		1,330	1,511	9,157	-7,646
雑費	1,583	685	0			2,267	1,371	896
管理費	0	0	18,363	0	1,435	16,928	19,176	-2,248
給料手当	0	0	4,737			4,737	6,792	-2,056
法定福利費	0	0	979			979	1,298	-319
退職給付費用	0	0	958			958	994	-35
福利厚生費	0	0	25			25	10	15
会議費	0	0	1,850			1,850	1,803	47
旅費交通費	0	0	308			308	262	46
通信運搬費	0	0	350			350	361	-11
集金費	0	0	500			500	549	-48
消耗品費	0	0	1,148			1,148	894	254
備品購入費	0	0	120			120	150	-30
修繕費	0	0	20			20	25	-5
印刷製本費	0	0	30			30	30	0
光熱水料費	0	0	110			110	110	0
賃借料	0	0	2,150			2,150	2,240	-90
保険料	0	0	25			25	25	0
諸謝金	0	0	0			0	0	0
委託費	0	0	0			0	0	0
事務委託費	0	0	1,371			1,371	1,366	5
租税公課	0	0	499			499	365	134
助成費	0	0	1,435		1,435	0	0	0
雑費	0	0	1,747			1,747	1,902	-155
経常費用計	35,909	6,775	18,363	0	2,821	58,226	64,565	-6,339
当期経常増減額	-20,382	5,014	-18,363	33,177	0	-555	-210	-344
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計						0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計						0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-20,382	5,014	-18,363	33,177	0	-555	-210	-344
一般正味財産期首残高	37,808	10,115	-36,407	68,876	0	80,392	78,138	2,254
一般正味財産期末残高	17,427	15,129	-54,770	102,052	0	79,837	77,928	1,909
Ⅱ 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0			0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0			0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高								
	17,427	15,129	-54,770	102,052	0	79,837	77,928	1,909

平成27年度
日本建築協会役員会務分掌

平成27年 6月17日現在・順不同・敬称略

役付役員

会 長	香西喜八郎	（株）東畑建築事務所
副会長	設楽 貞樹	（株）安井建築設計事務所 会長職務代行 編集・研修担当
副会長	* 田中日出男	（株）きんでん 会勢・事業担当
副会長	天野 直樹	（株）竹中工務店 企画・財務担当
副会長	大井 昇二	（株）大林組 会勢・事業担当
副会長	領木 康雄	（株）大阪ガス 総務・事務局担当
副会長	本多 友常	摂南大学 編集・研修担当

理事 ◎印は常任理事及び委員長

（総務） 5名 大林 剛郎 （株）大林組 栗原 信英 栗原工業（株） 佐野 吉彦 （株）安井建築設計事務所 立野 純三 （株）ユニオン ◎山形 政昭 大阪芸術大学 （財務） 3名 奥村太加典 （株）奥村組 今西 邦夫 （株）今西組 石井 祐司 東リ（株） （編集・出版） 8名 ◎西 博康 清水建設（株） *松崎 公一 鹿島建設（株） 佐藤 榮一 （一社）日本建築材料協会 竹中 統一 （株）竹中工務店 杉本 浩 （公財）建築技術教育普及センター 松本 眞一 関西電力（株） 吉村 英祐 大阪工業大学 ◎米井 寛 （株）東畑建築事務所 （会勢） 10名 浅沼 健一 （株）浅沼組		池内 哲郎 野里電気工業（株） 鳶田 守弘 （株）鴻池組 *田中 完治 清水建設（株） 近藤 徹 不二熱学工業（株） 光用 薫 戸田建設（株） 藤原 富男 （一社）大阪建設業協会 *篠原 佳則 （株）安井建築設計事務所 高松 隆夫 広島工業大学 中井 進 田建設コンストラクション・マネジメント（株） （事業） 4名 ◎児玉 謙 （株）日建設計 城口 俊雄 （株）大阪城口研究所 伴 治人 西松建設（株） 中嶋 功 （株）熊谷組 （研修） 5名 岩橋 貞雄 八千代電設工業（株） *長瀬 博一 （有）長瀬建築研究所 *金井 隆夫 大成建設（株） 梶山 卓二 （株）昭和設計 永原 穰 王建工業（株）
常務理事 森本 勉 役付役員含む理事合計43名		

*印は新任

監事 2名	三木 徹 （株）安井建築設計事務所 前田 隆司 （株）前田商会
----------	------------------------------------

顧問	中田 誠 （有）都市再生機構
----	----------------

平成27年度
日本建築協会評議員

議 長：村上幸三郎 副議長：嘉納 秀一

平成27年 6月1日現在・順不同・敬称略

技術 1	村上幸三郎 村上デザイン事務所	
総合 12	薮内 昭男 （株）浅沼組 熊木 徹 （株）安藤・間 赤松 千州 （株）竹中工務店 村田 俊彦 （株）大林組 林 伸昭 戸田建設（株）	*野々上昌博 （株）鴻池組 浅野 博光 （株）奥村組 毛利 俊彦 三井住友建設（株）
	中道 正伸 （株）中道組 原 眞一 コーナン建設（株）	田中顕三郎 田中建設（株） *藤井謙太郎 藤井建設（株）
電気 4	北村 康一 （株）きんでん 森 博明 三和電気土木工事（株）	嘉納 秀一 三宝電機（株） 嶋田 雅景 （株）クリハラント
空調 3	安原 和利 （株）精研	生島 清好 （株）三冷社 若林 尚史 若林設備工業（株）
建材 2	森村 泰明 森村金属（株）	深江 隆司 アスワン（株）
中国 2	嶋津 孝之 広島大学	村重 保則 村重保則現代建築設計事務所（株）
東海 6	小宮 三辰 三辰設計 河田 克博 名古屋工業大学 芳山 明久 ー	後藤 利秋 （有）和光建築計画研究所 中村 哲士 アトリエ・N I 級建築士事務所 *松元 親司 （株）東畑建築事務所
京都 2	高田 光雄 京都大学大学院 山田 昌次 花豊造園（株）	

32名 *印は新任

平成27年度
日本建築協会支部長（順不同・敬称略）

中 国	高松 隆夫 広島工業大学
東 海	篠原 佳則 （株）安井建築設計事務所
京 都	長瀬 博一 （有）長瀬建築研究所

平成27年度

日本建築協会委員

下記のとおり各委員会委員を委嘱しました。

◎委員長 ○副委員長 ▲小委員会委員長 △幹事 ☆顧問 *27年度新委員
(所属名は略称 順不同・敬称略)

■編集委員会 (84名)

会誌「建築と社会」の企画・編集

◎ 米井 寛／東畑建築事務所

○ 勝山 太郎／日建設計

●特集小委員会

計画分科会

〈計画系〉

飯田 匡／大阪大学大学院

鈴木 克彦／京都工芸繊維大学大学院

△ 田中 直人／鳥根大学大学院

紅谷 昇平／神戸大学大学院

松田奈緒子

三宅 次郎／阪神電気鉄道

守井 辰／日建設計

吉村 英祐／大阪工業大学

〈建築計画系〉

荒木 宏之／大成建設

大西 広朗／東畑建築事務所

神戸 嘉也／大林組

静 茂夫／大建設計

下坂 浩和／日建設計

野田 隆史／竹中工務店

橋本 祐典／西日本旅客鉄道

樋口 展寛／鴻池組

△ 三谷 帯介／鹿島建設

米山 剛史／ユー・アール設計

渡部 剛／安井建築設計事務所

〈インテリア・住宅〉

今井 充彦／日建スペースデザイン

川合 隆之／積水ハウス

* 工藤 理隆／都市再生機構

△ 黒柳 亮／竹中工務店

酒井 雅男／大林組

塚口眞佐子／大阪樟蔭女子大学

ペリー史子／大阪産業大学

間瀬 一博／安井建築設計事務所

構造分科会

伊藤 栄治／安井建築設計事務所

△ 岡田 健／日建設計

岸本 光平／竹中工務店

司馬 勢也／ZEN建築構造事務所

瀧野 敦夫／奈良女子大学

角田 耕一／大林組

橋本 宗明／北條建築構造研究所

宮久保秀樹／鴻池組

向井 洋一／神戸大学大学院

設備分科会

* 有尾清二郎／竹中工務店

北野 勝也／きんでん

* 高村 聡／大阪市都市整備局

寺井 千佳／安井建築設計事務所

長澤 康弘／近畿大学

夏井 重行／元・富士ネオ工業

△ 橋本 直樹／日建設計・ストラクチャー・マネジメント

* 藤原 謙一／大阪市都市整備局

榊井 貴廣／総合設備コンサルタント

宮崎ひろ志／関西大学

* 山本 雅洋／大林組

施工材料分科会

荻果 友貴／鹿島建設

後藤 尉彦／鴻池組

△ 桜井 和男／竹中工務店

高橋 秀一／大和ハウス工業

藤丸 啓一／清水建設

* 山口 紀宏／大林組

* 吉田 正友／大阪工業大学

法令分科会

* 磯林 雅之／京都市都市計画局

岡本 亮二／堺市建築都市局

* 杏掛 靖／奈良県土木マネジメント部

△ * 黒川 正樹／神戸市住宅都市局

河野 学

前田 俊文／兵庫県土木整備部

作品作風小委員会

居内 章夫／徳岡設計

池上 明／エーアイアーキテクトスタジオ

稲垣 和江／イナガキケンチケンキュウシヨ

東井 嘉信／大林組

加嶋 章博／摂南大学

菊池 浩輔／安井建築設計事務所

倉橋 尉仁／東畑建築事務所

倉瀬奈千子／田中啓文総合建築研究所

澤田 純一／兵庫県土木整備部

* 高木 秀晃／昭和設計

鞆野 淳司／竹中工務店

豊田 充広／高松建設

▲ 西田 佳代／日建設計

芳谷 晴彦／清水建設

増田 敬彦／増田敬彦一級建築士事務所

広告企画小委員会

大谷 金由／大林組

小川 雄介／竹中工務店

小山 昭／東畑建築事務所

* 金築 雄／清水建設

藤田 昌宏／安井建築設計事務所

▲ 前田 衛／日建設計

山辻 直樹／大成建設

■事業委員会 (34名)

見学・講演・説明・展示・懇親会などの企画及び実施

◎ 児玉 謙／日建設計

情報見学小委員会

伊藤 好之／清水建設

大喜多孝哉／大林組

* 大平 卓磨／竹中工務店

* 奥村 朋孝／鴻池組

北野 勝也／きんでん

小平 弥史／昭和設計

小林 正和／大林組

田崎 祐生／武庫川女子大学

* 千本多加子／日建設計

槌田 豊／ジェイアール西日本コンサルタンツ

寺西 興一／摂南大学

▲ 豊田 充広／高松建設

* 中尾 勝悦／中尾総合建築設計事務所

夏井 重行／元・富士ネオ工業

沼田 典久／久米設計

樋上 新治／ラシンブランニング

南 次郎／元・浅沼組

宮本 克己／鹿島建設

森 雅章／安井建築設計事務所

脇田 隆史／東畑建築事務所

U-35 (小委員会)

* 伊藤 昭裕／佐藤総合計画

榎 恭志郎／大建設計

興津 俊宏／竹中工務店

駒井 陽次／Style Agency/PARK Lab.

下田 康晴／東畑建築事務所

* 長島 薫／東畑建築事務所

中村 祐記／大林組

西森 史裕／大林組

* 廣富 純／佐藤総合計画

松島 将太／大建設計

* 三谷 帯介／鹿島建設

* 宮武 慎一／安井建築設計事務所

△ 若江 直生／日建設計

■出版委員会 (10名)

建築に関する図書の企画・編集・刊行、ならびに講座の企画・実施

◎ 西 博康／清水建設

上原 正行／U建築工房

昇 勇／昇設計室

菅原 敏晃／竹中工務店

田中 正司／C.T.I.

玉水 新吾／ドクター住まい

仲本 尚志／atelier UNI-SUPPORT

藤山 宏／造景空間研究所

堀野 和人／スマイルズム。

森根 義久／日建設計

■教育委員会 (20名)

建築教育についての調査・研究・講習会の企画・実施ならびに工高生デザインコンクールなどの企画および実施

◎ 山形 政昭／大阪芸術大学

講習会小委員会

* 阿字地正人／大林組

* 柏木 隆男／松村組

勝野 哲博／戸田建設

門野 陽／鴻池組

川井 祐基／鹿島建設

北野 祥児／清水建設

* 森口 慶一／竹中工務店

* 森永 照夫／浅沼組

工高生教育小委員会

加治 大輔／大阪芸術大学

門脇 裕之／大阪市立都島工業高等学校

白川 陽子／大阪府立今宮工科高等学校

田中 裕子／大阪府立今宮工科高等学校

▲ 谷口 幸雄／日建設計・ストラクチャー・マネジメント

寺地 洋之／大阪工業大学

中村 眞二／東畑建築事務所

永島 敏郎／安井建築設計事務所

* 矢倉 鉄也／大阪市立都島工業高等学校

大阪府住まいづくり教育普及協議会

大喜多孝哉／大林組

川上比奈子／摂南大学

■100周年関連事業委員会 (30名)

100周年に向けた記念企画実施

関西の建築界／群像

◎ 本多 友常／摂南大学

神田 泰宏／竹中工務店

清原 健史／安井建築設計事務所

駒井 陽次／Style Agency/PARK Lab.

中川 卓／日建設計

三矢 大祐／東畑建築事務所

野口 伸／竹中工務店

岡村 吉展／大林組

吉永 規夫／Office for Environment Architecture

史料研究会 (再読 関西近代建築)

◎ 山形 政昭／大阪芸術大学

安達 英俊／安達英俊建築研究所

石田潤一郎／京都工芸繊維大学大学院

植松 清志／大阪人間科学大学

桐浴 邦夫／京都建築専門学校

酒井 一光／大阪歴史博物館

橋寺 知子／関西大学

吉田 高子

和田 康由／大阪市立都島第二工業高等学校

☆ 坂本勝比古／神戸芸術工科大学名誉教授

10年委員会

◎ 設楽 貞樹／安井建築設計事務所

赤木 隆／日建設計

* 大村 泰正／清水建設

門野 陽／鴻池組

川上比奈子／摂南大学

△ 菅原 幸也／日建設計・ストラクチャー・マネジメント

△ 中村 文紀／東畑建築事務所

○ 前川 治彦／前川治彦建築研究所

* 松村 明／安井建築設計事務所

三井 達雄／大林組

森口 憲一／竹中工務店

第14回学生のための
現場見学会
「(仮称) 城東区複合
施設建設工事」

- 所在地
大阪市城東区中央 3 丁目 5
- 交通
京阪電鉄「野江」下車
地下鉄今里筋線「蒲生四丁目」下車

新ダイビル
見学会

この見学会は、建築CPD情報提供
制度認定プログラム申請中です。
(2 単位)

【概要】	
建 築 主	ダイビル株式会社
設 計	株式会社日建設計
施 工	株式会社大林組
敷地面積	8,426.76㎡
建築面積	3,084.38㎡
延床面積	77,388.49㎡
構造規模	S造、SRC造、RC造 地上31階・地下2 階
竣 工	2015年 3 月
建物用途	事務所、店舗、駐車場

本施設は区役所、区民センター（約800席のホール併設）、図書館、老人福祉センターの複合施設です。「区のシンボルとなる施設」「複合することにより交流が生まれる施設」「隣接する公園と一体利用可能な施設」をコンセプトとしています。公園の緑に呼応するような屋根形状や、緑化スクリーン・木製庇・コンクリート庇による環境対策が見える化した外観、自然素材である天然木材を積極的に内装材として取り入れたホールなど、環境と共生する施設づくりも大きなテーマとなっています。見学の見どころとしては、通常目にする事が出来ないホール、ホワイエ等の吹抜け大空間の施工状況を始め、内装工事過程、コンクリートによる複雑な形状の屋根スラブ構築状況を見て頂けるところです。

設 計 日建設計
施 工 浅沼・中林特定建設工事共同企業体

かつて堂島米会所が開設されていたこの地は、今もビジネスや交流の拠点として栄え、目の前には堂島川・中之島・御堂筋という大阪を象徴する景観が広がる素晴らしい立地となっています。その中に村野藤吾氏設計で昭和33年に建設された旧・新ダイビルは横連窓と白い壁が堂島川に沿って展開する伸びやかで優美な姿を持つ名建築でした。また、当時としては先進的な試みとして、屋上に緑豊かな樹苑が設けられ、人々の憩いの場として永く親しまれてきました。今回、ビルの建替えにあたっては、その恵まれた立地条件を最大限に活かすこと、そして旧ビルの持っていた価値を現代に継承することをテーマに、豊かな眺望と緑に包まれ、自然と一体化した、高い快適性と先進性が融合するオフィスビルを目指しました。ビルは高層化を図ることで、足元に旧ビルの屋上樹園を継承する1000坪に渡る広大な「堂島の杜」を整備。旧屋上樹園からも樹木を移植した上、旧ビル壁面に設置されていた羊彫刻も取り外し角地に再配置し、快適な中にも歴史の厚みを感じる空間としました。外観は、重厚な中之島の建物群と向き合うことを意識し、石貼りの庇が力強く積層する彫りの深い質感あるデザインでビルの格をつくと共に、堂島川に呼応した旧ビルの横基調の伸びやかなイ

日 時 平成27年 9月25日(金)
13：30～16：00
定 員 40名
集合場所 参加証に記載
講 師 日建設計担当者
浅沼組担当者
申込方法 ①催し名
②学校名・学部・学科
③学生氏名・学年
④引率者 職名・氏名
(学生の場合不要)



外観バース

メージも継承したデザインとしました。庇は太陽高度に応じ南に1.8m、東西に3.2mの出を持ち、日差しを合理的にカットし、室内からの豊かな眺望の享受に貢献すると共に、空調負荷削減にも大きく寄与しています。さらには十分な自然換気システムや全館LED照明、構造体のアウトフレーム化による無柱整形空間の実現、災害時の高い電源供給能力対応など、環境・空間・BCPの側面においても非常に先進的で高品質な性能を確保しています。隣接する堂島公園も合わせて整備されたことで、堂島川の水景と堂島の杜が繋がり、街に自然の潤いが引き込まれました。新ダイビルと共に堂島の街がますます活性化していくことを期待しています。

日 時 2015年 7月31日(金)
14：00～16：30 (予定)
受付 13：30～
見 学 先 新ダイビル
所 在 地 大阪市北区堂島浜1-2-1
講 師 勝山太郎 (日建設計)
磯崎利幸 (大林組)
集 合 現地 (参加証に地図記載)
最 寄 駅 京阪：大江橋、淀屋橋
地下鉄：淀屋橋
定 員 30名 (先着順)
参 加 費 会員1,000円/一般1,500円
学生500円

⑤参加証送付先
⑥TEL・E-mail
①～⑥を記入の上、FAX
(06-6946-6984) かE-mail
(jigyoka@aaj.or.jp) まで。
参 加 費 無料
申込締切 平成27年 9 月 7 日(月)
＊定員になり次第締め切らせていただきます。

申込方法 ①催し名「新ダイビル見学会」
②氏名
③会員・一般・学生の別
④職場名または学校名
⑤住所
⑥連絡先電話番号
⑦CPDを申請される方は申請先の団体名とID番号
上記項目を明記しFAXまたはE-mailにて下記まで
申込先：日本建築協会 (担当：内山)
TEL：06-6946-6981 /
FAX：06-6946-6984
E-mail：jigyoka@aaj.or.jp



建築と社会

Architecture and Society

07

vol.96 No.1120

2015

特集予告

08 09
月 月
号 号
..
建 空
築 き
の 家
価 と
値 向
き
合
っ

今月の表紙

鍵屋 (1811)



鍵屋は、かつて伏見〜大坂のあいだで運営されていた淀川水運の宿場のひとつである。表の京街道から暖簾をくぐって中に入るが、土間（トオリニワ）が奥まで通じており、裏の舟着場（淀川）までダイレクトに行けるプランとなっている。

内部はトオリニワの両側に、待合（ザシキ）と炊事場（ダイドコロ）が配されており、それぞれからトオリニワに張り出した縁側（ヒロシキ）が空間全体を規定している。

摺り上げ戸により街道側がフルオープンになる。宿と街道が一体となって賑わいをつくりだしていた状景が目につく。

現在は、枚方市立枚方宿鍵屋資料館として保存・活用されている。また周辺にも京街道・枚方宿の町並みが随所に残っている。

(多田正治)

表紙デザイン・撮影 多田正治
(多田正治アトリエ)

特集： 第62回青年技術者

目次

■設計・計画部門

赤川貴世友	●兵庫県立淡路医療センター、市民交流プラザふくちやま、松屋町の長屋ビル改修プロジェクト ～積層する町屋～（自邸）	18
大西 広朗	●吹田市立子育て青少年拠点 夢つながり未来館、岩橋クリニック、京都鉄道博物館、2つの住宅	19
尾杉 友浩	●北本市新庁舎および児童館、加賀電子本社ビル	20
久保 久志	●豊田市立土橋小学校エコ改修、新城市立黄柳川小学校	21
小林 靖	●日本HP本社、五島美術館 改修	22
篠木 大輔	●阪神電車 神戸三宮駅改修工事、赤田善株式会社新社屋	23
鈴木 星穂	●ケイ・オブティコム兵庫事務所、京都銀行西七条支店、梅田1丁目1番地計画	24
砂川 善	●岡山法務総合、土佐女子中学高等学校 記念講堂兼体育館	25
太治 大輔	●官民連携プロジェクトへの取り組み①／御堂筋にぎわい創出社会実験「御堂筋ピクニック」の実施、官民連携プロジェクトへの取り組み②／PPP手法を活用した公募プロポーザル「福岡市中央児童会館建替え整備事業」への取り組み	26
平野 章博	●愛知県立芸術大学 音楽学部校舎、刈谷市新庁舎	27
三谷 帯介	●立命館中学校・高等学校長岡キャンパス、ニッセイ溜池山王ビル+永田町ビル	28
森下 大右	●kitayamasugi、umeda、ueharasei、kurakon、ino	29

■構造部門

石山 達士	●魅せる構造デザイン 十六銀行天白支店	30
佐々木隆允	●約70mスパンの立体鋼管キールトラスの設計と施工計画（仮称）新体育館【松江市】	31
芹澤 好徳	●伝統の継承・発展を実現するキャンバスタータルデザインに基づく耐震改修～神戸海星女子学院中学校・高等学校～	32
田中 宏樹	●外付けメガ制振フレームと2棟連結による集合住宅の居ながら耐震改修、圧密沈下配慮したフローティング基礎の構造設計	33

■設備部門

瓜生 陵太	●教育・研究施設における設備生産性、品質向上に向けた取り組み	34
津村 昌伸	●中之島フェスティバルタワー～大規模複合施設における電気・舞台設備計画～	35
前川 直也	●高天井エリアのテナント空調改修工事におけるテナント営業への支障ゼロへの追求	36
松下 文	●京都銀行歌島橋支店・西七条支店～BIM活用による意匠性と機能性を兼ね備えた空間の提供～、大型熱源改修における3Dスキャナ活用～正確かつ効率的な現況把握～	37
松島 孝幸	●中之島フェスティバルタワーにおけるサステナブル建築への取り組み	38

■施工部門

藤本 俊宏	●大学校舎を使用しながらのレトロフィット耐震改修の工事計画と実施	39
涌田 知昭	●既設地下躯体の水槽への再利用化	40

連載	会告	定時総会議決のお知らせ、通常理事会議決のお知らせ、臨時理事会議決のお知らせ、定時評議員会議決のお知らせ、平成26年度事業報告、平成26年度決算報告、平成27年度事業計画、平成27年度収支予算、平成27年度正味財産増減予算、平成27年度日本建築協会役員会務分掌、平成27年度日本建築協会評議員、平成27年度日本建築協会支部長、平成27年度日本建築協会委員、第14回学生のための現場見学会「(仮称)城東区複合施設建設工事」、新ダイビル見学会	1
----	----	--	---

作品作風	ENDO堺筋ビル	14
------	----------	----

gallery	SPIRIT	行武治美	16
---------	--------	------	----

法令コーナー	滋賀県子育て応援住宅認定制度を創設	奥村良子	41
--------	-------------------	------	----

構造の頁	地下階に大空間を実現した架構 —大阪国際大学・短期大学部1号館—	佐藤 茂	42
------	-------------------------------------	------	----

入賞発表	第14回読者と選ぶ「建築と社会」賞 入賞発表	43
------	------------------------	----

information	「めんしんたすけ-SO」新発売、舟越桂 私の中のスフィンクス、具体の画家 正延正俊、白鳳 —花ひらく仏教美術—、生誕三百年 同い年の天才絵師 若冲と蕪村	52
-------------	--	----

月間の動き	平成27年5月	58
-------	---------	----



ENDO 堺筋ビル

建 築 主 株式会社遠藤照明
 設計・監理 日建設計（基本設計・意図伝達）、大成建設
 施 工 大成建設

遠藤照明のヘッドクォータービル。ファサードが織りなす「光のミルフィーユ」は、まちを柔らかく照らし出し建築を大胆に浮かび上がらせる装置。照明器具メーカーにしか表現できない社会性と象徴性を実現した。ここで知的生産をするワーカーたちが、光の重層に溶け込みファサードにアクティブな活動を投影する「人と建築と光が融合する建築」を目指した。（塚島 健／日建設計）

水平ルーバーを持つメインファサードのカーテンウォールにはLEDアップライトを埋め込み、中央可変制御によりさまざまな夜の表情を創りだすことができる。簡易エアフロー、その他各所の照明にはセンサーやタッチパネルによる調光システム（一部、調光調色）を導入し、状況に応じた光の演出と省エネルギー化を実現している。（関山泰忠／大成建設）



基準階鳥瞰図



所 在 地 大阪市中央区備後町
 敷地面積 595.32㎡
 建築面積 497.15㎡
 延床面積 4,533.63㎡
 構造規模 S造、地下1階・地上9階
 工 期 2014年4月～2015年3月
 最 寄 駅 大阪市営地下鉄 堺筋線 堺筋本町駅
 撮 影 岡本公二（左、右下）、塚島健（右上）

まち

建築

ひと

gallery

SPIRIT

ガラス造形作家

行武 治美

スポーツ用品メーカーの研究所に設けられた作品です。

理屈ではなく体験することで人の深層心理に働きかける場を創出する、というものです。

2枚の帯で構成された渦巻き状のトンネルは、有機的なダイナミズムが鑑賞者を包み込む形にデザインされています。張り巡らされた丸い鏡が、周りの景色、光、また鑑賞者自身も作品の構成要素として写し込みます。

断片的に景色が写り込んだ曲面状の空間は、普通の生活では体験することのない不思議な空間体験を引き起こし、心理的な揺らぎが生まれます。

作家はこの作品の作者名を個人名ではなく、関わった方々の頭文字から「A・Y・Y・T・T」としました。この作品は多くの人々の協力や環境の変化によって成り立つ性質のものだからです。

作品体験がポジティブな感情をわき上げらせ、素敵なアイデアの交換の場になることを願っています。

行武 治美（ゆくたけ はるみ）

東京都生まれ

1989 多摩美術大学立体デザイン科
クラフト学士課程卒業

1994 Rhode Island School of Design M.F.A.
美術学部ガラス科修士課程修了

2001 国際ガラス芸術学会理事

2006 文化庁新進芸術家海外研修
James Carpenter Design Associates

2008- 多摩美術大学工芸科非常勤講師

主な展覧会

1999 日本のガラス2000年弥生から現代まで
サントリー美術館

2003 遠慮のないガラスー今日の日本から
北海道立近代美術館、岡山県立美術館

2006 越後妻有アートトリエンナーレ
大地の芸術祭

2008 釜山ビエンナーレ彫刻プロジェクト

2010 瀬戸内国際芸術祭

撮影：古川泰造

企画編集：荻野淳司（作品作風小委員会）

編集協力：松浦真樹



特集●第62回

青年技術者

■設計・計画部門——

赤川貴世友 安井建築設計事務所
大西 広朗 東畑建築事務所
尾形 友浩 安井建築設計事務所
久保 久志 東畑建築事務所
小林 靖 清水建設
篠木 大輔 大林組
鈴木 星穂 竹中工務店
砂川 善 佐藤総合計画
太治 大輔 竹中工務店
平野 章博 日建設計
三谷 帯介 鹿島建設
森下 大右 昭和設計

■構造部門——

石山 達士 竹中工務店
佐々木隆允 日建設計
芹澤 好徳 竹中工務店
田中 宏樹 大林組

■設備部門——

瓜生 陵太 竹中工務店
津村 昌伸 日建設計
前川 直也 竹中工務店
松下 文 竹中工務店
松島 孝幸 日建設計

■施工部門——

藤本 俊宏 西松建設
涌田 知昭 鹿島建設

部門別50音順

応募状況と結果

部門	応募数	入選数
設計・計画	13	12
構造	4	4
設備	6	5
施工	4	2
その他(研究)	1	0

第62回青年技術者選考委員

米井 寛／㈱東畑建築事務所取締役大阪事務所長
佐々木 栄／㈱昭和設計執行役員設計推進室室長
高梨雄二郎／㈱竹中工務店開発計画本部長
(西日本担当)
八木 康行／ 스튜디오オエイトアーキテクト代表
吉岡 聡司／大阪大学大学院キャンパスデザイン室
准教授
辻 聖晃／京都大学大学院工学研究科建築学専攻
准教授
山浦 晋弘／㈱安井建築設計事務所構造部長
小倉 良友／㈱日建設計エンジニアリング部門
設備設計グループ副代表兼部長
阪井 聡／㈱大林組大坂本店建築事業部
生産技術部部長
山辻 直樹／大成建設㈱関西支店建築部
購買管理室課長

青年技術者選考委員会
講評

選考委員長 米井 寛

青年技術者表彰は、今年創立98年を迎えた日本建築協会の由緒ある顕彰制度で、今では関西の若手建築技術者のいわば登龍門として定着しています。この賞の主旨は、応募者の関与したプロジェクトそのものではなく、青年技術者本人を顕彰するものであり、したがって、審査にあたっては、計画やデザインの到達レベル、技術の先進性や独自性などのほか、応募者個人のプロジェクトへの関与度、建築に対する取り組み姿勢や将来展望などについても評価し、それらを総合して、青年技術者を選出しています。

今回は28名の応募があり、23名が選出されました。応募者全員が組織設計事務所または大手建設会社に属する方であり、アトリエや学校からの応募がなかったのは残念でしたが、各社で社内選抜が行われていたと思われ、全体としてレベルの高い甲乙つけがたい方々を審査することになりました。各部門の講評は担当委員のコメントによりますが、残念ながら選外となった方には、ご本人の関与度や取り組み姿勢などの記述が相対的に読み取りにくかったと総括することができると思います。

審査の際、毎年この「関与度等」が話題となるため、今回応募書式を少し改め、「青年技術者の思い」を記載していただくことにしました。ここには、応募者の建築への意欲や熱意が語られ、従来よりも「応募者の顔」が想像しやすい審査となりました。ここでのコメントには、土地や歴史に寄り添う、関係者との対話の重視、ユーザー参加の協働プロセス、引渡しの後を見据える、ストック活用といった、建築を環境や社会との関わりのなかでとらえる視点が見受けられ、こうしたみなさんの姿勢は、「建築を通じて社会に貢献する」という本協会の設立主旨にも通じるものであると思われました。社会に貢献する建築家・建築技術者として、ますます活躍されることを期待します。

■設計・計画部門／今年は昨年に引き続き、濃密なインテリゲンシー設計やエリアマネジメント、あるいはユーザー参加のプロセスを重視した設計といった、一般に通常イメージされる建築の実施設計の枠にとどまらない、幅広い立場からの応募がありました。

さらに建築や都市に対する深い思索が感じられる方が多かったことや、環境性能の向上を建築的に実現しようとする取り組みが多くみられたことは、我が国の建築設計の成熟を一定程度示していると言えます。応募作品はいずれもレベルの高いも

のでしたが、昨年に続いて全てが組織設計事務所や大手建設会社からの応募であり、今後は是非、アトリエ系等の小規模の設計・計画事務所からのご応募も期待したいところです。今年は13人の応募に対して、12人を入選としました。お一人が選にもれたのは、やはり応募された「ご本人」がその作品に対してどのような立場や考え方で関わられたのかが、十分に示されていなかったことによりです。まだお若い方でもあり、再度の挑戦を期待しています。(吉岡聡司)

■構造部門／今年度は構造部門への応募が4件であり、昨年度から1件の減であった。審査では、応募者がプロジェクトの中でどのような役割を果たしたか、プロジェクトにおける課題や困難点をどのように解決しようとしたか、建築に対する考え方や将来展望が情熱を持って書かれているかどうかについて、一定の基準に到達しているかどうかを見た。いずれも審査基準を満たしているとの結論に達したため、すべてを入選とした。

応募書類Aでは、1～5棟の建物について、プロジェクトの課題や困難点と、その解決に至った筋道が示されていた。応募書類Bでは、構造設計時の苦労、施主とのやりとりなどを通じて、応募者の建築構造にかける情熱が熱く語られているものもあった。また、手書きのスケッチにより、構造コンセプトを示した応募書類もあった。ただ、一部の応募書類で、「作品」の説明は詳細であるものの、その作品にかけた設計者の思いが応募書類からは熱く伝わってこないものもあった。本表彰は、「作品」ではなく「人」を対象としたものであるため、来年度以降は応募書類Bのいっそうの充実を期待したい。今回の応募作品では、構造そのものを見せることを意識したものが多かったように思われた。アングルを組み合わせたツリー状の柱、扁平な柱と梁を組み合わせたPC格子フレーム、歴史的な建物の外観を継承した耐震補強などが強く印象に残った。また、並立した建物を連結して偏心を解消した上で外付けの耐震補強を行ったもの、キールトラスと張弦梁の組み合わせによる大空間架構など、既存技術の複合化による問題解決も見られた。問題点を見つけ出す確かな観察眼と、一つの解決方法にこだわらない柔軟な着想が、今後の設計活動に活かされることを期待したい。(辻聖晃)

■設備部門／本年の応募は6名であり、その内訳は設計・監理2名、設計1名、施工2名、技術開発1名であった。業績に対して自らの思いを持ち、取り組みの工夫がなされているかを選考基準とし、選定5名、選外1名となった。選外の1さんは、ショッピングセンターの設計・監理を

業績としていたが、照明計画は外部事務所主体の計画の調整、デマンド設定は実績値と試算値の比較、太陽光発電設備の電力会社との協議など本人の取り組みまたその工夫が感じられなかった。選定された5名は、プロジェクトに対して真摯に向き合い自らの取り組み工夫がなされており青年技術者として相応しく評価された。

津村さんは、ホール、商業、テナント・本社オフィスの複合施設に対してメンテナンス時の重要系バックアップ・本社機能維持を考慮した配電計画、当時採用が少なかったオフィスのLED照明の挑戦、ホールの進化と継承をテーマに設計・監理を通して取り組み実現させた。瓜生さんは、施工の立場から運用後のリスク低減のためクールチューブの埋設深さを変更しその効果低減がないことを検証した。また屋外機ユニット工法を採用し工期短縮・人工削減の工夫を行っている。前川さんは、銀行営業室の空調改修を天井内吊り足場で行い空調停止期間を土日で行い店舗に影響を与えない工法の立案を評価した。タイトルの「非常に目立たない大活躍」とおりであったことがうかがえる。松下さんは、技術開発分野でBIMを主体とした開発を行っており今後の活躍が期待される。特に3Dスキャナを利用し既設の現況図の作成などストックマネージメントにも意欲的に取り組まれている。松島さんは、クライアントから求められた最先端環境技術の導入に対して、アクティブスキンをテーマとしブラインドと排気ファンにより外皮性能を可変とすることで取り組み、運用後を検証し評価を行った。(小倉良友)

■施工部門／本年の応募4件に対して、本人の「主体的に関与度合」、「役割が明確か」「本題解決のための創意工夫」「将来的展望」についてどう表現されているかで評価した。選外となった2件は、活動内容については評価できるが本人の主体性と独自の工夫等の点で応募資料からは十分に読み取れなかった。入選した1件目は大学の校舎を使用した状態で地震震度レトロフィット耐震改修工事における工事計画と実施工に関するもので、既存基礎部分の偏土圧を処理と仮設補強、ジャッキ受けしながらの免震装置の設置工事等を、学生が校舎を使用中という条件下で創意工夫により施工した案件で、本人の熱意が伝わるものであった。2件目は既存地下躯体を地下水槽に再利用する工事で、工期とコスト削減、環境への配慮という成果を目指して、残置する地下躯体に影響が出ない補強方法と地上躯体解体方法の計画から実際の施工に反映させた点で評価ができる。(山辻直樹)

設計・計画部門

あか かわ き よ とも
赤川 貴世友

生年月日 1980年1月大阪府生まれ
最終学歴 2005年京都工芸繊維大学
大学院 工学研究科
デザイン経営工学専攻
業務経歴 2008年㈱安井建築設計事
務所入社／現在、大阪事務
所設計部インテリア主任
●担当した主なプロジェクト
2008年 三井住友銀行天神町支店
2009年 近畿大学食堂棟
2012年 ANA LOUNGE 伊丹(改修)
2013年 兵庫県立淡路医療センター
2014年 市民交流プラザふくちやま
●受賞
近畿大学食堂棟「BLOSSOM CAFE」
平成23年度日時連建築賞
ANA LOUNGE伊丹
平成24年度照明普及賞
市民交流プラザふくちやま
平成26年度照明普及賞
兵庫県立淡路医療センター
日本建築学会2015作品選集
松屋町の長屋ビル改修プロジェクト
住まいのリフォームリノベーション
コンクール 大阪府知事賞

■青年技術者のことば

組織設計事務所のインテリア設計は、その範囲が捉えにくい一面がある。一般的には、インテリアエレメント（内装・照明・家具・サイン・アート等）そのもののデザインと捉われがちであるが、自分自身の約10年の仕事を振り返り、次第にはっきりと見えてきたこの命題に対する答えとして以下に整理した。このマインドを常に忘れず、大切に、これからの仕事にも取り組んでいきたい。

私たちは内部から空間をつくります。建物を利用する人々の動きと感覚を大切にします。建築主との親密なコミュニケーションを通し、建物を利用する人々の姿や、さらには社会と時代を見つめます。人々に身近な家具・内装・照明などから空間へ、建物全体へとデザインを発展させます。建築とその内部に緻密な機能を持たせるインテリアに主眼を置き、快適な空間づくりを目指します。

■すいせん者

寺岡宏治
㈱安井建築設計事務所
常務執行役員 大阪事務所長



兵庫県立淡路医療センター

本施設は、旧鐘淵紡績洲本工場があった区域の一部にある。その工場群が赤レンガを利用した建物であったことから、周辺施設も赤レンガを基調とするなど、地域一帯で歴史を継承する景観を色濃く残している。そうした地域環境の中で淡路地域の中核病院を目指すコンセプトのもと、「時間の流れ、人、場所への想いが“つむぐ・つづく・つなぐ”」をテーマに「歴史ある景観の継承と地域のシンボルの創出」、「人に優しい内装・家具・サイン計画」を意識して取り組んだ。



市民交流プラザふくちやま

JR福知山駅前に計画された図書館と生涯学習機能の複合公共施設である。駅前立地を活かし市民の活動を促し、発信する「駅前大型モニター」として開放的な外観とするコンセプトを受け、内部を書架からの間接照明等を用いて演出し、街に対してあたたかい情景をつくり出した。また、Rの端部コーナーは建物から家具・サインに至るまで、学びと集いのゲートとして徹底してデザインに取り入れ、親しみやすい施設づくりを行なった。



松屋町の長屋ビル改修プロジェクト ～積層する町屋～（自邸）

自身が施主・設計者として、大阪市内の大通りに面する築28年の鉄骨造5階建て、2軒長屋ビル半分の改修に取り組んだ。インテリア設計者として既存の建築ストックを活用すること、家族のライフスタイルを考慮して、都心部居住の可能性を模索した。

設計・計画部門



おおにしひろあき
大西 広朗

生年月日 1979年9月兵庫県生まれ
最終学歴 2007年大阪大学大学院
工学研究科地球総合工学
専攻修士課程修了
業務経歴 2007年(株)東畑建築事務所
入社
●担当した主なプロジェクト
2009年 茨木労働基準監督署
2011年 吹田市立子育て青少年拠点
夢つながり未来館
2012年 岩橋クリニック
2015年 京都市動物園京都の森
(予定)
2016年 京都鉄道博物館 (予定)
●個人活動
2007年 三角屋根の家
2007年 SYSTEM TUBE
(あかりのコンベ)
2015年 かざぐるまの家 (予定)
●受賞
第5回大阪サステナブル建築賞特別賞
建築家のあかりのコンベ2007 入選

■青年技術者のことば

誰よりも先に手を動かし、自分の手で模型を作るように心がけている。自分の直感の精度を確認し、伝わりにくいこと・足りないことを出来る限り早く読み取る。関係者の目にさらし、真意を汲み取ろうと耳を傾けることが出来れば、独りよがりになることなく、案は次第に本質的なものへと変容していく。軌道に乗ったプロジェクトがまるで自動的に進んでいくような感覚を覚えることがある。誰かが先に動けば、皆がその方向を意識し、自主的にやるべきことを考え始める効果もあるようだ。想定外の事象で、大きな転換を迫られることもあるが、骨格が共有できていれば、関係者の理解や協力を得られることも多く、補正はそれほど大変でない。ジャンルは様々だが、担当したものは分かりやすい構成や仕組みを持つ建築が多いようだ。私自身が、複雑な環境・組織に対する明快な態度や、シンプルな強さを好むこともあるが、模型を始めとする進め方のスタンスそのものが導いているようにも感じる。これからも、素直に建築と向き合い、多くの声に耳を傾け、実を結ぶまで何度でも模型を作り直してやるという姿勢で取り組みたい。

■すいせん者

笹村 欽也
(株)東畑建築事務所 理事 設計室長

吹田市立子育て青少年拠点
夢つながり未来館

阪急電鉄山田駅に隣接し、集合住宅が建ち並ぶ地域。内部では図書館・子育て支援機能・青少年拠点という3つの機能に対して、外部ではプラザ・法規制・集合住宅に対して、適度な距離を取って積み重ねることで解決している。積層された居場所には、様々な素材で覆われていて外に向かって凸凹しながら、内にはぼつかりとした吹抜を孕んでいる。それは丁度、思春期の青少年が社会に対して見せる姿のようでもある。



岩橋クリニック

閑静な地域にあるまちの診療所の建替え計画。設計当初から院長である施主と共に、住宅群のスケールに併せながら、内部の活動が都会的なインテリアをまとうて街の中に広がっていくような、開かれたクリニックを目指してきた。

京都鉄道博物館

梅小路公園の一角、通称デルタ線と呼ばれる3つの線路に切取られた特異な敷地。重要文化財である扇形車庫に寄り添うように増築し、回遊動線により一体の博物館として機能させる。力強く無機質で機械的とも言える扇形車庫、同公園内にある京都水族館を踏まえ、外壁と緩勾配の屋根によるシンプルな構成とし、敷設展示物を活かす背景としての建築を目指した。



2つの住宅

周辺環境から導かれた2つの住宅。屋内へも北側の路地へも光をもたらす「三角屋根の家」。足元を人と風が流れる「かざぐるまの家」。

設計・計画部門

おすぎともひろ
尾杉友浩

生年月日 1982年2月徳島県生まれ
最終学歴 2006年大阪大学大学院工
学研究科建築工学専攻前
期博士課程修了
業務経歴 2006年榊安井建築設計事
務所入社
現在、東京事務所設計部
主任

●担当した主なプロジェクト

2009年 国際医療福祉大学三田病院
2010年 庄原赤十字病院
2011年 加賀電子本社ビル
2012年 北本市新庁舎および児童館
2013年 いわくに消防防災センター
●受賞
JIA優秀建築選2014 入選

■青年技術者のことば

—思いを重ねる—

「地域に根付き、永く愛される建
築をつくりたい」。学生の頃から
大切におもってきたことには変わ
りない。敷地を何度も訪れ、ヒト
や周辺環境から受けるインスピ
レーションと、歴史・文化を丁寧
に読み解くことでのイメージネー
ションが少しずつ建築・空間づく
りへとつながっていく。
ただ、学生の頃と大きく変わった
思いがある。多様な建築主と多く
の対話を重ねるうちに、その夢や
思いに触れ、設計者の強い意志を
丁寧に重ね合わせることで新しい
価値を生むきっかけとなることを
知った。またそれらを幾重にも積
み重ねるプロセスは、設計者だけ
ではなく建築主や利用者などプロ
ジェクト関係者全員のなかで建築
を大切にする気持ちを醸成し、完
成後もその建築が永く愛されるこ
とにつながっていくだろう。
これからも様々な「夢」や「思
い」との出会いを大切にしながら、
とことん夢を叶えていきたい。
そしてそれが新たな価値となり、
街にひろがっていく風景を見
届けていきたい。それが設計者の
醍醐味であると考えている。

■すいせん者

上枝真二
(株)安井建築設計事務所 執行役員
東京事務所 副所長 設計部長



北本市新庁舎および児童館

周辺の良い住環境と調和する3階建ての低層庁舎。緑の広場を中心として一体的に整備された児童館や隣接する既存文化センターと機能的な連携・空間的な連続性を図ることで、市民の暮らしを豊かにし、様々な世代の交流拠点となるコミュニティ庁舎を目指した。



加賀電子本社ビル

プロジェクトテーマは『シンプル・フレキシブル・コミュニケーション』。モノトーン・フラット・シンプルなダブルスクインファサードデザインによる落ち着きと先進性の表現に対し、木による温かみの感じられる内装デザインは活力溢れる企業文化を映している。開放的な屋上庭園は、新たなコミュニケーションと創造力を生み出す多様なワークプレイスとして積極的に活用されている。

設計・計画部門



久保 久志

生年月日 1980年9月奈良県生まれ
最終学歴 2005年三重大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
業務経歴 2005年(株)東畑建築事務所入社
現在、名古屋オフィス設計室主任技師

●担当した主なプロジェクト

2007年 長久手町青少年児童施設
2010年 若狹町立三方中学校エコ改修
2011年 豊田市立土橋小学校エコ改修
2012年 新城市立黄柳川小学校
2013年 豊田市立浄水北小学校

●受賞

2014年度日本建築学会教育賞（教育貢献）（土橋小学校エコ改修）
平成26年度木材利用優良施設表彰
農林水産大臣賞（黄柳川小学校）
第42回中部建築賞一般部門特別賞（三方中学校エコ改修）

■青年技術者のことば

一設計者として、自ら設計して建ちあがった建築が、機能的で、強く、美しいと称讃されることに喜びを感じないものはない。ただし、その建築が竣工して数年経ち、どんな理由があったにしろ、利用者にうまくつかわれていない、満足されていないことは互いにとって不幸なことだ。解決のための特効薬などない。自分なりに実践を重ねて出した答えは「つくりかたを少し変えること」。設計中には、利用者は設計者と一緒に、そこで何をしたいかを考え、そのために必要なもの（ハード）を考える。設計者は利用者と一緒に、思い描いたように使うためのルールやしきみ（ソフト）を考える。利用者まかせとは言わずにだ。工事中には、一緒に壁を塗ったり、タイルを貼ったり、ときには活動を前倒して竣工を待つ。運用が始まれば、マニュアルだけに頼らず、うまく使いこなせるようきちんとサポートする。利用者に寄り添い、「一緒に考えつくこと・つかうこと」。使いこんだ辞書に愛着がわくように、使えば使い込むほどに愛着がわく「育てる建築」をこれからも変わらず目指したい。

■すいせん者

瓦田伸幸
(株)東畑建築事務所 執行役員
名古屋オフィス 代表



豊田市立土橋小学校エコ改修

校舎の回遊性の向上や地域材を使った内装の木質化等の学習環境の改善、校舎の内断熱化・風の道形成・日射遮蔽等の温熱環境の改善、それらを積極的に見える化し、環境教育プログラムと連動させた校舎の教材化を図った。児童と協働したトイレは、エコをテーマにしたイラストをモザイクタイルで表現し、華やかに生まれ変わった。現在、ESD（持続発展教育）の視点を取り入れた児童の成長に即した環境教育を通じ、校舎の環境配慮の工夫や原理、魅力を下級生や来校者に伝え広める「子どもエコガイド」の育成を行っている。



新城市立黄柳川小学校

敷地北側を流れる黄柳川沿いに東西に伸びやかに建ち、日当たり・風通しに最大限配慮した。形態はまちの豊かな自然環境、四季折々の美しい風景になじむ簡素でシンプルな表現を心掛けた。周辺の山並みや家並みに合わせた切妻屋根、地域材で設えた下見張りの木壁は、この地区の昔からの風景をかたちづくる構成要素である。また、地域と学校の交流の場、円形多目的ホールのとんがり屋根は地域のシンボルとなっている。



構造部材・内外装材には日本有数の強度・美観をほこる「三河杉」を800㎡使用し、建設で使われた90%以上の木が地域材となっている。

設計・計画部門

こばやし やすし
小林 靖

生年月日 1980年 8月 8日
 最終学歴 2005年 名古屋工業大学
 大学院修士課程修了
 業務経歴 2005年 清水建設㈱入社
 現在、関西事業本部 建築
 設計 1 部
 ●担当した主なプロジェクト
 2007年 目黒星美学園 修道院
 2011年 日本HP本社
 2012年 五島美術館 改修
 2014年 め利彦ビル南館
 2015年 東京国税局

■青年技術者のことば

大学の恩師の言葉を借りるが、良い建築の3つの条件とは、①雨が漏らないこと（これは構造や設備も含め機能を満足すること全般を指す）、②格好が良いこと、③歴史的・文化的であること、である。普段、組織で仕事をする我々にとって①と②については日常的に取り組んでいるが、③まではなかなか踏み込め無いのが現実ではなからうか。その様なか中で私なりに心がけていることは、風土を読み解くことだ。

当たり前のことだが、建築設計は他のプロダクトデザインとは異なり、敷地ありきの一品生産である。そのロケーションを読み解き、その場所に最も相応しい、その場所でしか出来ない形態・機能を行うことが最も重要だと考えている。それは単に周辺の町並みに色や形態を合わせることを意味するのではない。都市は新陳代謝するし、街にはシンボルが必要とされる場合もある。

ここに掲載した2つの作品においても、その土地や、歴史に寄り添った建築のありかたをイメージし設計に望んだ。結果、良い建築に結び付いたのではないかと思う。

■すいせん者

鳥居健一
 清水建設㈱関西事業本部
 建築設計 1 部部長

撮影
 吉田 誠 日本HP本社(※)
 小川重雄 五島美術館



日本HP本社

グローバルIT企業の日本法人本社で、約6000人が利用する。環境対応型の次世代オフィスという施主ニーズに対し、高度に制御されたダブルスキン等ではなく、「庇」という解法を導いた。この庇は、日射制御以外にも、空調機置場、ダクト展開スペース、メンテナンスバルコニー、屋外テラスとしても機能している。結果として、グローバル企業であるHPの日本オフィスという、彫りが深く水平ラインの印象的な外観にも結び付いた。



五島美術館 改修

築50年を迎えた吉田五十八設計の美術館の増築+内外装改修。改修には、新たな要素を加える方法と、既存に寄り添った方法の二種類があるが、後者を選択した。但し、そこには現代的な解釈や技術を盛り込み、自然採光可能な展示空間も提案し実現した。開館後の来館者のブログを見ると「どこを改修したのか分からなかった」とのコメントも見られ、手応えを感じている。



設計・計画部門


 しのぎだいすけ
 篠木大輔

生年月日 1981年5月奈良県生まれ
 最終学歴 2007年大阪市立大学大学院工学研究都市系専攻前期博士課程修了
 業務経歴 2007年㈱大林組入社
 現在、大阪本店建築事業部プロジェクト設計部主任

●担当した主なプロジェクト

2010年 京王電鉄布田駅
 2013年 阪神神戸三宮駅改修工事
 2014年 赤田善株式会社新社屋

●受賞

第48回SDA賞 関西地区賞 入選

■青年技術者のことば

一思いをつなぎとめる建築—
 建築をつくることは、様々な思いをその場所につなぎとめることだと私は常に意識している。
 クライアントを思い、設計者として時代や社会的背景を踏まえた建築のあるべき姿を思い、敷地に建築として再構築する。その過程においてはメーカーや建築現場における様々なプロフェッショナルとの共働が不可欠であり、いいモノを創りたいという関係者共通の思いがある。

これらの思いを設計者の熱意でまとめあげることが建築を創る上で大切であると考えている。
 未熟ゆえに、建物が出来上がるまでに予期せぬ困難な場面に直面することも数多くあったが、竣工時のクライアントの笑顔、そして竣工後に聞こえてくる満足の言葉が設計者としての次への大きな原動力となっている。

これからも、様々な思いの集大成として魅力的な輝きを放ちながら、永く人々に使い続けられる建築づくりに設計者として関わっていきたいと思う。

■すいせん者

近井 務
 (株)大林組 大阪本店 建築事業部
 統括部長



阪神電車 神戸三宮駅改修工事

私鉄地下のターミナル駅における1933年の竣工後初となる大規模改良工事である。既存の限られた地下空間内にコンコースフロアを増床するというプログラムによる厳しい断面的な制約の下、イメージ刷新だけでなく、天井高さ確保等の駅舎としての機能性との両立が求められた。本計画において特徴的な、六甲の山並みと神戸港に囲まれた三宮という地域性から導きだされた「なみ」をデザインコンセプトとしたスチールパネルの波天井は、重なり合うなみの意匠の中に吊サイン・照明設備・空調設備を統合するとともに、天井高さを確保しつつ駅利用者に天井の圧迫感を感じさせることなく、リズムカルに人を導く仕掛けとなっている。



赤田善株式会社新社屋

食品添加物の製造・販売を行う同企業の本社建て替え計画。延床面積約940㎡のオフィスとして、諸室をコンパクトに配置するとともに、既製品部材を丁寧に組み合わせることにより、端正なファサード創りを目指した。



設計・計画部門

すず き せい ほ
鈴木 星 穂

生年月日 1979年12月京都生まれ
最終学歴 2005年京都大学大学院
工学研究科建築学専攻
修了
業務経歴 2005年㈱竹中工務店入社
2006年～大阪本店設計部

●担当した主なプロジェクト

2006年 中之島リーガロイヤル
ホテル改修
2007年 豊田通商炭本社宅
2008年 京都東宝ビル
2010年 アミカール錦
2010年 神戸居留地25番館
2010年 ガンバ大阪新サッカー
スタジアムコンペ
2011年 京都丸井改修
2012年 中之島FTカネカ本社移転
2013年 ケイ・オブティコム
兵庫事務所
2013年 京都銀行歌島橋支店
2013年～梅田1丁目1番地計画
2014年 京都銀行西七条支店

■青年技術者のことば

私は図面が好きだ。
図面には沢山の想いが込められて
いる。建築主の想いから始まり、
それを都市や環境との応答を通し
実現しようとする設計者の想い、
建設する施工者の想い。そして、
竣工後建物を利用する人々の想い。
初めは未整理で、あるいは隠れて
見えないでいるそれらの想いを、
整理し、発掘し、図面に織り込む
事で建築として結実させる。それ
が設計者の役割だと思っている。
与えられた条件下で最大の価値を
生み出そうとする過程で時にそれ
らの想いは反目する。設計者の
最大の喜びは、数え切れない対話
の繰り返しの先に反目する想いの
本質を発見し、より価値の高いも
のとして図面に織り込めた瞬間に
あると思う。それは計画全体のブ
レイクスルーであったり、小さな
ディテールの工夫であったり様々
であるが、沢山の想いを、日々
精進して磨いた設計の力で図面に
織り込み続ける事にこそ、設計の
そして建築の高みがあると考えて
いる。

■すいせん者

梅田善愛
㈱竹中工務店 大阪本店設計部
設計第8部門マネージャー

ケイ・オブティコム兵庫事務所
(2013)

京都銀行西七条支店 (2014)



梅田1丁目1番地計画 (2013～)



設計・計画部門



すな がわ まさる
砂川 善

生年月日 1979年5月アメリカ生まれ
最終学歴 2007年ワシントン大学
建築学部 修士課程修了
業務職歴 2007年
LMN ARCHITECTS入社
2009年佐藤総合計画入社
現在
関西事務所 設計主任

●担当した主なプロジェクト

2013年 土佐女子中学高等学校
記念講堂兼体育館
2014年 岡山法務総合庁舎
2014年 あまーち拠点施設
2015年 和歌山労災病院新棟

■青年技術者のことば

建物は利用者の物であると同時に全体で街並みや景観を形成し、人々の中では、それぞれの記憶として刻まれます。公と私がさまざまな形で共存し続けます。

その複雑な連立方程式を解くかのような、建築設計の難しさ、そこから、ひとつの解にたどりついた瞬間の楽しさをいつも感じて設計をしています。

だからこそ、常に施主や利用者とは対話をし、敷地とその周辺を歩き、時には自ら測り、スケッチをし、手と頭を動かしながら続けることを心がけています。

設計者としては至極当然のことなのかもしれませんが、今回の受賞は設計者となり10年が経ち、自らの佇まいを振り返る良いきっかけとなりました。

■すいせん者

吉田諭司
㈱佐藤総合計画 関西事務所
執行役員関西事務所長

岡山法務総合

岡山の地勢である「瀬戸内海の穏やかな海と背後に佇む山々」をキーワードに、中庭を含めたランドスケープ、主出入口前の大庇、エントランスホールの空間を一体的にデザインしました。また、外観は国道に対して隣接する裁判所と壁面ラインをセットバックした位置にて揃え、前面のランドスケープを設けることにより、一体感と広がりのある都市景観を形成しています。



土佐女子中学高等学校 記念講堂兼体育館

土佐女子中学高等学校の制服の襟に設けられた親子線、既存の記念講堂兼体育館のシェル構造を踏襲した象徴的な形態の体育館とすることで歴史と記憶の継承を表現しています。内部空間は高知城の見えるメインアリーナ、緑に包まれたサブアリーナといった居心地の良い空間となるように設計しました。



設計・計画部門



太 治 大 輔

生年月日 1982年2月兵庫県生まれ
 最終学歴 2006年広島大学大学院
 工学研究科
 社会環境システム専攻
 修士課程修了
 業務経歴 2006年(株)竹中工務店入社
 現在本社開発計画本部
 ●担当した主なプロジェクト
 御堂筋まちづくりネットワーク
 福岡市中央児童会館建替え整備事業
 など

■青年技術者のことば

性質の異なる2つの官民連携プロジェクトを取り上げましたが、「街のより良い将来像をイメージする」ことが求められた点が共通項として挙げられます。その中で私は「関係者のイメージを具体化する役割」を担ったように思います。その役割を果たすためには、議論を繰り返しイメージを明確化すること（企画力）、分かりやすく伝えること（提案力）、関係者意向・コスト等を調整し最大限実現すること（構築力）が求められました。私は開発計画本部という、中長期プロジェクトの推進・実現を命題とした部署に所属しています。担当するプロジェクトは、街に対する影響が大きいものが少なくありません。これから先も企画力・提案力・構築力を磨き、自らが理想とする街の将来像をイメージしながら、プロジェクトに携わっていきたくと考えています。

■すいせん者

高野宏天
 (株)竹中工務店 開発計画本部
 西日本2グループ長

官民連携プロジェクトへの取り組み①

／御堂筋にぎわい創出社会実験「御堂筋ピクニック」の実施

「御堂筋まちづくりネットワーク」とは、「活力と風格あるビジネス街」として維持発展することを目指して、地元の視点から課題解決策を検討し、行政とのパートナーシップを図りながら活性化に向けた活動を行うことを目的としたエリアマネジメント組織である。私は、「御堂筋まちづくりネットワーク」において、2007年、2013年、2014年の3年間、事務局業務を担当した。とくに2013年からの2年間は、エリアプロモーションの企画、開催及び支援を行う「にぎわい創出部会」の部会運営を担当し、大阪市と連携した御堂筋にぎわい創出社会実験「御堂筋ピクニック2014」の企画立案・事業推進に主体的に関わった。



壁面後退部分を活用したオープンカフェ



壁面後退部分に飲食提供ブースを設置



歩道・側道上にキッチンカーを配置



側道部分をアート作品の展示空間として活用



期間限定セントレジスカフェ

官民連携プロジェクトへの取り組み②

／PPP手法を活用した公募プロポーザル「福岡市中央児童会館建替え整備事業」への取り組み



施設外観イメージ(2013年4月提案時点)

福岡市中央児童会館は、老朽化が著しく、耐震性に課題があることから、早急な建替えが必要な状況となっていた。福岡市は、利用者の利便性向上や市費負担の軽減、計画地の立地特性を踏まえた資産の有効活用の観点などから、民間活力を活用した官民協働(PPP)手法の一つである「定期借地・賃借入居方式」を採用し、2012年度に公募型プロポーザルが行われた。これに対し、代表企業の西日本鉄道株式会社とともにコンソーシアムを構成し、事業提案を実施した。私は、設計事務所、設備・構造設計者と連携し、施設計画に関する提案のプロデュースを行った。

設計・計画部門



ひらの あき ひろ
平野 章博

生年月日 1979年10月愛知県生まれ
最終学歴 名古屋大学大学院
環境学研究科
建築学修士課程修了
業務経歴 2004年(株)日建設計入社
現在設計部門設計部
●担当した主なプロジェクト
2007年 名古屋学院大学名古屋キャンパス
白鳥学舎チャペル
2011年 刈谷市新庁舎
2013年 愛知県立芸術大学音楽学部校舎
2018年 石川県立中央病院 (予定)

■青年技術者のことば

建築はそれ単体で存在し得るものではなく、様々な社会環境と密接に関わるものであると実感しています。場所、求められるプログラム、材料や施工技術に至るまで、同じ環境は決してありません。

歴史を紐解くと、時間を経て心惹かれる建築は、過去の真似事ではなく、その環境の中で最も相応しい姿を追求している建築です。

先人へ思いを馳せながら、そういった相応しい姿を追求することが大切だと考えて設計をしています。またその中で、設計は一人ではできないものではなく、クライアントやユーザー、様々な分野のエンジニアや施工者と一緒に作り上げていくものという思いを強くしてきました。チームのコミュニケーションの中で、熱い思いに心動かされ、考えもつかなかったアイデアが生まれ、異なる視点から捉えることで、建築が劇的に変化していきます。

苦しく楽しいコミュニケーションを経て、相応しいと信じた姿が形になる時は、喜びも一入です。そして完成した後は、建築は景観の一部となり、長きに渡ってその場所に存在することになります。

むしろ完成してからが始まりであり、条件として捉えた社会環境と向き合っていくことになります。その中で使い込まれ、年を追うごとに表情を変えていく、そんな時間と対峙するような建築を目指したいと考えています。

■すいせん者

小谷陽次郎
(株)日建設計 設計部門 設計部長



愛知県立芸術大学 音楽学部校舎



刈谷市新庁舎

設計・計画部門



三谷 帯 介

生年月日 1980年9月香川県高松市生まれ

最終学歴 2005年神戸大学大学院博士前期課程修了

業務経歴 2005年鹿島建設㈱建築設計本部入社
現在、関西支店建築設計部 設計主査

●担当した主なプロジェクト

2006年 数寄屋橋ビル

2007年 アルビオン白金教育センター

2010年 ニッセイ溜池山王ビル+永田町ビル

2014年 立命館中学校・高等学校長岡京キャンパス

●受賞

2008年度グッドデザイン賞

うめきた2期区域開発に関する民間事業提案 優秀提案

平成26年照明普及賞

■青年技術者のことば

「生きられる舞台としての建築」
これは私がどのような建築を考
える場合でも根底に持っているテ
ーマです。

建築は多様な条件と顧客ニーズ
を紐解きながら、高い技術力の裏
づけを積み重ねて実現するもので
す。多大な費用と資源を使って実
現するそれは、同時に、長きにわ
たり多くの人に体験され影響する
社会的な存在であり、その設計に
は大きな責任が伴います。

その中で、生み出される建築が
「物」であることを超えて、「人を
幸せにする」ものでもありたい、
と思っています。その手がかり
は、人と人どうし、人と世界を結
びつけ、一度きりの生を実感でき
る体験にあるような気がしていま
す。建築は、それが「生きられる
(体験される)」ことで、こうした
「幸せ」に気付くきっかけとなる
「舞台」のような存在になれない
かと考えています。

設計は無限の可能性の中からある
答えを探し出す作業です。様々な
価値観が共存する中で、設計者
にはその過程において関係する人
々を導き共通理解を作る広い知識
と社会性・人間性が求められます。
そうした素養を磨きながら、「人
が感じ、人を幸せにする建築」を
つくる設計者として成長してい
きたいと考えています。

■すいせん者

菅野忠司

鹿島建設㈱

関西支店建築設計部 部長



立命館中学校・高等学校長岡京キャンパス



ニッセイ溜池山王ビル+永田町ビル

設計・計画部門


 もり した だい すけ
森下大右

生年月日 1981年2月京都府生まれ
 最終学歴 2005年 大阪大学
 大学院工学研究科
 環境工学専攻修了
 業務経験 2005年 ㈱昭和設計入社
 現在、建築設計部 主査
 ●担当した主なプロジェクト
 2006年 「キタヤマスギガウゴク」
 2010年 「梅田ゲートタワー」
 2010年 「上原成商事大阪支店」
 2011年 「くらこん本社」
 2015年 「いの町新庁舎」

■青年技術者のことば

建築は人と人が出会う場所であり、人と環境、都市を結ぶ豊かな空間としてあるべきと考えています。

人がその空間でどのような行動をおこし、環境をどのように感じ、人と人がどのように交わり、建築が周辺環境とどのような関係性を持つかなどと建築を通したあらゆる「つながり」を想像して設計を行うようにしています。

インターネットやSNSが普及した現代だからこそ、実物の建築や都市の空間は僕たちにとってより重要な場所になるのではないかと考えています。

建築は経済や法律、機能、重力、環境、歴史、施主の思いなどさまざまな条件の中で成り立っています。

複雑な諸条件のもと、その最適解を紡ぎだす中で、人と人をつなぎ、建築と都市をつなぎ、環境へとつなぐ心地よい豊かな空間を設計することを常に意識しています。

■すいせん者

鳥居久人
 (㈱昭和設計 執行役員)



kitayamasugi

子供たちが触りたくなる動く丸太の柱



kitayamasugi

城南宮の神苑に溶け込むフォリー



kitayamasugi

庭との距離感を自由に調整できる丸太



umeda

梅田と中崎町のイメージをつなぐ



umeda

街をつなぐ通り抜けピロティ



umeda

大きなベンチで街をつなぐ



ueharasei

内外の中間領域



ueharasei

都会の喧騒から優しく包み込むレイヤー



ueharasei

雑多な街の中で外とつながるオフィス



kurakon

緑を通して自然の恵みを感じる



kurakon

みんなが集まるワンルールのオフィス



kurakon

海藻の陰に隠れて用を足す



ino

町民が集う場所となる百年庁舎



ino

光と風が溢れ、一体感を生む吹抜



ino

伝統技術の和紙を後世につなぐ

構造部門

いしやま たつし
石山 達士

生年月日 1980年5月静岡県生まれ
最終学歴 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻修了
業務経歴 2005年㈱竹中工務店入社
現在 名古屋支店設計部主任

●主要作品経歴

小島製作所桑名事業所／豊田合成株式会社 サンコート井之口 研修棟・サンコートイースト 寮棟 研修棟／パークシティ富士見台 B棟D棟／えんてつビル ギャラリーモール／藤田保健衛生大学病院 低侵襲画像診断・治療センター／東亜薬品株式会社 西本郷工場 第二製剤棟物流倉庫

■青年技術者のことば

本建物の設計において、魅せる構造デザインについて特化して取り組みました。初めて取り組む納まりが多く、設計だけでなく製作・施工においても多くの工夫が必要となるプロジェクトで、社内外の方々に多大なるご協力をいただきました。労力をかけたおかげで非常に良い仕上がりとなることができ、建築主のご要望に応えられただけでなく、各担当者の満足度の高い作品に仕上げられたと感じています。その際のモチベーションとなったのが、デザインの魅力を感じていただくことだったのではないかと感じています。

一般の方に理解されにくい解析等を用いていることもあって、構造設計は比較的ドライな印象を受けられがちですが、やはり建築は人がつくるものであり、「想いをかたちに」するための「想い」を伝えることの大切さを再確認させられました。建築を使う方にもつくる方にも魅力・満足感を感じていただけるような構造設計者を目指して今後も努力していきたいと思っています。

■すいせん者

曽我 裕
㈱竹中工務店名古屋支店
設計部構造部門専門役

魅せる構造デザイン 十六銀行天白支店

1. オリジナリティのあるファサード架構の考案

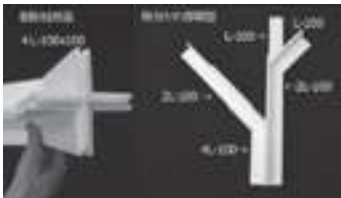
【デザインコンセプト】

本建物の設計にあたり、建築主からは建設地周辺の他銀行との差別化を求められた。



「女性がターゲット」、「明るさ・開放感」というキーワードに対し、隣接する公園の雰囲気や敷地内へ取り込む樹形状ファサードと吹抜口ビーにより、街へと開かれた新たな銀行の有り方を提案した。

【構造計画】



模型 (1/2)

本建物の肝となる樹形柱は、エッジの繊細さと柱としての存在感のバランスが優れていると判断し、全て同一断面の4本のアングル背合わせの柱とした。



構造パース

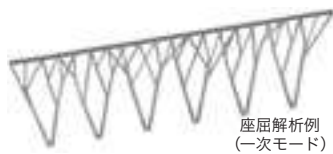
樹木をコンセプトとする樹形柱は、4本のアングルが根元から上部に行くにつれて分岐し、屋根面で見付幅が一本のアングルとなるように構成することで、上部ほど繊細に見えるデザインとした。

樹形柱は鉛直荷重だけでなく地震力も負担させることで、柱の無い開放的な口ビーを実現した。樹木に無駄な枝が無い様に、樹形柱も全て構造材として使用した。

2. かたちを実現する設計手法

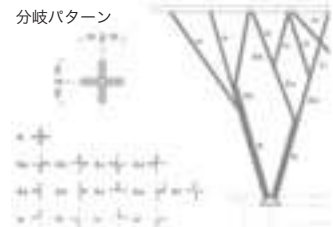
【変断面部材の設計】

樹形柱は複雑な断面構成であるため、個別モデルによる詳細検討を行った。



樹形柱の様に不規則な位置で断面の変化する圧縮材を定性的に評価する手法は確立されていなかった。そのため、樹形柱の座屈解析を行い、座屈荷重から変断面部材としての各種断面係数を逆算する設計フローを考案した。

【構造デザイン】



前述の設計フローを用いた断面検討結果を、樹形柱の枝分かれデザインに反映した。構造性能のみを優先すると、見た目の繊細さが損なわれ画一的なデザインとなってしまうが、部材検定比に応じて枝分かれレベルを構造設計主導で調整することで、安全率は確保しながらデザイン性を損なわない樹形の組み合わせを実現した。

交差部
(施工中)



隣り合う樹形柱同士は立面的に交差している様に見えるが、アングルの組み合わせパターンを調整し「ねじれ」の位置関係で交わすことで、互いの樹形柱は単独で自立し、同一平面内でありながら奥行きのあるデザインを実現した。

3. 魅せるディティール

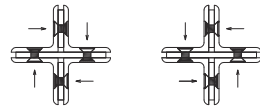
【シームレスな接合部】

樹形柱はほぼ全ての鉄骨部分が露出するため、本建物では特に鉄骨の接合部を意識させないディティールを目指した。



樹形柱は意匠性を重視して高力ボルトは使用せず、皿ボルトと溶接を併用したディティールとすることでボルトの露出しない納まりとした。皿ボルトの納めを互い違いにすることで、溶接前でも綴り板を介して組柱形状が安定し、現場での組柱の施工を可能とした。

皿ボルト納め



【現場施工とデザインの両立】

樹形柱のアングルは両刃ともに完全溶け込み溶接仕様とし、柱脚部は樹形柱の運搬上の問題から全て現場溶接とした。



柱脚BPL



柱脚部納まり

背合わせのアングルの隙間に設ける裏板を建方用PLと兼用する計画としたが、柱とBPLの溶接線が干渉し溶接品質が担保できないうえ、組立溶接が組アングルの間隔に干渉する問題があった。そのため、BPLリブの一部を建方用PL厚さまで削り出すことで、建方用PL溶接を無くし、柱脚部の溶接品質と施工精度に影響を与えない納まりとし、接合部を意識させないディティールを実現した。



構造部門

さ さ き たか まさ
佐々木 隆 允

生年月日 1983年12月生まれ
最終学歴 2008年首都大学東京大学
院都市環境科学研究科
建築学専攻

業務経歴 2008年(株)日建設入社
構造設計部門構造設計室
現在 大阪事務所
エンジニアリング部門
構造設計グループ
構造設計部

●担当した主なプロジェクト

2009年 まりデイサービス内海
2010年 学校法人六甲学院新本館棟
2010年 須磨区役所
2011年 新ダイビル
2012年 吉野川医療センター
2013年 (仮称)新体育館【松江市】
2014年 阿南保育園

■青年技術者のことば

近頃の設計中の関心事は「自分の設計した構造体がいい空間を作るのか」です。自ら設計した建物が完成し、実際見てみると反省点もあり、「次回こそは」という思いからそんなことを考えています。設計中は、多くの条件や要望を汲み取った「空間」を「構造体」と合わせた自分なりの提案するように心がけ、積極的に空間作りに参加しています。建物の空間や外観を魅力的にすることは、建物を使う人達にとってだけでなく、都市形成の点でも重要と考えます。今後はストック活用が求められます。活用の条件として建物の安全性や耐久性は必要不可欠ですが、改修・補強してでもそれを残したいと思う人々がいることが大事だと思います。そのために、設計者は魅力のある人々に愛される空間や都市における建物の役割を設計する。そして構造設計者は、それを共有し実現すべく知恵と技術力を絞って構造体を提案することが必要なのだと思います。自分の携わる建物がそんな大きな都市を構成する一因であると頭の片隅に置きながら、後世に残るような人々に親しみ愛される建築の設計を行っていきたいです。

■すいせん者

田代靖彦
(株)日建設
エンジニアリング部門
構造設計グループ 構造設計部長

約70mスパンの立体鋼管キールトラスの設計と施工計画 (仮称)新体育館【松江市】

1. 建築計画

本建物は市民の身近なスポーツ施設として、また、全国大会やプロスポーツの大会などに対応できる体育館である。さらに、災害時の避難拠点としても十分な機能を発揮できるような構造躯体・非常用設備・備蓄倉庫を備えている。建物外観は切妻屋根を採用することで、ボリューム感の軽減を図るとともに、城下町・松江らしい建物になるような計画としている。

メインアリーナの平面規模は幅41m×長さ67mである。屋根の高さは、外観のボリューム感をできるだけ抑えるという要求と、アリーナ内部で行う各競技に必要な高さの両方の条件から決定した。

2. 構造計画

屋根の構造は、建物中央の越屋根部分に円形鋼管による立体トラス(キールトラス)を約70mのスパンで架け、その両側に長さ約30mの張弦梁をかけ渡す設計とした。これによって、越屋根の高さを抑えるとともに、トラス成を確保でき、張弦梁とすることで可能な限り屋根の高さを下げ

ることに成功している。

また、鋼管によるトラスやテンション材などを用いることで、屋根に躍動感と軽やかさを与えている。さらに、キールトラスを支持する端部は南北外装面より1スパン内側に1階からSRC柱を立てて、柱頭で鋳鋼によるピン接合とし、外装面の通りに引張柱を設けることで、キールトラス中央部のたわみを抑制する機構とした。3階以上の鉄骨部分の水平力に対する設計としては、短辺・長辺方向とも耐震ブレース付きラーメン架構として、屋根に生じた慣性力を屋根面水平ブレースを伝わって、外周架構のブレースから下部耐震壁にスムーズに流れる設計としている。

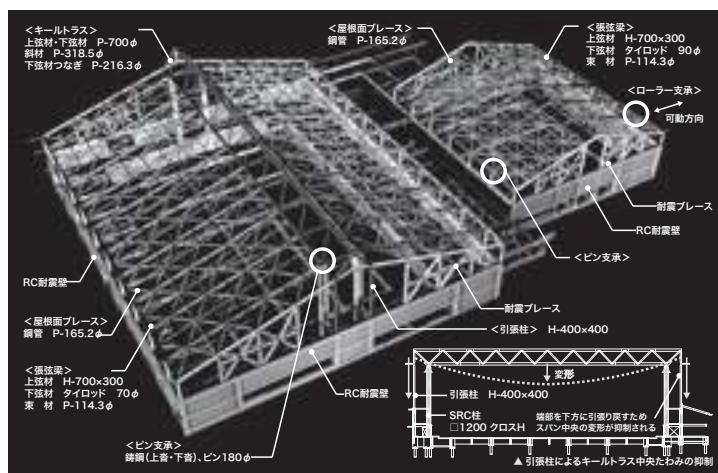
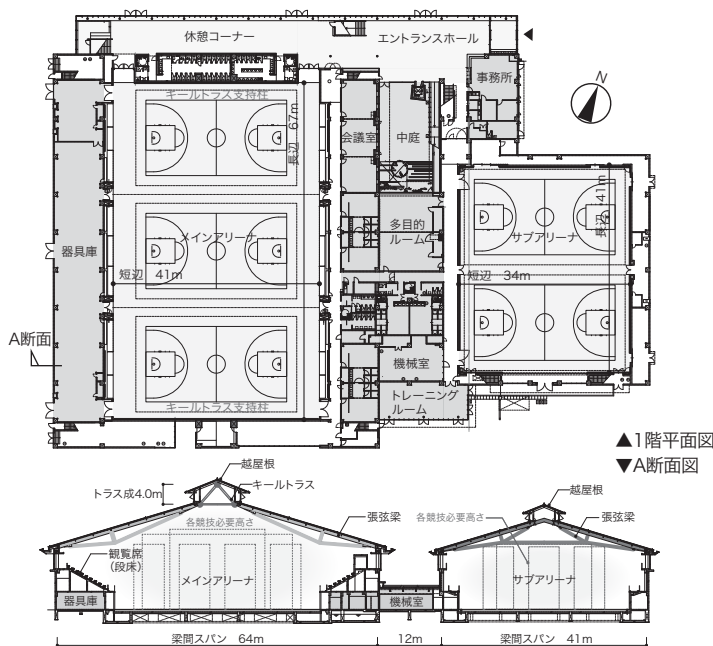
3. 施工計画

設計当初は、キールトラスを仮設支柱で支えながら製作し、地組した張弦梁やブレースなどの鉄骨工事、仕上工事を終えた後にキールトラスをジャッキダウンという施工計画を想定していた。しかし、解析によって想定した施工手順を再現すると、屋根面のブレースがキールトラスの変形を抑え込んでしまい、大きな軸力を負担してしまうことが判った。地

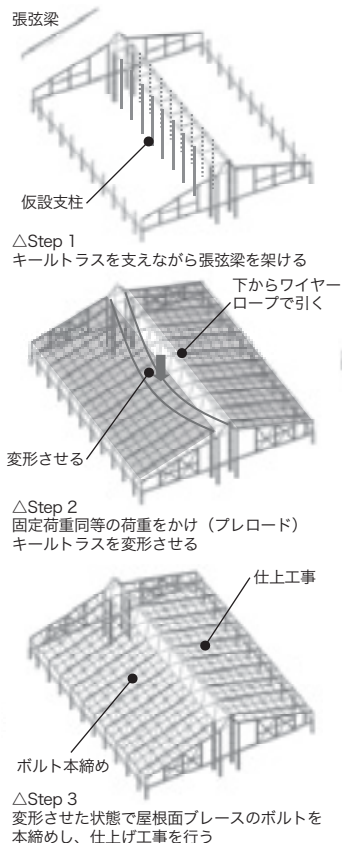
震力を負担する屋根面ブレースに変形による軸力が入ると、屋根面ブレース断面が非常に大きくなり、キールトラスとしての架構システムも不明確になるため、完成時まで屋根面ブレースに軸力が生じさせない施工の工夫が必要と考えた。具体策としては、キャンパーを設けたキールトラスに屋根重量により生じると想定される鉛直変位を、屋根面ブレースのボルト本締め前にあらかじめ与え、変形を生じさせた状態でボルトを締めることで、キールトラスの変形によってブレースに軸力が入ることを避けることができると考えた。現在、現場では施工時解析なども行いながら施工計画を立案し、概ね上記の方針の通り施工中である。この施工計画については、設計者・監理者・施工者を交え何度も議論を交わし、より良い計画を目指した。

4. 終わりに

基本設計から現場まで考えてきたことが、たくさんの人々に支えられ実際の建物になるうとしている。この瞬間を見届け、皆で完成を分かちあ合えることを楽しみにしている。



▲構造計画概要



▲メインアリーナの施工手順



▲メインアリーナ屋根建方状況

構造部門

せり ざわ よし のり
芹澤 好徳

生年月日 1979年11月27日
最終学歴 2005年京都大学大学院
工学研究科建築学専攻
修士課程修了
業務経歴 2005年竹中工務店入社
2006年大阪本店設計部

●主要作品経歴

- ・シスメックステクノパーク計画
- ・三菱倉庫桜島3号配送センター
- ・知恩院新和順会館
- ・報徳学園校舎整備
- ・心臓病センター榊原病院新築工事
- ・天理教愛光分教会講堂
- ・三井倉庫西神戸倉庫
- ・関西学院社会学部建替Ⅱ期
- ・海星女子学院中学校・高等学校
- ・関西学院125周年記念講堂
- ・(仮称)茨木ビル

■青年技術者のことば

構造設計の役目は、空間構築を行い、建物の安心・安全を確保することである。空間を豊かにすることが建物を豊かにし、活かな都市の基盤となる。そのために、技術者個人としての知識・技術の向上は当然必要となるが、設計・構造・設備・施工そしてお客様という多くの関係者と協力し一致団結し一つの目標に向かうことが非常に重要であると考えている。コスト・デザイン・環境等多様化する背景の中で、人の命をあずかる構造設計者としての緊張感を持ちながら、お客様の喜びや空間の豊かさを求めつつ、安心・安全をかたちにしていくというバランス感覚が重要である。既成概念にとられない自由な発想と内容突き詰める信念をもとに、よりよい建築を世に残し、社会に貢献していきたいと思っている。

■すいせん者

村上陸太
榊竹中工務店大阪本店
設計部構造部門統括部長

伝統の継承・発展を実現するキャンパストータルデザインに基づく耐震改修～神戸海星女子学院中学校・高等学校～

1. プロジェクトの経緯

当プロジェクトは築60年の当校舎の整備計画である。お客様の意向・要望とともに既存意匠への愛着を深く感じ取り、計画策定に当たり2008年より建築主の海星女子学院と綿密な協議を行った。当建物は関西建築界の大御所「竹腰健造」の代表作品のひとつである。戦後の困難な状況の中、神戸市灘区青谷町にてRC造3階建ての校舎として1950年に完成に至り、1965年には4階を増築している。その後、キャンパス内の建物は中高棟同様のデザインを継承している。彫の深いフレームの間に細やかな柱を端正に設置し、フレーム及び間柱に設けられたくり型により印象を深めている。(図-1)

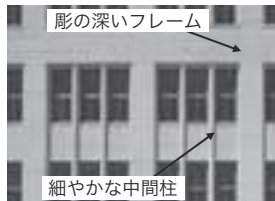


図-1 既存建物のファサード

キャンパス配置図を図-2に示す。2008年当初は機能と耐震性の改善を図るため、敷地南側で全面建替で検討していたが、愛着ある現校舎解体に対する学校関係者の反対もあり、計画自体の見直しを行うこととなった。その後、小学校の耐震改修の実績が高く評価され、今回の計画である改築+耐震補強へと方向転換をした。

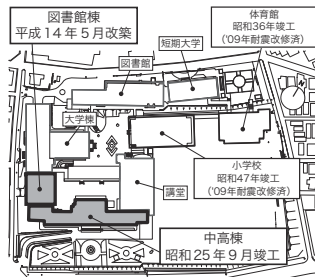


図-2 キャンパス配置図

2. 建築概要とコンセプト

2. 1 お客様要望とコンセプト

当計画策定におけるお客様の要望は、主に下記3点である。

1. 長く愛される景観と建築
2. 人間形成の一助としての空間創出
3. 耐震安全性の確保



図-3 改修前の中高棟外観(南東側より)

この要望に応えるために、耐震改修コンセプトをⅠ～Ⅲの3点考えたので、以降で詳細な説明を行う。なお、今回の計画は単純な耐震補強ではなく、一部の改築も含めた広義の意味の耐震改修である。

2. 2 コンセプトⅠ：保存的改修

中高棟は、既存意匠を継承した外殻フレームを主として耐震改修とした。2本の中央間柱は、剛にメインフレームに接続せず、ダボ筋を中央のみに配置することで、地震時発生応力を軽減し、既存同等断面で地震時の損傷を低減することを実現した。構造検討だけでなく、設計・設備と協業し、環境負荷や機能性にも配慮した。日射制御シミュレーションを行い、外殻フレーム設置による直達光低減効果と室内照度分布・デザインのバランスについて、お客様とともに十分な議論をした。

図-3に南面の改修前の、図-4に改修後の写真を示す。竣工当時の雰囲気そのままに再生・発展したことを表現した。

図書館棟の改築は、既存校舎のプロポーションとディテールを慎重に読み取り外観に適用し、ファサードの統一感の増加を実現した。図-5に東面の改修前の、図-6に改修後の写真を示す。



図-5 改修前の図書館棟外観(東側より)



図-6 改修後の図書館棟外観(東側より)

2. 3 コンセプトⅡ：機能的改修

中高棟は職員室と普通教室を配置し内装及び設備改修を行う。また、図書館棟は最新鋭の設備が必要となる特別教室と図書室を配置する。この2つを合わせて、全体としての機能

向上を図り、改修だけに囚われない柔軟な発想が特徴である。

中高棟は、現状の使い方と合わせた諸室の配置見直しを行うとともに、その隔壁に耐震補強要素を配置している。内装の改修、トイレのリニューアル、設備の全面更新を行うとともに、特別教室は図書館棟に移設している。

2. 4 コンセプトⅢ：耐震的改修

中高棟は、耐震改修促進法に基づく耐震改修としており、補強後は1s値0.7以上を満足している。

図書館棟は現行基準により改修を行っている。南北方向をラーメン架構とし、伝承のファサードによるフレームをラーメンに採用している。(図-7)

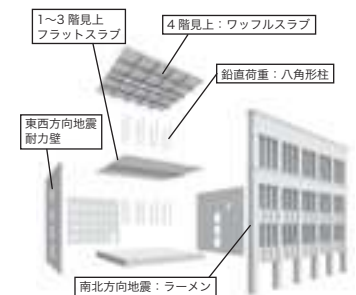


図-7 図書館棟の構造概要

階高3,939mm(13尺)と階高の低い既存中高棟と接続し、天井内設備の多い特別教室の天井高さを確保するために、最新技術であるアンボンドPCを用いた小梁なしスラブと逆梁を採用している。(図-8)

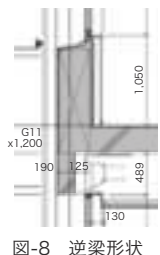


図-8 逆梁形状

3. まとめ及び将来の展望

今回、お客さまのご理解・ご協力のもと、既存意匠を継承する外殻フレームを主とした耐震補強・改築を行い、建物の機能を向上させるとともに、そのフォルムにて力強く再生・発展したことを表現できた。キャンパス全体のデザインまで踏み込んだ、魅力ある空間を創出できたと考えている。

今後もお客様の思いを慎重に汲み取りながら、設計・設備・施工とともに真摯に建物と向き合うことで魅力ある空間・建築を一つでも多く世に遺せるように努力していこうと思う。



図-4 改修後の中高棟外観(南東側より)

構造部門



た な か ひ ろ き
田 中 宏 樹

生年月日 1981年6月静岡県生まれ
最終学歴 2007年千葉大学大学院
自然科学研究科建築専攻
博士前期課程修了
業務経歴 2007年株式会社林組入社
2007年本店建築設計部
2009年東京本社構造設計部
2011年大阪本店構造設計部

●担当した主なプロジェクト
2009年 東雲キャナルコート地区
(複合用地2街区)計画
2009年 川崎市営河原町住宅
耐震補強工事
2011年 北区赤羽南1丁目計画
2011年 愛仁会看護助産専門学校
2012年 イオンモール和歌山
2014年 神戸市第11次クリーンセンター

■青年技術者のことば

近年増々複雑化している建築の中で構造設計者の役割は大きなものになってきている。数多くの人が協働して一つの建築を造り上げる中で構造設計者の仕事の範囲も広がってきているように思う。日々進化している専門技術の習得はもちろんのこと、「安全の見える化」や顧客に対する構造性能の説明など自分の設計内容を語れる能力も必要となってきている。この能力は詳細な検証による根拠の裏付けや新しい技術に挑戦することで伸びていくものだと思う。また、昨今「安全神話の崩壊」といった構造安全性に直結する話題が数多くある中で、安全性とは何かということを考えて考えさせられた。構造設計は、架構の選択から始まり部材のディテールの決定に至るまで単に数字だけでは表せられない数多くの検証が必要で、単純に数字だけでは表現できないものである。安全性は知識、経験又はアイデアから検証を行い、根拠を積み重ねることで得られるものだと思う。新しい技術に挑戦し、それを検証して設計に反映する。その設計したものが多くの人に喜ばれる。そこに構造設計者としての喜びがあると思う。そんな喜びを感じられる設計者になれるよう日々精進していきたいと思う。

■すいせん者

安井雅明
(株)大林組 大阪本店
建築事業部構造設計第二部 部長

外付けメガ制振フレームと2棟連結による集合住宅の居ながら耐震改修

本計画は、神奈川県川崎市にある河原町団地内の市営住宅の耐震補強である。外付け制振フレームによる補強を行い、人が住み続けながらの居ながら耐震改修を実現した。

●補強計画概要

補強対象建物は、別棟の2棟で構成される板状集合住宅が、中庭を挟んで向かい合った配置となっている。長辺方向である南北方向は、外付けメガ制振フレームをスキップ配置した構造計画とした。制振ダンパー架構下部に場所打ちコンクリート杭を設け、安定した軸耐力を確保するとともに、杭先端を支持地盤に約10m貫入させることで引抜き力を処理し、制振ダンパーの効果を発揮できる基礎計画とした。

●2フロア1ユニットの「メガ制振フレーム」

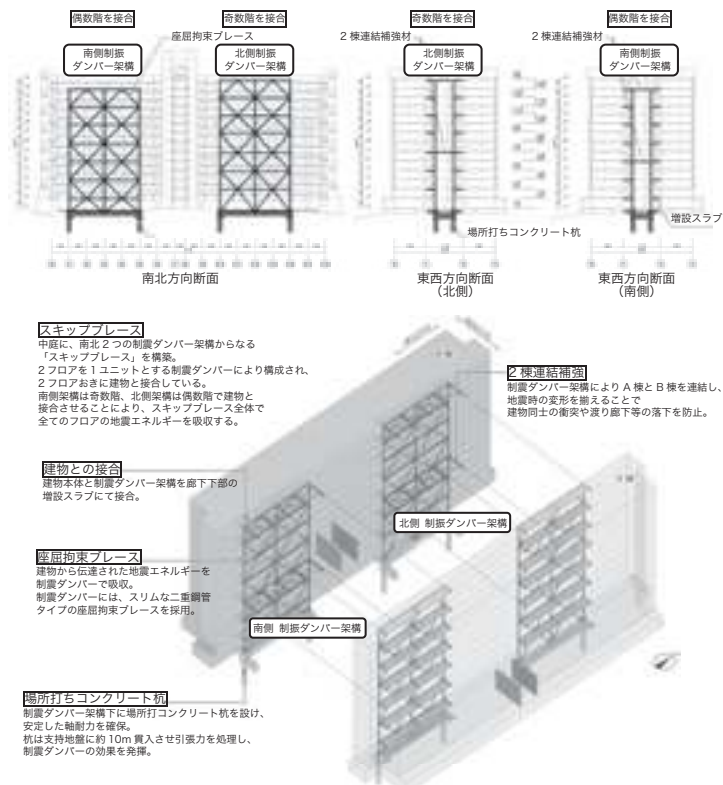
2フロア1ユニットの大組の制振架構を中庭側のみに採用する計画とした。1フロアごとに制振架構を組む場合に比べ、補強箇所数を減らす効果がある。制振ブレースには二重鋼管タイプの座屈拘束ブレースを採用することでスリムな制振架構を実現し、かつ大組の架構を共用廊下から離れた位置に配置することで、補強部材による圧迫感を減らし開放性も確保した。中庭側のみに制振架構を配置することで、各戸のバルコニーの改修を行わず共用廊下のみを改修範囲とすることで、居ながら補強が可能となった。

●「スキップブレース」

中庭側に南北2つの「メガ制振フレーム」を配置した。2フロア1ユニットの大組架構のうち、南側架構は偶数階、北側架構は奇数階と連結させた「スキップブレース」構造とすることで、全体で全てのフロアの地震エネルギーを吸収する補強フレームを実現した。

●「2棟連結補強」

中庭を挟んで向かい合う2棟の建物を、最上階と中間階付近の水平面内に配置した「2棟連結補強材」で連結した。長辺方向のメガ制振フレームはそれぞれの棟にとっては片面補強による偏心が生じるが、2棟を連結することで全体としては偏心のない計画とすることができた。また、2棟間の地震時の相対変形を抑制する効果もあるので、建物同士の衝突や渡り廊下等の落下を防止し、安全性を高めることができた。



圧密沈下に配慮したフローティング基礎の構造設計

本計画は、兵庫県神戸市のポートアイランドに新設する地上6階、地下1階の大規模ごみ処理施設である。建設地は現在も圧密沈下が進行している地盤である。

●地盤の状況と基礎形式

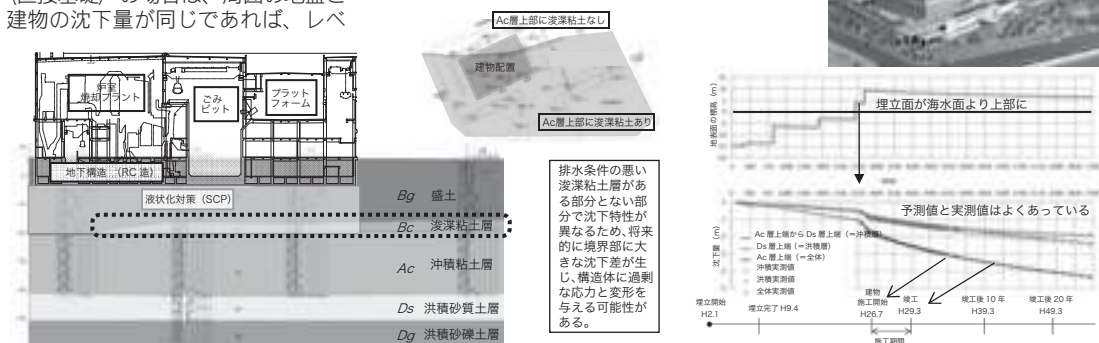
建設地は、埋立て開始が1994年の若齢埋立て地盤であり、現在も圧密沈下が進行中である。圧密進行中の地盤に対して、杭基礎の場合は建物周囲の地盤と1階にレベル差が生じ、将来その対応が必要となる。フローティング基礎（直接基礎）の場合は、周囲の地盤と建物の沈下量が同じであれば、レベ

ル差が生じる問題は解消できる。

●沈下予測解析

フローティング基礎と周辺地盤の沈下量を同じにするためには、排土重量と建物重量をバランスさせ地盤への増加応力をなくす必要がある。また、プラントという特殊性から荷重の不均一性があり、不同沈下も生じるおそれがあるため、正確な沈下量を予測する必要があった。沈下量の予測は、建物重量の偏在、地盤剛性、建物剛性を考慮した3次

元FEMモデルによる詳細な沈下解析を行い、建物に生じる全体沈下量および不同沈下量を予測した。3次元モデルによる沈下予測と実測値の経時特性はよく合っており、3次元モデルによる沈下予測解析の精度が高いことを確認した。また、不同沈下による変形差を強制変形として作用させ、圧密沈下の影響を部材設計に反映した精度の高い検討を行った。



設備部門

う りゅうりょう た
瓜 生 陵 太

生年月日 1983年9月福岡県生まれ
最終学歴 北九州市立大学大学院
国際環境工学研究科環境工学専攻修士課程修了
業務経歴 2008年㈱竹中工務店入社
2009年九州支店設計部
2011年九州支店見積部門
2012年～九州支店生産統括部設備技術
●担当した主なプロジェクト
2009年 瀧光徳寺信徒会館講義棟
2010年 青島シティプラザ
設備基本計画提案
2010年 キャナルシティ博多改修
2012年 FC新放送センター
2013年 西南学院大学本館建替
福岡バルコ増改築
2014年 九大（伊都）総合研究棟
（理学系）他施設整備事業

■青年技術者のことば

建築設備、特に省エネ・情報技術は、更なる便利さの追求、企業の社会的責任、急速な情報技術の発達によって高度化、複雑化するであろう。それがユーザーの求めた結果であっても高度で複雑な設備は敬遠され、普及しない。設備技術者に求められることは、高度な技術を扱いながらも、利便性やメンテナンス性を考え、そこで活動する人々に寄り添ったものづくりを行うことである。

また、施工管理者の取り組みとして、生産性の向上を図り労務負担を平準化させることは、工程の短縮・品質向上・コスト改善に加えて、実用上のものをつくる作業員の労働環境の改善にもつながる。建設現場を魅力あるものづくりの場とすることもゼネコンの施工管理者としては重要なことである。ものづくりは多くの人の手を介して成し遂げられ、その先にはそこで活動する人々の営みがある。ゼネコンの設備技術者に求められることは、建築・設備をはじめとする建設に関わる技術・人を束ね、その建物に求められる安全、安心、快適性などをかたちにすることであると考える。

■すいせん者

小柳真二
㈱竹中工務店九州支店
生産統括部設備部長

教育・研究施設における設備生産性、品質向上に向けた取り組み

教育・研究施設における建築設備は、利用する学生や職員が安全に利用できること、研究や教育を支えるユーティリティ設備としての機能を満足すること、キャンパス全体の模範となるような建築設備であることが重要である。今回、設備施工者として担当した2つの教育・研究施設における取り組みを紹介する。

■西南学院新本館建替

100周年事業の一環として本館の建替を当社が設計施工で実施するに至った。エコキャンパスを推進する学院の模範となる本建物には様々な省エネ技術が採用されている。学院にとって初めての設備もあるため、それらのメンテナンス、運用に配慮した利便性のある省エネ技術の実現を課題とした。

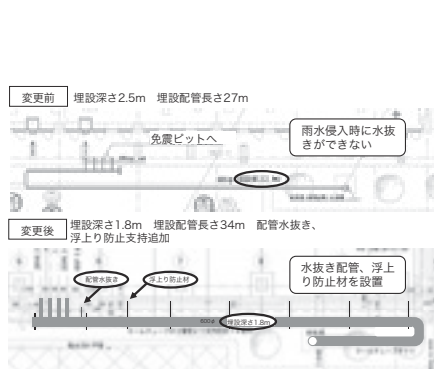


図1 クールチューブの施工検討

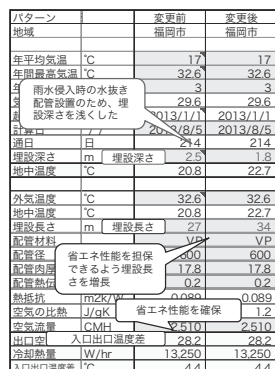


表1 クールチューブの性能検証

●パラメーター制御による自然換気

外気冷房を促進する仕組みとして、共用廊下及び光庭に設けられた電動窓が、外気条件により自動開閉する自然換気窓が採用されている（図2）。実際の運用をイメージすると、時々刻々と変化する窓開閉状態と開閉条件で、その後の窓の動作も変わってくるのが想定された。そこで実際に起こり得るすべての開閉条件と窓の動作について、パラメーター入力を行い実際に窓が開閉するか確認を行った（表2）。

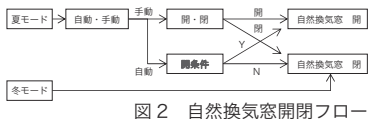


図2 自然換気窓開閉フロー

自然換気窓	開閉条件	モード変更「開」	モード変更「閉」	変更後の自然換気窓	判定
開	夏/手動	夏/自動	冬/手動	夏/自動	○
	冬/手動	冬/自動	夏/手動	冬/自動	○
	夏/手動	冬/手動	夏/手動	冬/手動	○
	冬/手動	夏/手動	冬/手動	夏/手動	○
閉	夏/手動	夏/自動	冬/手動	夏/自動	○
	冬/手動	冬/自動	夏/手動	冬/自動	○
	夏/手動	冬/手動	夏/手動	冬/手動	○
	冬/手動	夏/手動	冬/手動	夏/手動	○

表2 自然換気モード切替による窓開閉確認

■九州大学(伊都)総合研究棟(理学系)他施設整備事業

総合研究棟（理学系）他施設整備はPFI事業により実施するプロジェクトであり、建設・移転から維持管理・運営まで約14.8年に及ぶ事業となっている。

建設段階においては、建設労働者の慢性的な不足という社会背景、大規模現場の膨大な工事量という特性を踏まえ、工程に合わせた計画的な作業員配置、効率的な工法・品質管理による生産性の向上が重要と考えた。

●室外機ユニット工法

建物の屋上には約240台の室外機が配置されている。それらを1台ずつ揚重・配置していくことは他の工事の遅延、後の試運転工程の圧縮につながるが予想された。共通架台1台あたりに3～5台の室外機と室外機用動力盤をユニット化し工場内で組み立てることで、揚重回数の低減による工程短縮、ホイストクレーンによる揚重や平地での作業による組立効率の向上を実現することができた。ユニット工法の採用により、従来工法に比べ、約5日（▲40%）の工程短縮、1～3月の冷媒配管工の工数50人工を12月に前倒しすることができた（写真1、図3、4）。

●デジタル機器を活用した品質管理の実施

現地での品質管理にタブレットPC（図5）やデジタル満水圧計（図6）を採用することで、施工管理者側の作業効率の向上及び現場へのタイムリーな指示、品質管理の向上を図った。

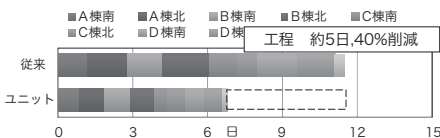


図3 室外機ユニット化による工程短縮

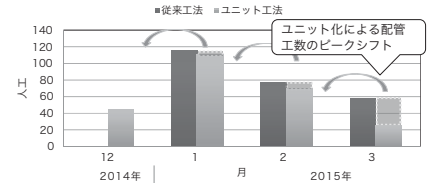


図4 室外機ユニット化による配管工数短縮



図5 タブレットPCによる品質確認

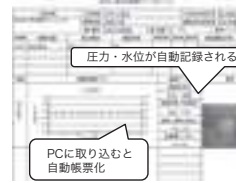


図6 デジタル満水圧計による水圧試験

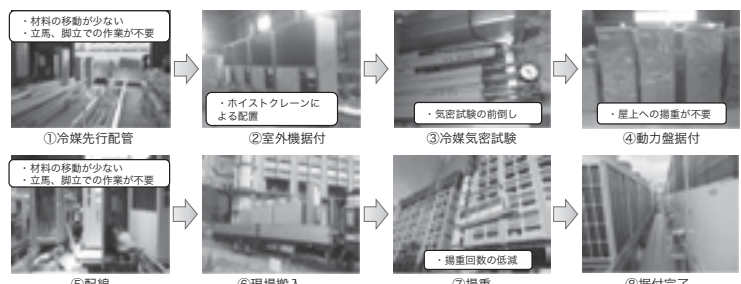


写真1 室外機ユニット化手順

設備部門



前川直也

生年月日 1983年12月兵庫県生まれ
最終学歴 2006年職業能力開発総合
大学校生産機械工学科卒業
業務経歴 2006年㈱竹中工務店入社
2007年九州支店生産統括
部設備技術グループ
2010年九州支店設計部門
設備グループ
2011年大阪本店設備部
(大阪中部地区FMセン
ター)

●担当した主なプロジェクト
2007年 オンワード樫山空調改修
2007年 イオンモール都城
2008年 バルコ天神2丁目ビル改修
2011年 大阪第一生命防災設備更新
工事
2012年 川西第一生命ビル空調更新
工事
2013年 新大阪第一生命ビルDDC
更新工事3期
2014年 大阪第一生命ビル19階銀
行内ビルマルチ更新工事
2015年 大阪ダイヤビル防災盤更新
工事

■青年技術者のことば

まだ経験の浅い設備技術者である私が、このような高天井エリアの吊り足場を利用した空調機の更新工事の改修プロジェクトに関わり、頭を抱えて悩みながらも問題解決策を導いて行けたことは今後設備技術者としての私自身の大きな糧となる経験であった。また、この困難な工事を、無事故・無災害で達成できたことについて、計画から実施に携わったすべての方々に感謝する。

私達FMセンター所員は、新築現場の華やかさと比べると目立たない工事に携わる事が多いが、社会環境が、スクラップアンドビルドからストック市場の有効活用に移トする中で、私が経験したのと同様に、困難な工事でも建物運営に支障なく成し遂げる技術力が今後求められるであろう。私自身、今後も尚一層これらのニーズに答えていくべく自己研鑽を図り、設備エンジニアリング力を磨くことで社会にさらに貢献していけるよう努力を続けていく所存である。

■すいせん者

吉川 淳
㈱竹中工務店大阪本店設備部長

高天井エリアのテナント空調改修工事におけるテナント営業への支障ゼロへの追求

本工事は、2014年に竣工した19階銀行エリアのビルマルチ更新工事で、図1に示すように、天井高5,400mmの銀行において、天井面よりさらに5,600mmのふところを有する天井内に設置された天井隠蔽型の室内機と塔屋に設置された室外機の更新工事であった。この工事は、私がこれまで担当した中で、最も困難をきわめた工事の一つであった。その中、安全・品質・工程面で私が直面した課題とそれらを一つ一つ解決させた取り組みについて説明する。

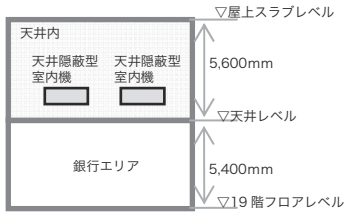


図1. 19階室内機設置概略図

1. 課題と対策

1-1. 複雑な形状の高天井内できに作業を行うか。

1-1-1. 問題点

一般的に、テナント内で行う天井隠蔽型の室内機更新工事は、室内機直下の天井を解体し、室内機の撤去新設及び配管・ダクト・電気の切り離し、再接続を行い、最後に天井を復旧する。しかし、今回対象となった銀行の天井は、図2に示すようにダイノックシート貼りで複雑な曲線も取り入れた意匠にこだわった造りであった。そのため、一度天井を解体すると復旧が困難と想定された。また、高天井のため、通常の手順では銀行内に作業用足場を組む必要があり、銀行の営業に多大な影響を及ぼす恐れがあった。

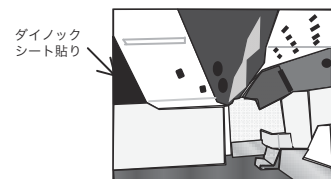


図2. 銀行内天井の状況

1-1-2. 対策

本工事では、外部から天井内にアクセスすることで、銀行内の複雑な天井を解体する必要のない手順を採用した。また、各室内機への導線は、当初メンテナンス用に設置された既存のキャットウォークを検討したが、キャットウォーク上にダクトや配管が交錯していたこと、また、キャットウォークの支持材が、新設室内機を運搬するにあたり、その重量に耐えられないこともあり、図3に示すように既存梁を利用して天井内に吊り足場を設置し、各室内機にアクセスできるようにした。これにより、複雑な形状の高天井内で銀行の営業に支障なく、安全に作業する事が可能となった。

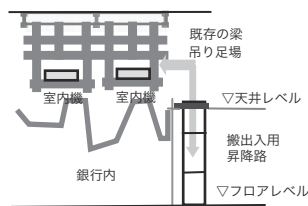


図3. 天井内吊り足場概略図

1-2. 営業している銀行において、いかに営業に支障なく空調機を更新できるか

1-2-1. 問題点

一般的に、室内機の更新手順は、図4に示すように配管・配線、ダクトの室内機から切り離し→既設室内機を撤去→室内機を新設→配管・配線、ダクトの接続となるが、この手順では、空調停止期間が1週間を要する。また、天井内にはぶどう棚が設けられており、既設室内機、配管、ダクトはぶどう棚から取付けた吊ボルトにより支持されていた。そのため、ぶどう棚の下部は、既存配管・配線、ダクトさらにそれらの吊ボルトが障害物となり移動も困難な程劣悪な作業環境であり、さらに空調停止期間に長期間を要し銀行の営業に多大な影響を及ぼす恐れがあった。

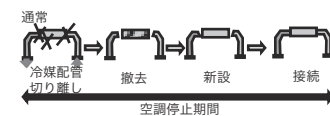


図4. 一般的な空調機更新手順

1-2-2. 対策

上述のぶどう棚の上部は、既存配管、配線、ダクト、吊りボルトが少なく、比較的作業環境が良好であったため、本工事では、ぶどう棚上部に空調機を先行設置する計画とした。また、更新に伴い吊り足場を組むことで、配管・配線、ダクトを先行で接続しておくことを可能とした。このことにより、空調停止期間を配管・配線、ダクトの切替作業に限定でき、銀行が休業している土日のみの空調停止を実現した。(図5に示す更新手順参照)

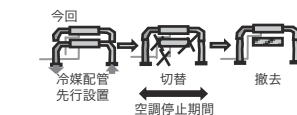


図5. 室内機先行設置の空調機更新手順

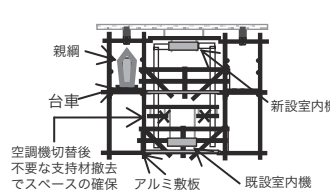


図6. 室内機更新用足場概略図

1-3. 更新後のメンテナンス性をいかに高めるか

1-3-1. 問題点

更新後の室内機は、天井スラブに近い高さに設置されるため、既設のキャットウォークを利用できない

1-3-2. 対策

作業用足場の一部をメンテナンス歩廊として流用する事で、各個別室内機にアクセスできるようにした。これに伴い、仮設足場の幅は、通常の800mmからフィルター等の備品運搬を可能にするため、960mmとした。また、通路面から上部単管までの高さは、歩行性を重視し、1960mmとした。さらに、養生ネットで囲む事による落下防止、室内機下部に足場板を敷く事による室内機周辺の作業性の向上等、メンテナンス性を考慮した整備を行った。この吊り足場のメンテナンス歩廊への流用については、監督署とも十分に協議を重ね、了承を得た。

2. 施工計画の立案

1の課題と対策で述べた吊り足場の設置は、室内機の更新手順に応じてタイムリーな盛替えを要する。そこで、吊り足場の施工手順と、空調機の更新手順を組み合わせた作業ステップ図を作成し、どのタイミングで吊り足場の盛替えが必要かを明確にした。また、次のステップへの移行に伴う足場盛替え作業に先立ち、漏えい試験や風量測定、機器試運転等各ステップで完了した空調工事の品質チェックを行い、足場盛替え後の空調工事の後戻り作業が無いようにした。

3. 付加価値提案

室外機排熱用の大型強制排気ファンを撤去し、省エネルギーを図る。室外機周辺には、ショートサーキットの対策として室外機運転時常時運転している大型の強制排気ファンが設置されていた。そこで、排気ファン撤去による省エネルギー化を検討した。一つ目の対策として、室外機自体の排熱排出能力を高めるために、室外機内蔵の排気ファンの機外静圧が高い高静圧タイプの室外機を採用、二つ目の対策として排気ダクトの抵抗を下げるため、ダクトサイズを大きくすると共に、曲りを少なくし、できる限り垂直に立ち上げ距離を短くした。これらの対策を取り入れた場合の気流解析を行った結果、強制排気ファンを撤去しても、排熱排出に問題が無いことが確認でき、年間約67,500kWhの省エネルギーを実現する事ができた。その他、既存室内機は、中央監視から空調管理を行っていたが、制御点数上の制約により、故障監視がビルマルチの周辺機器である全熱交換機等と共用となっており、中央監視で故障表示しても、どの機器が故障しているか不明であった。そのため、本工事では、中央監視室に新設ビルマルチ及び周辺機器用の集中管理コントローラーを設置し、新設ビルマルチの監視を中央監視装置から切り離した。これにより、ビルマルチ、各周辺機器について、個別に故障表示が可能となり管理しやすくなった。以上により本工事の完遂およびビルとしての付加価値の向上を行うことが出来た。

設備部門

まつ した あや
松 下 文

生年月日 1979年9月奈良県生まれ
最終学歴 大阪市立大学大学院
工学研究科都市系専攻
修士課程修了

業務経歴 2004年(株)竹中工務店入社
設計部設備部門
2007年(株)TAKシステムズ
出向
2011年設計部プロダクト
部門

●担当した主なプロジェクト
2005年 カネカ高砂第二光雲寮
2006年 日土地天満ビル
2006年 カミッ京都マツダ宇治店
2012年 京都銀行歌島橋支店
2012年 京都銀行西七条支店
2013年 大型熱源改修による3D
スキャナ活用
2014年 梅田1丁目1番地計画大
阪神ビルディング盛替工事

■青年技術者のことば

環境共生・省エネ・BIMという言葉に注目が集まる中、設備設計者の業務範囲は拡大し続けている。中でもBIMの有効活用は建設業界の大きな課題であるが、未だ明確なワークフローが確立されておらず、設計者が業務範囲外の問題で頭を悩ませている状況である。この課題を解決し、設備設計者が本来の業務に注力することができれば、「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という所属する組織の理念に繋がるという信念のもとBIM活用手法の開発と実践に取り組んだ。

建築は、知れば知るほど個人の力だけではどうにもならない部分が多い。しかし、個々の専門性を合わせれば可能性は無限大であり、専門機能が協力しあうことで建物の魅力は何倍にも増し、省エネ性能も高くなる。そのような業務の一端を担えることを幸せに思うとともに、設計施工の職能間の連携において、その大きな要となるBIMへの探求を自身のライフワークにしたい。

■すいせん者

隅 和弘
(株)竹中工務店 大阪本店
設計部 設備部長

京都銀行歌島橋支店・西七条支店 ～BIM活用による意匠性と機能性を兼ね備えた空間の提供～

本プロジェクトは、ロビーと営業室の天井高さが通常の店舗よりも高めに設定されており、高天井空間の快適性と天井内の納まり検討が最重要課題であった。設備設計者自身がBIMツールを活用することで上記の課題解決を効率的に行い、意匠性と機能性を兼ね備えた高天井空間を提供することを目標とした。

●空調システムと天井内 納まりの同時検証

ダクトルートの基本方針図を検討する際、設備設計者自身が設備系3D-CADで作図することにより、システムと納まりの両方が考慮されたルートを手戻り無く決定することができた。(図1) 検討に用いる構造モデルは、構造計算ソフトから出力されたIFCデータを活用することで、他職種とのBIMデータ連携による効率性の追求および最新図との整合性の確保にも成功した。

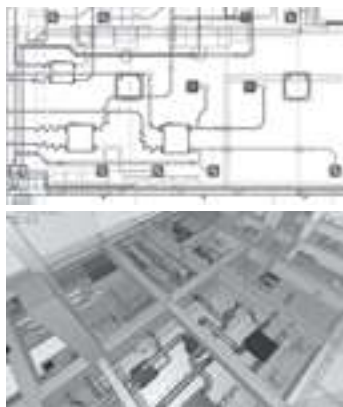


図1 ダクトルート基本方針図
(上: 2D表示 下: 3D表示)

●気流・照度解析との連携

高天井部の気流・照度解析を行う際、BIMデータを活用することで、正確かつスピーディに解析を行うことができた。(図2)

照明計画は斜め天井の意匠と統一性を持たせると共に床面のみでなく垂れ壁部の明るさ感も建築主と共有した上で決定した。(図3)



写真1 京都銀行歌島橋支店



写真2 京都銀行西七条支店

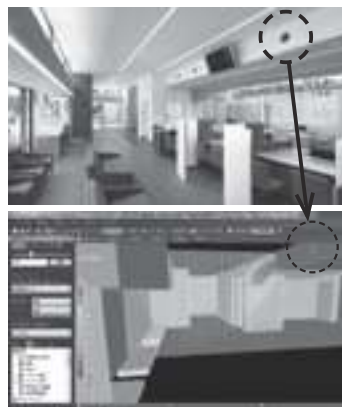


図2 ノズル型吹出口からの気流解析
(上: 竣工写真 下: 解析画像)



図3 照度解析
(上: 竣工写真 下: 解析画像)

大型熱源改修における3Dスキャナ活用 ～正確かつ効率的な現況把握～

建物の省エネ性能を改善する目的で設備改修を行う際、既存の機械室の把握は、設計者が各種検討を行う上で重要となる。しかし、多くの現場で竣工図と現地の不一致により現況把握が困難となり、現地確認のために膨大な日数と費用がかかるという問題が起きます。上記問題を解決するために3Dスキャナで撮影した点群データを設備設計者が有効活用する手法の開発に取り組み、実物件において効果を検証した。



図4 点群データ
(ペイント文字もスキャン可能)

●点群データの活用

点群データで可能なことは以下のとおりである。(図4)

- ・撮影位置から360度回転させて現地を「見る」
- ・寸法を「測る」
- ・「干渉チェック」ができる

点群データがあればいつでも再現地調査が可能となる。撮影直後の点群データは「配管属性」など設備設計者に必要な情報が不足しているが、点群処理ソフトや設備系3D-CADにより属性を付与させると活用の幅はさらに広がる。(図5)



図5 属性付与
(左: 無属性 右: 有属性)

●今後のBIM活用

数年前と比較するとBIMツールの進歩は著しい。BIMによって、2D図面のみでは説明しきれなかった部分が「見える化」でき、プロジェクトチーム内での「情報共有ツール」として有効に働いているが、BIMモデルには「見える化」や「情報共有ツール」以上の可能性がある。今後は、設備設計にとって重要となる計算やシミュレーション連携への取り組みを強化したい。また、BIM活用によって省エネ性や生産性が向上するようなコンピュータシミュレーションとの連携や、FM領域での建物の長期修繕計画に繋がるデータの提供など、設計者のみでなく、施工者、発注者、建物管理者、エンドユーザー等全てのステークホルダーにとってメリットになるようなBIM活用手法を見出したいと考えている。

設備部門

まつしま たかゆき
松島孝幸

生年月日 1981年12月2日
最終学歴 工学院大学大学院
工学研究科
建築学専攻 修了
業務経歴 2006年 ㈱日建アクトデザイン入社
2013年 ㈱日建設計入社
設備設計部門設備設計部
2015年 エンジニアリング
部門監理グループ監理部
●担当した主なプロジェクト
2006年 リゾートトラスト／エキシブ有馬離宮
2007年 中之島フェスティバルタワー
2008年 京都産業大学／生命学部棟
総武カントリークラブ
2009年 須磨区役所／須磨保育所
2010年 尼崎塚口統合新病院
2012年 近畿大阪銀行本店空調改修
2012年 松江市新体育館
2013年 中之島フェスティバルタワーウエスト

■青年技術者のことば

昨今の建築物、特に設備システムはオートメーション化が進み、省エネルギーの殆どが機器効率やシステム制御で成り立っており、建物管理者や設備設計者・施工者のみの閉じられた領域で完結している。

そのため、実際に利用する建物使用者が介在する事は殆どなく、「どのようなエネルギー」が、「どのような個所」で「どれだけ使われているか」を把握する術もなければ、興味を抱くような仕掛けもないのが現状である。

利用者が興味を抱けないと、親しみを持たないと、居住者・利用者自身が長く使い続けることや、エネルギー消費を少なくしようという意識をも低下させてしまい、結果として建物そのものの存在価値が薄れることとなる。

そのようなことから、私は設計を行うにあたり、ソフト面では利用者が如何に興味をもち、関与し、親しみを持つことができるか、ハード面では自然エネルギーを有効利用できる設備システムを構築できるかを熟慮し、建物利用者から親しみを持たれ、長く使われる建物を設計していきたいと考えている。

■すいせん者

丹羽勝己
(株)日建設計 エンジニアリング部門
設備設計グループ
設備設計部部長

中之島フェスティバルタワーにおけるサステナブル建築への取り組み

中之島フェスティバルタワーは、51年間に渡りたくさんの方に愛されたフェスティバルホールを再生しながら、高層にテナントオフィス、中層に朝日新聞社が入居した文化・経済・情報の発信拠点として2012年10月に完成した。

次世代に渡って愛され続ける「サステナブル建築」を目指して、良好な室内環境を維持した上で、熱源・ホール・オフィスなどの既存技術を進化させ、建物の省エネルギー化やヒートアイランドの解消を図った。

●超高層ビルでの外気冷房

自然エネルギーを利用した空調システムとして「自然換気」や「外気冷房」が挙げられるが、「自然換気」は外壁に面した部分に開口を設ける必要があり、超高層建築においては建設投資という意味での費用対効果が得られにくく、採用が困難である。また、外気冷房に比べ、実施できる期間が短く、室内環境にバラつきが生じる可能性も高いため、空調機を稼働させる事も多い。

一方、「外気冷房」は外気取入れのための動力は必要となるが、安定した空調が可能で、適用可能な期間も比較的長いと、外気冷房を採用する事とし、建物機能上必要となる便所排気のボイドと、デッドスペースとなる通過階のEV乗降口ビーを給気ボイドとして有効活用した(図-1、図-2)。

●省エネと室内環境維持の両立

省エネルギーのために室内環境を犠牲にしてしまうと、居住者が愛着を持たなくなり、長く使われる建物にはなりえない。室内環境と省エネルギーの両立のためには、空調ゾーニングの細分化、制御が必須となる。空調機ファンインバーター制御も有効ではあるが、インバーター制御の最低値には限界があるため、空調機自体を細分化し、ファン容量を小さくすることで、インバーターの効果を最大限発揮することが可能となる。室内制御に関しても、負荷形態の異なるペリメーターとインテリアに分けた風量制御での室温の均一化や人感センサーでの外気風量制御を行うことで、省エネルギーを図ることができる。本建物では1フロアに空調機を20台、ゾーニングを空調機毎に2系統とし、40ゾーン/階の制御を行うこととした(図-3)。

●居住者の省エネへの関与

居住者が「興味を持つシステム」とするため、入居テナントに経済的なメリットがある空調課金方式を変更した。従来の空調課金はコアタイム制が多く、コアタイムから逸脱した早朝や、残業時の空調については、稼働時間によって課金されることとなっている。しかし、空調料金を月総時間制とすることで、例えば昼休みに空調停止をした場合、停止時間分を早朝や残業時の空調運転時間に充当できる等のシステムとすることで、居住者が空調運転停止に積極的に関与、意識できる環境とした(図-4)。



建物外観

●可変する外皮性能

当該敷地は2本の川及び幅員の広い前面道路の3方が開放されており、都心には珍しく景観に恵まれた環境下にある。

室内環境をより良好にするため、Low-Eガラスではなく、シングルガラスによるエアフローウィンドウを採用する事とし、環境と省エネルギーの両立を図った。

通常、エアフローウィンドウは2重ガラス内に溜まった熱気や冷気を強制的に排出する事で断熱性能(熱貫流抵抗値)を高めているが、中間期や日射が生じていない時間に関しては、断熱性能が高いために内部での発熱が外部へ放熱できない状況が発生している。

一般的に、「外皮性能が高い＝内部への負荷が少ない」というところのみ着目されるが、実際の運用状況においては内部でも発熱が生じており、除去する熱量が多くなっていることも考慮しなければならないと考える。エアフローウィンドウの断熱性の肝である排気を停止し、意図的に外皮性能を低下させることで、外気への放熱が促進し、空調動力・熱量、エアフロー排気ファン動力の削減が可能と考えられる(図-5)。

実測結果より、冬期においては日射が生じている時間帯は排気を行っている方が一次エネルギーは低いのに対し、日射が生じなくなった時間においては排気を行わない方が小さくなっている(図-6)。

また、排気有無による窓表面温度は、日射が生じている時間帯では約6℃の温度差が発生しているが、日射が生じていない場合は1℃程度の差が生じていない(図-7)。

●今後の展望

アクティブスキンの効果については期間・時刻や方位について限定的ではあるが、有効であることが分かった。しかし、日中でも排気を可変させる必要があり、制御システムとして複雑になってしまうため、検討が必要である。フェスティバルタワー・ウエストも建設中のため、改良を行っていきたい。

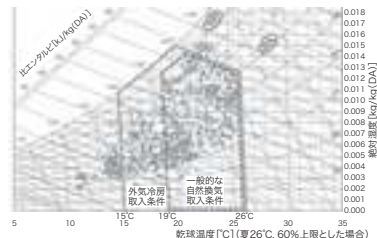


図-1 外気冷房有効範囲

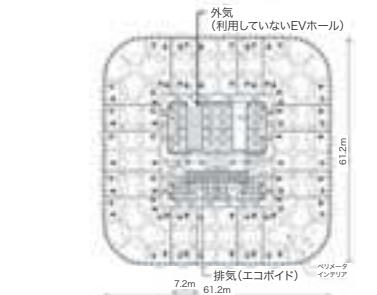


図-2 外気冷房ルート



図-3 オフィス空調システム

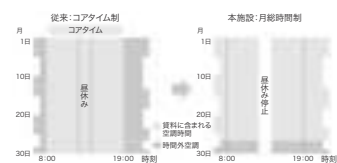


図-4 空調課金システム

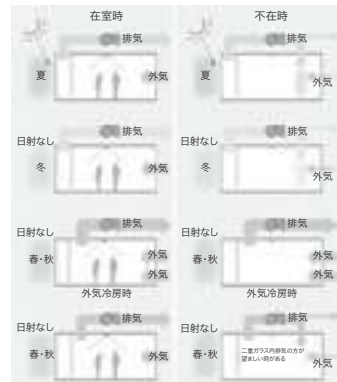


図-5 アクティブスキン概念図

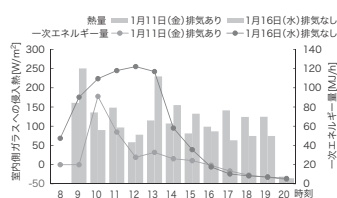


図-6 一次エネルギー量

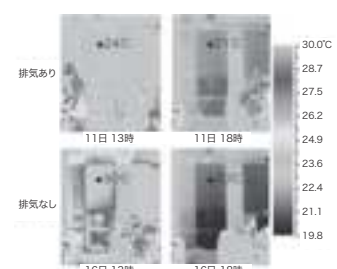


図-7 窓面温度

施工部門

ふじもと しゅん
藤本 俊宏

生年月日 1980年兵庫県生まれ
最終学歴 2005年神戸大学大学院自然科学研究科修了
業務経歴 2004年西松建設株式会社 関西支店建築部建築課勤務

●担当した主なプロジェクト

2005年 京都市立下京中学校新築工事
2007年 香里ヶ丘集合住宅計画新築工事
2009年 和泉府中駅東第一地区第二種市街地再開発事業特定施設建築物新築工事
2011年 社会教育施設（新図書館）等整備工事
2012年 学校法人大阪歯科大学創立100周年記念館新築工事
2013年 京都女子大学B校舎耐震補強改修等工事
2014年 学校法人常翔学園梅田キャンパス新築工事（施工中）

■青年技術者のことば

職人さんの確保さえも困難な状況の昨今、施工ヤードが狭く、かつ短工期の物件が多い中で、着工前状況を自分の納得いくまで詳細を把握して施工計画を行い、多くの人たちとコミュニケーションをとり、より多くの情報を得る必要がある。また、施工管理を行う上で、設計図を読み解きながら工事着工から竣工までのイメージをもって工程管理、品質管理等をすすめることが大切である。改修工事が初めての経験であり、なかなか計画通りにはいかなかったのが正直なところである。その中で、工程調整と計画変更を行いながら、いかに工事をすすめていくかが重要であり、新築工事と改修工事の違いを十分理解した上で施工を検討していくことの大切さを学んだ。新築・改修工事を問わずまったく同じという建物は1つとして存在しないが、今回の工事経験を活かした工事管理に努めたい。

■すいせん者

橋佐古敬次
西松建設(株) 西日本支社
建築部 部長

大学校舎を使用しながらのレトロフィット耐震改修の工事計画と実施

●概要

京都女子大学B校舎は、大地震時においても安全な教育・避難施設として機能させるため、耐震補強整備が行われた。B校舎は授業以外に長期休暇中においても継続的に執務・研究活動が行われていることから、使用しながら施工することが絶対条件であったため、工事範囲が補強階に限定される免震レトロフィット工法が採用された。

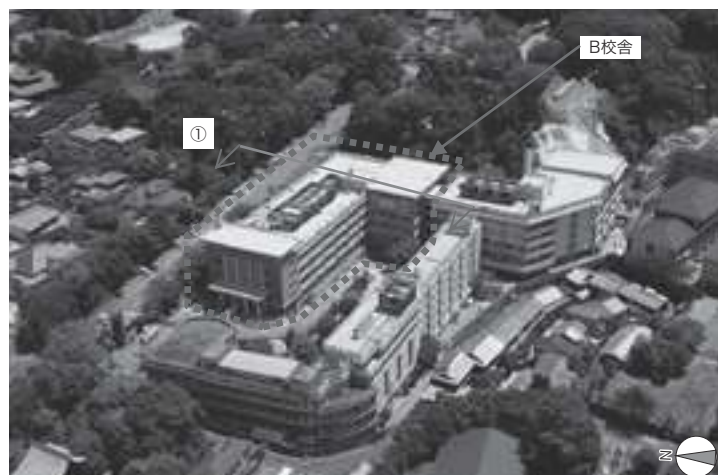
工事の特徴は、敷地に高低差が約18mあり建物の3面が地山に接しているため、偏土圧を受ける敷地条件であること、中間層免震と基礎下免震を併用していることであった。上記条件のもと短工期（1年）で竣工させるために検討した工事計画及び施工結果について述べる。

●工事計画

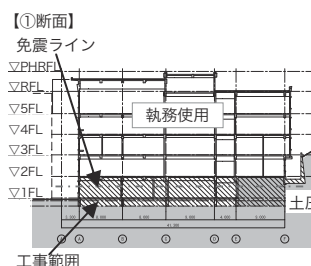
免震レトロフィット工法では、免震装置設置時の地震に対する安全性の確保が重要となる。本工事では、建物の3面が土圧を受ける立地であるため、仮設スラブや切梁架設などにより外周の地盤へ反力を伝達させることができないこと、水平力を負担している既存の壁を残したまま仮設利用すると補強躯体の構築が難しいことから、全て撤去せざるを得ない条件のもとでの検討が必要となった。建物の総重量から必要水平耐力を設定し、解体・補強躯体構築・免震装置設置それぞれの期間で必要水平耐力を確保するための対策を検討した。解体工事期間については、仮設ブレースにより壁撤去時の地震力を負担させる計画とした。

免震装置設置期間については、免震装置の納期が約半年かかることから、免震装置の設置を短期間で行う（同時に多数の柱を切断する）必要があった。装置設置工区を3工区と設定し、装置設置を行っていない残りの柱に補強プレートを取り付けることで、必要水平耐力を確保する計画とした。補強躯体構築期間については、構築が完了した柱に順次補強プレートを取り付け、必要水平耐力を確保した状態で仮設ブレースを撤去していく計画とした。

また、基礎免震部の既存擁壁は建物に接続しており、土圧が作用していた。新設免震ビット構築に伴い、既存擁壁の底版を撤去し、掘り下げて新設擁壁を構築するまで土圧を処理する必要があった。当初は底版撤去後の立上り躯体を自立させる山留め計画で進めていたが、敷地条件などにより免震ラインより上部で建物に土圧を負担させる山留め計画となった。そのため、仮設ブレースを増加させ、必要水平耐力に加えて土圧を負担する計画とした。建物がL型の形状であること、土圧が部分的にかかることから耐力確保に加えて、配置バランスがとれるよう工程を詳細に計画した。補強階の直上階については、通常どおり授業が行われることから、工事の騒音振動により支障を与えてはな



京都女子大学東山キャンパス



工事範囲

らないため、作業時間の制約が発生した。特に心配される工種については試験施工により、学校関係者の方には問題がないことを確認してもらい、手順を周知したうえで施工する計画とした。

●施工結果

試験施工により騒音振動の影響を確認したが、着手すると夜間に作業せざるを得ないといった事態も生じた。騒音振動による作業時間の制約に加えて、一つの工種に遅れが生じた場合でも、免震工事の施工ステップを遵守しながら施工しなければならず工程管理に非常に苦労した。既存建物の竣工図による事前調査を行い、解体工事を進めていったが、度重なる改修が行われており、図面にない設備配管があったり、改修により不要となった配管が存置されていたりし、使用しながらの施工ということもあり建物の機能を停止させないように必要な配管を判別するのに苦労した。また、躯体の状況が相違しているなどの問題も発生し、協議、打ち合わせを重ね、工程や施工計画の見直しを行う必要が生じた。

●まとめ

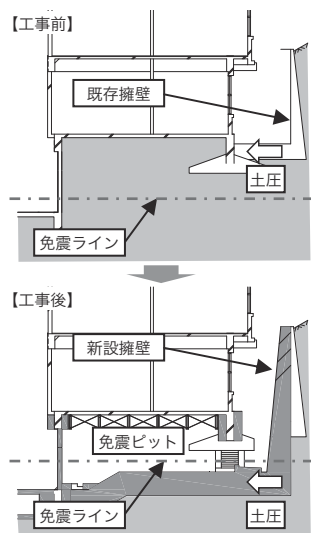
全職員、全作業員で問題を共有し、コミュニケーションを密にとり、問題を解決しながら施工することで、工期内に無事竣工できた。短工期であることや偏土圧を受ける敷地条件が加わったことで工事の難易度が増したが、工事計画、施工を通して自分自身の力量を試す貴重な体験となった。今後は、品質確保はもちろんのこと、学生及び学校関係者の安心・安全の確保、騒音振動への配慮や予期せぬ事態への臨機応変な対応が求められる工事計画・施工という本工事で得た経験を活かし、お客様から喜ばれる建物づくりを目指していきたい。



仮設ブレース



補強プレート



免震ビット・擁壁断面

施工部門



わく だ とも あき
涌田 知 昭

生年月日 1979年12月奈良県生まれ
最終学歴 2004年大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻修了
業務経歴 2004年鹿島建設㈱入社
関西支店工事事務所所属
●担当した主なプロジェクト
2004年 (仮称) 弁天1丁目複合施設建設工事
2006年 (仮称) アクロスモール八王子みなみ野新築工事
2007年 明星学苑府中校体育館・講堂改築他工事
2008年 ジーシー本郷新本社計画
2011年 京都市立病院整備運営事業

■青年技術者のことば

環境への関心が増え続ける中、建設業においては、既設利用の可能性を探ることが効果的アプローチである。今回のように、部分的に既設躯体を別用途に再利用するという計画は、環境に対するメリットが非常に大きい。また、大幅な工期短縮も実現できる。この計画を遂行するにあたり、躯体解体方法(既設1階スラブの保護・大型解体重機地盤の検討)・地下水槽の配置計画の見直し(地下躯体解体範囲の検討)・既設1階スラブの補強方法(水槽の上部が植栽帯や車道になることに対する既設1階スラブの補強方法の検討)等、施工者の観点から、様々な検討を行った。既設躯体を水槽化するという課題に対し、施工者が積極的にフロントローディングに関わり、品質の向上及び工期短縮を実現したことで、このプロジェクトが成功したと言える。今後も、フロントローディングの重要性を念頭において、プロジェクトに取り組んでいきたい。

■すいせん者

片山慶教
鹿島建設㈱関西支店
京都市立病院工事事務所 所長

既設地下躯体の水槽への再利用化

Ⅰ 工事概要

既設躯体(地上6階・地下1階 鉄筋コンクリート造)を撤去し、地下水槽(雨水貯留槽1,000t、汚水備蓄槽870t、防火水槽100t)を構築し、S造平屋(約700㎡)の新築建屋と外構(8,000㎡)を整備する工事を約12ヶ月で行う必要があった。各工事の必要工期は、解体工事7ヶ月、地下水槽新設工事3ヶ月、S造平屋新築工事6ヶ月、外構工事5ヶ月であり、工期短縮が必須であった。そこで解体工事においては、地上躯体及び地下躯体の一部を解体し、既設地下躯体を地下水槽として利用することで、解体工事及び地下水槽新設工事の工期短縮を図った。

Ⅱ 地上躯体解体方法

地上躯体解体にあたり、工期短縮を図るため、地盤面から大型解体重機を使用して、地上36mの塔屋部分を解体する必要があった。そのためには、建屋に近接して重機を配置する必要があったが、その位置はドライエリアであった。そこで、既存躯体の強度を確認した上で、作業構台を架設し、重機地盤を確保した(写真-1)。また、地盤面からの通常の解体方法では、解体された上階のコンクリート塊が1階スラブに直撃し、堆積することとなり、再利用する1階スラブにダメージを与えるという問題もあった。そこで、2階スラブを残したまま地上躯体を解体する施工方法を採用することで、2階スラブを養生フロアとし、解体したコンクリート塊が1階スラブに直撃するのを防ぎ、再利用する1階スラブの品質を維持した(写真-2)。

Ⅲ 地下躯体解体範囲

解体工事にあたり、再利用する躯体の品質確保において、再利用する1階スラブに大型解体重機が載らないことが重要である。そこで、限られた工事エリアの中で、「どの部分を水槽として再利用し、どの部分を解体す



写真-1 作業構台架設状況



写真-2 地上躯体解体状況

るのか」、解体重機の稼働範囲、解体後の外構レベル等を考慮して、再度、当初計画を見直した。まず、地上躯体解体時に解体重機稼働範囲となるスロープ部分については、「再利用」から「撤去」に計画変更した。また、地下躯体解体時に重機動線となる部分についても「再利用」から「撤去」に変更した(図-1)。

Ⅳ 総合仮設計画

総合仮設計画においては、既存のEVシャフト開口を利用し、重機・資材投入開口とした。また、地下への昇降階段として既設の階段を残した。地下での解体工事・躯体工事・防水工事における空気環境を維持するため、本設マンホール開口に大型送風機を設置し、換気口とした(写真-3)。

Ⅴ 1階スラブ補強方法

1Fスラブ補強方法について、当初計画では、補強鉄骨梁を1階スラブ下部に設けて、外構の荷重を支えることになっていた(写真-4)。この補強方法は、外構レベルを低く抑えることについてはメリットがあるが、製作日数・地下作業による施工性の悪さ等のデメリットがある。そこで、1階スラブ上に新たに補強スラブを新設する方法を検討した(写真-5)。補強スラブによる工法であれば、地上での作業となり、施工性が向上し、材料調達にかかる日数も短い。ただし、新設スラブの厚みの分、水槽躯体上端レベルが上がるというデメリットもある。そこで、出来るだけ補強スラブを新設する方法を採用するため、外構計画を見直した。

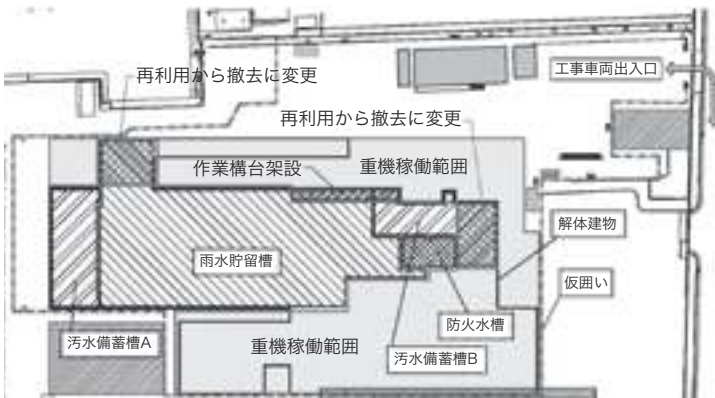


図-1 地下躯体解体範囲検討図

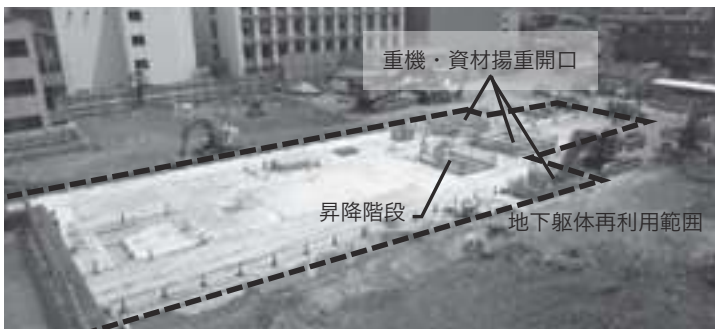


写真-3 解体工事完了後状況



写真-4 補強鉄骨施工状況



写真-5 補強スラブ施工状況

Ⅵ まとめ

今後、環境の面からも、部分的に既設躯体を再利用するという工事は増える傾向にあると考えられる。今回のように、既設躯体を再利用する工事計画においては、いかにして再利用する躯体の品質を維持するかが最大のポイントである。コスト・安全・工程のバランスを考慮しながら、品質を確保する工法の検討を重ねていく必要がある。そのため、計画全体の中で、解体方法や既存躯体補強方法の検討といった施工者側の計画のウエイトが非常に大きい。今回の工事を順調に進められた背景には、施工者側から品質を高めるための提案を積極的にに行い実現したことがある。近年、フロントローディングという考え方が主流であるが、今回のような既存躯体再利用工事にこそ、施工者が積極的に関わるフロントローディングが重要であると再認識した。

法令コーナー

滋賀県子育て応援住宅認定制度を創設

奥村良子

滋賀県土木交通部住宅課 主査

背景と目的

滋賀県は人口増加を続けてきた数少ない県のひとつであったが、平成26年10月現在の推計人口は、前年比較で48年ぶりの減少となり、本県でも人口減少局面に入ったと推測されている。今後避けて通れない課題のひとつが、少子高齢化の進行である。

本県では、次世代を見据える中で、子育てに適した住環境の整備を促すことにより、世帯形成層の県内定着と地域の活性化を推進することを目的として、本制度を創設した。

県が「子育て応援住宅」を認定し情報発信することで、住宅事業者にとっては売りやすく、子育て世帯にとっては選びやすい制度となるよう、効果的な運用に取り組んでいきたい。

子育て世帯のニーズ

滋賀県住生活総合調査（平成20年）によると、住宅・住環境について「子育てにおいて重要と思う要素」として『防犯性』に最も高いニーズがあり、以下、近隣の人たちやコミュニティとの関わり、幼稚園・小学校などの利便と続く。

認定基準の策定にあたり、これらに対応したものと考えるよう考慮した。

認定基準検討委員会

認定基準に関する意見交換を行うため、子育て支援団体代表者、学識経験者、住宅事業者、建築士、県関係所属長を構成員とする検討委員会を設置し、それぞれの専門的見地からご意見をいただいた。

制度概要

●認定対象

戸建ての団地とマンションそれぞれに制度要綱と認定基準がある。認定対象はそれぞれ次のとおりである。

子育て応援戸建て住宅

- ①10戸以上の新築住宅で構成される分譲住宅団地であること
- ②品確法に基づく住宅性能評価書を取得していること
- ③団地の全住宅のうち3割以上の住宅が子育てに配慮された住宅であること

子育て応援マンション

- ①マンションの全住戸のうち2分の1以上の住戸において住戸専用部分の面積が75㎡以上であること
- ②品確法に基づく住宅性能評価書を取得していること
- ③マンションの全住戸のうち3割以上の住戸が子育てに配慮された住戸であること

●認定基準

認定基準には必須項目と選択項目がある。必須項目を満たし、選択項目の配点の合計が規定以上必要である。認定基準項目の一例を以下に挙げる。

ハード面

- ・子どもの事故が起これにくい仕様になっていること（例：バリアフリー、ケガ防止の工夫等）
- ・子育てしやすい仕様になっていること（例：対面キッチン等子どもの様子が確認できる設備や間取り、ゆとりある収納、キッズルーム、プレイロット等の設置等）
- ・防犯対策がとられていること

ソフト面

- ・分譲事業者等により、地域住民との交流イベント等が開催されること
- ・自治会・町内会活動が継続的に実施されること
- ・子育て支援サービス等が継続的に提供されること（ハウスクリーニング、保育所への送迎など）

立地面

- ・保育園や幼稚園、小学校が近くにあること
- ・子どもが遊べる公園等が近くにあること
- ・子どもが受診できる病院、診療所等が近くにあること
- ・日用品が購入できるスーパーマーケット等が近くにあること

●認定手続

認定には、設計段階で受ける計画認定および竣工段階で受ける竣工認定がある。それぞれ認定の日から1年以内の期間を定めて認定する。

認定物件は県のホームページで紹介する。

●認定を受けるメリット

認定を受けると、住宅事業者にとっては広報面でのメリットがある。

- ・滋賀県子育て応援住宅認定マーク（図1）

- ・使用でき、広報効果と信頼度がUPする
- ・他物件との差別化を図れる
- ・県ホームページで認定物件をPR



図1 子育て応援住宅認定マーク

立地基準適合地登録制度

子育て応援住宅の認定を受ける予定があり、認定基準のうち立地基準に適合している計画地を立地基準適合地として県に登録し、広報できる制度である。

子育て応援住宅認定制度の計画認定は、設計段階で初めて認定され、子育て応援住宅であると広報できる。

しかし、この立地基準適合地登録であれば、開発許可を受けた段階で申請できるため、子育て世帯へ向けて速やかな情報提供が可能となる。

支援団体

この事業の普及促進を図るため、県内事業所等からの支援を募っている。支援の内容はそれぞれの事業所等の企画に任せる。例えば金融機関における住宅ローン契約に関する優遇措置等を想定している。

支援内容については県のホームページで紹介する。

課題

まだスタートしたばかりであり、目下の課題は制度の普及促進である。県民に向けた制度の周知に努める必要がある。

まずは、認定第1号に向けて、取り組みを進めたい。

（おくむら りょうこ）

奥村良子

1995年滋賀県入庁。

構造の頁

地下階に大空間を
実現した架構— 大阪国際大学・
短期大学部 1 号館 —

佐藤 茂

株式会社 安井建築設計事務所 大阪事務所構造部

建築概要

大阪府守口市に同学園の守口キャンパスがあり、新1号館の建設は、昭和38年竣工の1号館の建替計画である。地下1階地上6階建て、最高高さは27.75m（基準階高4.0m）で、延べ床面積は10,224㎡である。1階は学生の交流拠点となるラーニングcommonsカフェなどを設け、既存樹を保存移植した「文化の丘」とウッドデッキで繋がった緑豊かで開放的な空間となっている。5、6階（研究室）は既設建物と同様に、日影規制により、セットバックした外観（写真1）とし、地下階には、多目的ホール使用も想定した大無柱空間（21.6m×25.7m）のトレーニングルームを配置している。



写真1 北西方向外観

構造計画概要

スパン割りはX方向7.2m×7スパン、Y方向11.0m、14.7mの2スパンで、純ラーメン架構（一部、吊り上げブレース配置）の鉄骨造（一部、地下階SRC造）である（図1）。

セットバック架構の柱脚は、地震時のねじれ振動を防止するために、フレーム剛性が小さくなるピン接合（十字G.PL）とした。

基礎（杭・耐水版）の設計では、現状の地下水位（GL-1.9m）±1mの変動を考慮しつつ、杭設計用の基礎軸力を低減し杭工事費の縮減をはかっている。また、地下水による浮き上がり防止用にカウンターウェイトとして碎石を一部のピットに投入している。



写真2 鉄骨ブレース設置内観



写真3 鉄骨ブレース接合部

構造デザインのポイント

地下階に無柱の大空間を実現するために、□-400×400×25（BCP325：耐火塗料）を5層に亘り架設した。また、柱梁との接合部をコンパクト化するために、割り込み十字プレートに550N級鋼（BT-HT385B）を、接合ボルトにSHTB（S14T）を採用した（写真2、3、図2）。また、地下階高を最小化するために、1階床には「井」形のダブル交叉梁形式の床組を併用している。

地下1階柱抜け架構部分には、施工中の安全性を確保するために、設計図書に「重量ポストの仮設とその残置期間」を明記した。また、仮設ポストによって伝達される軸力に対して、その周辺部位（杭・基礎梁）が、構造耐力上支障がないことを検証している。

施工の合理化

労務事情（型枠・鉄筋工不足など）を勘案しフラットデッキ捨て型枠の鉄筋コンクリートスラブをトラス筋付きデッキ（ニューフェローデッキ）に変更した。また、在来型枠による現場コンクリート打設施工の「庇・パラペットなどの部位」を現場サイト（建設中の地下1階ゾーン）で、プレキャスト化し、ドライエリアに設けられた光庭部分（ボイド）をそのプレキャスト部材の揚重スペースとして活用した。

（さとう しげる）

佐藤 茂

1956年岐阜県生まれ。1979年名古屋工業大学卒業。1979年株式会社安井建築設計事務所入社。

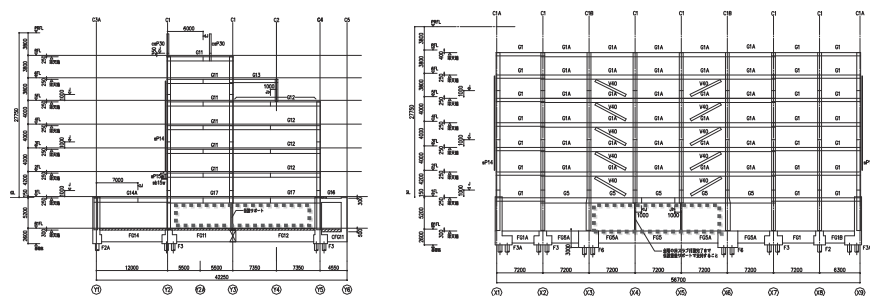


図1 軸組図

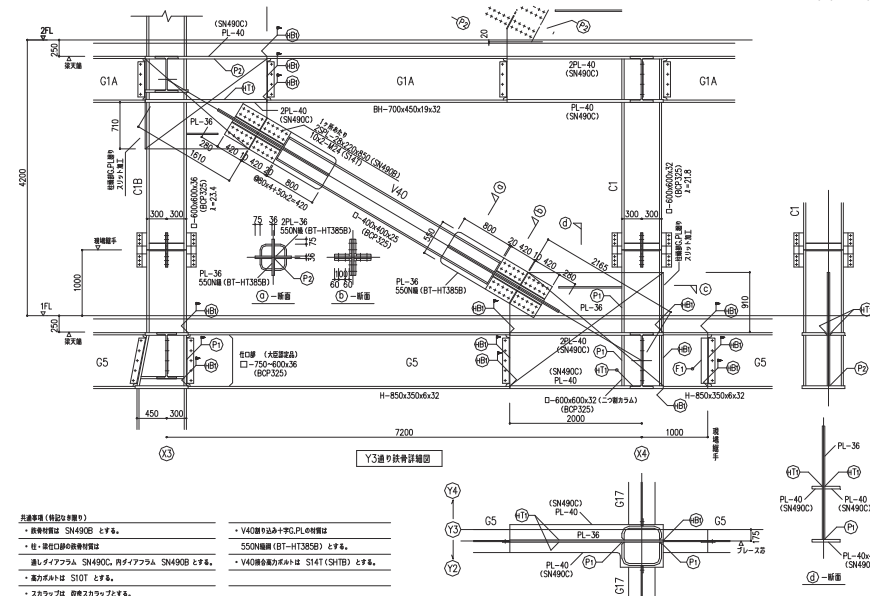


図2 鉄骨ブレース詳細図

第14回 読者と選ぶ「建築と社会」賞 入賞発表

第14回読者と選ぶ「建築と社会」賞 選考会

日 時 2015年4月20日(月)

17:30~20:00

場 所 日本建築協会

選考委員(写真 右側手前から反時計回り)
委員長 田中直人/島根大学大学院特任教授
委 員 谷口与史也/大阪市立大学教授
委 員 高砂正弘/和歌山大学大学院教授
委 員 弘本由香里/大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所特任研究員
委 員 近本智行/立命館大学教授
委 員 阿部浩和/大阪大学大学院教授



読者と選ぶ「建築と社会」賞

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい、社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考に当たっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

入賞作品

『作品部門』

- ・浜松信用金庫きらりタウン支店
- ・アステラス製薬 加島事業場厚生棟
- ・神戸海星女子学院中学校・高等学校
- ・あべのハルカス

『論考部門』

- ・建築と時間 内藤 廣
- ・かたちとサイズ 力感論ふたたび 長瀬 正

『審査員特別賞』

- ・特集「でっかいものはすごいぞ」
- 企画 編集委員会 構造分科会

一次選考結果

『作品部門』－7点

- ・浜松信用金庫きらりタウン支店
- ・TANIXビル
- ・アステラス製薬 加島事業場厚生棟
- ・旧桜宮公会堂
- ・神戸海星女子学院中学校・高等学校
- ・ザ・香里園レジデンス
- ・あべのハルカス

『論考部門』－3点

- ・建築と時間
- ・かたちとサイズ 力感論ふたたび
- ・「太陽の塔」－岡本太郎の最高傑作－

審査講評

田中 第14回の読者と選ぶ「建築と社会」賞の審査を開始します。

審査方法について確認させていただきます。

3月18日に編集委員会によって1次審査が行われ作品部門7点、論考部門3点がノミネートされました。作品部門については可能な範囲で現地視察をさせていただきました。視察できなかったところからは資料をいただいていますのでそれを見ていきたいと思います。論考部門はノミネートされた作品を中心に全体をふりかえるプロセスを入れたいと思いますがよろしいでしょうか？

それでは、作品部門から始めます。

■作品部門

田中 はじめに浜松信用金庫きらりタウン支店ですが、遠隔地ということで現地へは行っていませんので資料を見ていきたいと思います。＜作品データを映し出し、内容を確認しながら検討。以下、各作品について同様に。＞

田中 個別に現地視察された高砂さんいかがですか。

高砂 頑張ってると思います。3次元曲面なので、難しい建物です。よく作ったな、という感じです。後ろはコンクリートで、前は鉄骨でしょうか。

田中 この形の向きであるとかそのモチーフというのは、地域との関連性ですか。

高砂 波ですね。資料にありました。浜松のマークなんかも波型になっている。

田中 それはローカリティを形象している、ということですか。

高砂 敷地はぜんぜん海とは関係ないです。建物は山の中腹にあるので海は見えませんね。

弘本 バイオリンとかピアノも(資料に)並べてあって、浜松にゆかりの楽器の形や音もイメージされているようです。

田中 結構イメージを出そうとする作品ですね。構造的には非常にユニークな感じがしますがいかがですか？

谷口 形は頑張ってますが、構造的には普通ですね。施工は大変だったろうな、と。

阿部 デイテールなど苦労していると思いますよ。

田中 この賞は社会性とか環境性とか問われるわけですが、その観点ではいかがですか？

高砂 ソーラーパネルを乗せている。スケールを小さくする努力はしている。

近本 屋根はコンクリートですか？

高砂 鉄骨だと思います。

近本 鉄骨ですか。それが外観から見ると2段になってますね。

高砂 相当な厚みがあるので、それを厚く見せないために、上の部分と下の天井部分を分けてますね。細く見せようとしているのがうかがえますね。

＜引き続き資料を確認＞

田中 資料は以上ですね。環境性と社会性をそれなりに考慮しているのが分かったのではないかと思います。次にTANIXビル、現地に行った分ですね。

＜作品データを映し出し、内容を確認しながら検討。＞

特に環境の部分でいろいろ説明があったと思いますが。

高砂 工夫をしていますが、効果が表れていない。暗いし、照明も点けっ放しですしね。あとからロースクリーンを付けたのですね。西日ははいってくるらしくて。

田中 コミュニケーションを促すワークプレイスとしての空間の作り方というのはひとつの形だと思いますけど。

高砂 社員食堂って一般に開放してないようです。残念です。

田中 やっぱり自社のビルだからそういう地域コミュニティ云々という話ではないんでしょうね。セキュリティとかの問題もありますから。

高砂 テナントのようです。

田中 テナントですか。

近本 テナントが決まってから追加工事でかなり仕様を聞いているので、自社ビルに限りなく近いってことですね。

田中 あんまりオープンな感じがしませんでしたね。会社の中はオープンですけど。

高砂 そう、意外と閉じています。

田中 じゃあ次は**アステラス製薬 加島事業場 厚生棟**。現地へ行っていますのでいろいろとコメントいただけたと思いますが、いかがですか？

高砂 1階にしてしまったのですごく閉鎖的な食堂だなと感じました。

田中 間に中庭というか外部空間を挟みこんでいくのが特徴ですね、パターンとして。ただ残念なことに中庭に出てくるトップライトの形態とか、ちょっともったいないな。

近本 居室から眺める、切り取られた箱のような形を重視されたような気がします。

田中 あの工場の敷地で、あの形、平面形とか作り方、庇とかアプローチのところの釣った屋根の形とか、頑張られたということでしたがどうでしょうか。

この厚生棟だけでなくまわりとの関係とかつなぎ方とかそういうこともいろいろあると思うのですが、わたしが一番感じたのは風が通りやすい形になっていることですね。夏はいいですね。

それから地域とのつながり、というのはあまり確認できなかったけどどうでしょうか。

弘本 木を残されたというのは良かったんじゃないでしょうか。

谷口 その地域は工場とかけっこう多いんですけど、ほとんど「見る」に値するような建物はなかったの、そこは意識したんだと思うんです。

ただ開放的にはできないんでしょう。

田中 そうですね。施設の性格によってはそうですね。

谷口 だからこれを見習って他の工場してもらえたら場所柄的にいいかも。

田中 工場によっては見学を前提としたプランのところもありますよね。ここはそのような施設ではなくて、あくまで職員のための厚生棟であって。

阿部 このあたりは製薬会社さんが多くてたぶん工場がなくなって研究所に変わっていく中で工夫をされているのが多いと思うんですね。この場合周辺の建物に対して真ん中のファサードをばさっととっているんですが、その分新しいものができた、リニューアルさ

れたとかそういう印象を与えると思うんですね。上手につくられているなと思いました。側面は四角いものが積み重なってずれていくパターンで、普通なら重って継ぎ目ができるんですけど、これはできていなくて、そのへんはかなり気を配って、その部分をデザインしたなと感じました。

田中 では次に行きます。

旧桜宮公会堂ですね。

いかがでしたか？ガラスブロックの結婚式場。綺麗かったですね。

高砂 そうですね。綺麗ですね。

田中 去年もこういう結婚式場ありましたね。こういった古い建物を意識した中で新しいデザインを挿入するパターンというのはこれらでてくるんですかね。用途を変更して。建築的にはどうですか？

高砂 入れ子にただけなのが残念です。回りは綺麗に改修されていますけども。

阿部 去年の神戸の作品（旧ジェームス邸）は、もとの建物は綺麗に復元されただけで、隣に新しい別棟を建ててそれとのバランスとかコントラストで見せてたんですけど、今回は元の外側は大事に残して中を作っている、どちらかというと内装工事みたいな感じです。

高砂 手前のファサード側はさわる事が出来なくって、建物の奥はさわっても良いんですよ？

阿部 後ろの厨房の部分が増築されています。

田中 この施設の社会性なり、環境性という点はいかがですか？

高砂 もともと（公会堂なので社会性）はあったのしょうけど、結婚式場にして、なくなってしまったのではないですか。もっと私的なものになってしまったのかもしれない。

田中 ふらっと入って行ける施設ではないですね。これは設計の問題ではなくて企画の問題ですね。公会堂をどう生かすかということについて、もっと社会的な視点がほしいということですね。

じゃあ次に行かせていただきます。

神戸海星女子学院中学校・高等学校です。

一見するとどこをやったんだろうというぐらいに前の建物のイメージを保存した形の構造

補強なり、徹底したインテリアのデザイン、照明器具とか、いろいろ工夫されていたように思いますけどもいかがでしょうか。

高砂 この構造補強は珍しいですか？

谷口 外付けフレームはけっこうあります。

高砂 そんなに特殊な話ではない？

谷口 補強自体はあります。

近本 もともと入り口の目の前の桜の空き地の部分に新しい棟を建てるというところでプロポにはだされたのだけど、それを学校さんとの協議の中で、じゃあ古い建物を生かして改修しようかというところで、かなり学校側の意図がデザイン、計画に反映されている。

田中 学校側の配慮としては同窓生とか近所に住んでいる人たちの景観記憶イメージを継承するという、まあ地域とのつながりあるいは時代的な、OBとの関係、その点がデザインとか構造的な要件をあわせてやられたということで、なかなか渋い作品だなと思いますけども。

阿部 ただひとつ気になるのは、昔のデザインを新たな技術で見直すよという感じになると思うんですね。そういう意味ですごくよくできた模造品。それを作っているのか、設計者にとってはそれをどう考えたのか、抵抗はなかったのかどうなのか。

これはすごく精巧に作られたものですが、オーセンティシティの問題として評価が難しいなと思うんです。

谷口 私もそれはチラッと思ったんですけど、意匠のスターディの中で施工性をかなり考えて緻密にやっているの、そこところは評価できるかなと、思ったんですけど。

高砂 西館は新築といわれてましたよね。そこも旧館に色もデザインも全部合わせているのはそこまでなくていいような気がして。

阿部 どこから新館かわからなかったですね。

谷口 その辺はどのくらい理事長さんがこだわったかですよ。

田中 そうですね。かなりの部分クライアント側の意見を重視している。

高砂 消極的だけど残す意欲は感じられる。

田中 難しい表現ですね。では次へ行きたいと思います。**ザ・香里園レジデンス**。これは現地へ行っておりません。

＜作品データを映し出し、内容を確認しながら検討。＞

田中 香里園の周辺環境に対してはどうなんでしょうね。

阿部 これ再開発の関連みたいで2本建っているうちの1本ですね。

田中 今回はマンション部分だけの作品です。「光・風・緑がボイド空間を吹き抜ける」ということです。

近本 写真で見ている限りではかなり深いですからそういう感じではないですね。

田中 構造的にはどうですか。

高砂 この斜めスラブってよく使われるんですか？普通は水平で部分的に下げますよね。

谷口 普通はないですね。

高砂 これ一番新しいな。ではないんですか？

谷口 いや新しいんでしょうけどね。

高砂 床スラブをつくり易いのでしょうか。

田中 じゃあ次行きます。**あべのハルカス**。

高砂 建築として見た時に良さってどこにあるのかな、と。足元もごちゃごちゃしていて、プロポーションもピンときません。カーテンウォールもバラバラだし。

田中 商業関係であるとか、いろんなものを複合的に入れることで街づくりとして、この地域の再開発としてどうかという話がありましたが、地域の文化性とか社会性とかの観点から見てインパクトはありましたでしょうか？

弘本 プロジェクトとしてもすごく努力をされていると思います。ただ外から見たときに形として特徴が伝わってきにくい印象がありますね。その分、すべての面を正面として、それぞれの地域からみなさんが愛着を持ってくださっているというご説明で、そういう風に思っている方も多いのだろーなと思いますし、他のケースと違って周辺の商店街もけっこう潤ってきているんですね。周辺の地域に愛されるための努力は相当なさっていると思いますね。

田中 建物としての構造、設備についてはどうですか。

近本 設備環境の面ではかなり完成されている気がします。それぞれの向きから違った

ファサードにしているのは新しいやり方かなと思います。

谷口 構造的にはすばらしい、と結論的にはそうなると思うんですけど、300m級の建物で一番目のランドマークタワーと比べると20数年間の技術革新は明らかに見て取れる。

ハルカスって高さのわりに威圧感がないっていうか、われわれが学生のときに勉強した超高層建築の曙とかいうどっしりとしたそういうものがないんですよ。ないのはたぶん6種類ぐらいのありったけの制振技術を使って押さえ込んでいるようなところもあってそういう意味では構造的に最先端と思います。

近本 そんな制振装置がないと本当はもっと揺れるんですか？

谷口 そうですね。最初聞いたときはそんな何種類も使ってほんまにうまく効くんかなっていう風に思っていたんですけどシミュレーション上は効いている。

阿部 これだけ大規模な建物のわりには意外と細かいところまでデザインされてるな、という感じがしたんですね。微妙に壁面を雁行させたりとか、ずれさせたりとかしながら積み上げていっているというのとサッシ一つひとつのディテールがきれいに作られているという感じがしますね。

ただ外から見る場所がないのでかなり離れないと形の全容が見えない。これはもって生まれた宿命みたいなものでこのあたりが損している。

田中 以上7点を一緒にレビューさせていただいたんですけども、7点以外で敗者復活的な作品はありませんでしたか？なければこの7点から選ぶということでよろしいですね。＜委員による投票と集計＞

投票結果です。浜松信用金庫きらりタウン支店3 TANIXビル2 アステラス製薬 加島事業場厚生棟6 旧桜宮公会堂1 神戸海星女子学院中学校・高等学校6 ザ・香里園レジデンス0 あべのハルカス4となりました。

田中 アステラスと神戸海星女子学院は満票だから決まりでいいですね？

次点はあべのハルカス、浜松信用金庫ですね。建築物としてはどうですか？

高砂 （浜松信用金庫は）正直言って好きで

はありませんが、頑張られているな、とは感じましたね。地域に溶け込ませようとされていると思いました。「開かれた銀行」ということで地域の人たちに親しまれて使われる銀行をつくりたかったのでしょうか。

阿部 これを実現するにはすごい障害がいっぱいあったはずで、目に見えない努力がかなりあったと思われます。

高砂 費用だけでも相当かかっていると思います。

田中 それでもやり通したのはひとつのやり方ですね。アステラス製薬はどういう理由でしょうか？

近本 工場から研究拠点になった時に質の違うものを統合するような仕組みにしたというのが、結果この場所に合いやすい。

田中 結果的につなごうとする姿勢ですね。大事なことですね。

弘本 デザインとして道路に対して開かれ、古木も残して開口部を設けて、社会に働きかけようとしている姿勢がいいですね。

高砂 手際がいいなと思いました。切れもいいですし、明快です。

田中 神戸海星はどういう評価ですか？構造補強といえば斜めの部材をイメージするんですけど、こういう形で地域景観を守って人の心をつなぐという試みをしたことを評価したいですね。

近本 新築側に図書館がありますが、デザインは（本館と）そう変わってはいないんですが、トップライトをつけて自然光を入れて、空調は床吹出しにするとか、それなりに新しいことをやろうとしています。

高砂 本館を際立たせるために違うデザインの何かシンプルなものを入れる方法もあったとは思いますが。

田中 ハルカスの評価はどうですか。

阿部 細心の注意を払ってデザインされていると思います。ただ高さが300mというシンボリックなものなのに、デザインはスカイツリーやランドマークタワーとは違って、分節化された形態が集まっているデザインですね。そのあたりのギャップがあるのかな。

今回あべのハルカスは日本一になったけどデザインとしてはシンボリックかという、そ

こは一味違うな、という部分がありまして、そこに対する賛否両論というのがあるのかな。

田中 逆に言うとシンボリックでないところがあべのハルカスの特徴で、デザインも複合で機能も複合で・・。

阿部 私はそこがいいのかなと思いました。

近本 先ほど分節したデザインの話がありましたが、渋谷のヒカリエも積層しながらボリュームを小さく見せていて、そういうのも今の流れかもしれないです。

谷口 ストラクチャーが出てないですよ。建築として。それが結局シンボル性とか弱めている。逆に300mの解でそれが見つかったのかなと。構造がデザインに全面的に出てるわけじゃなくて、そうなるランドマークタワーやスカイツリー、五重塔もそうですが、そういうプロの皆さんが感じるようなストラクチャーはないんだと思うんです。

要は居住性と必要スペースと300mを達成するためにいろんな技術を駆使した、それがモザイクに見える、というところもあるかもしれないです。

構造に使っている制振技術が違うんですよ、そうするとその側のフレームもみんな引っ張られますんで自然とデザインが変わるんですね。でもそれを変えてないようなひとつのファサードにしようとしているがためにモザイクのようになってしまった。思い切って変えてしまった方が良かったのかも知れない。

田中 結果をまとめたいと思います。今回7点の作品に付き6名の審査員から各4票の投票いただき順位付けした中で細かい検討を行ってきました。

結果としては浜松信用金庫、アステラス製薬、神戸海星女子学院、あべのハルカス4点を入選作としたいと思います。



作品部門 現地視察風景

■論考部門

田中 引き続いて論考部門の審査に移りたいと思います。論考についてのノミネートは3点ありますが、これ以外に推薦のものがあればお願いします。また、特集として全体を評価するというのが編集委員会でも出ていました。そのような視点も入れながら1月号から見ていきましょう。

<1月号から各特集、論考内容の確認>

高砂 2月号のテーマ「フュージョンする空間」は面白いと思いました。

田中 テーマはうまいですね。読もうかな、と思いますね。8月号の特集「建築と時間」はいろいろな各論に（1次選考の）票が入っていましたね。この特集が興味をひいた感じですね。11月号特集「でっかいものはすごいぞ」からは2つノミネートですね。このタイトルの打ち方もユニークです。

<12月号までの確認終了>

田中 3点のノミネートいただいてますが、それ以外にこれを検討しようか、というのがありますか？

近本 8月号の特集そのものも対象にしてもいいのでは？

田中 今年は特集そのものにも賞をという試みの話が出ているので、どれかひとつを特集としてこの委員会であげることにしませんか？

ひとつの提案として**8月号の「建築と時間」**が出ましたが、**11月号「でっかいものはすごいぞ」**からも2つ（論考が）選ばれていて、これとどちらか、という感じですね。これまで、計画、建築、インテリアなんかはわりと目立つんですけど、構造とか設備の特集でもっと盛り上げていただきたいと思います。ではまず論考部門ですがノミネート以外にはありませんか？

一同 ありません。

田中 ないという意見をいただきましたので、3点に対する意見を順次ご発言いただきたいと思います。

まず「**建築と時間**」執筆者 内藤廣さん。

谷口 最後の三陸の時間と福島時間のところで「空間の参与」と「時間の参与」があって、時間の参与ができないのが最も辛いん

じゃないかというくだりがあってそのところはすごく感動しました。

弘本 私も最後のところで福島の問題に触れているのがいいなと思いました。

近本 「建築と時間」というタイトルと文章の姿勢が違うんですね。読み物としてはものすごく面白かったです。

田中 「建築と時間」はその特集の企画に注目されますが、その中でも特に総論でのポイントは非常に大事でした。

結論的に言ったら賞に入っているということでもいいですか？

それでは11月号のご意見をお願いします。

「**かたちとサイズ 力感論ふたたび**」執筆者 長瀬 正さん、「**「太陽の塔」－岡本太郎の最高傑作－**」執筆者 奈良利男さん。

高砂 太陽の塔の話は選ぶのがいいものかどうか。記録ですよね？

田中 入選作としてノミネートの中に入れるかどうか、ですよね？

今はこういう記録も記憶も薄れてる部分を、ああそうか、と思われたんでしょうね、点を入れた方は。

高砂 11月号23Pの巨大なチョコレートは、京都に行く時に東海道線でいつも見えるんですよ。何ちゅう広告物をつくったか、と思いますけど、こうやって出来たというのがわかりました。

田中 チョコッとそう思ったんですけど。

一同 （笑い）

高砂 でもこのFRPの質感が結構チョコレートに合ってて、おいしそうなんですよ。おいしさの具現化と書いてありますからね。

田中 そうゆう意味でこの特集は面白いですね。

弘本 たとえば子供たちにも授業で教えたりすると、とても興味を持ってもらえそうな題材ですよ。

田中 ほかにご意見はないですか？

それでは、内藤さんと長瀬さんのお二人を個人の論考部門の表彰にして、特集の特別賞としては11月号の「でっかいものはすごいぞ」にするということで最終決定にしたいと思います。

どうもありがとうございました。

第14回 読者と選ぶ「建築と社会」賞 入賞作品

作品部門

浜松信用金庫 きらりタウン支店

〈2014年3月号〉

所在地 静岡県浜松市浜北区染地台三丁目32番19号

建築主 浜松信用金庫

設計監理 株式会社日建設計

施工 木内建設株式会社



浜松市北部のニュータウンの建設に合わせて出店した信用金庫の支店です。新規の顧客獲得をめざし、女性スタッフのみで運営するというチャレンジを行う店舗として、デザインには強いインパクトとやさしい印象とが求められました。そこで当信用金庫のロゴマークにも用いられている遠州灘の「波」、また楽器産業の盛んな当地のシンボルとしての「音＝波」を取り上げ、波形の屋根でやさしく包み込まれた建物とし、街のランドマークとなることを目指しました。この屋根は太陽光発電・雨水収集・自然換気を考慮した形となっているほか、プランニングに合わせて天井高が変化し、各空間に合った開放感や落ち着きを与えています。

また、窓にはシャッターを使用せず、内部を見通しよくすることにより防犯性を確保し、街に開かれたファサードを実現しています。内外に連続する天井には地場産材の天竜杉を用い、地域密着という企業の姿勢のアピールを行っています。



塩田哲也 しおた・てつや

1997年 株式会社日建設計入社
現在 設計部門設計部主管
いちい信用金庫本店（2008年）
リニア鉄道館（2011年）
しずぎん本部タワー（2014年）



山口智三 やまぐち・ともみつ

2010年 株式会社日建設計入社
現在 設計部門設計部
日本平ホテル（2012年）
愛知淑徳大学国際交流会館・AS保育室（2013年）
浜松信用金庫駅南支店（2014年）



真庭 綾 まにわ・あや

2011年 株式会社日建設計入社
現在 設計部門設計部
愛知淑徳大学AHSMEC（2013年）
浜松信用金庫三方原支店（2015年）
デンソーグローバル研修センター
（2016年竣工予定）

作品部門

あべのハルカス

〈2014年3月号〉

所在地—大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43

建築主—近鉄不動産株式会社

設計監理—株式会社竹中工務店

施工—竹中工務店・奥村組・大林組・大日本土木・銭高組共同企業体



撮影：Nacasa&PartnersInc_NAKAMICHI Atsushi



撮影：母倉知樹



撮影：SUZUKI hisao

■社会や環境に配慮した取り組み

あべのハルカスは、大阪阿部野橋駅直上に百貨店・オフィス・ホテル・美術館・展望台が集積した地上300メートル・高さ日本一の超高層ビルで、多様な用途と密度が生み出す偶発性と相乗性に満ちた「超高層集密都市」といえる存在である。南大阪のゲートウェイである阿倍野に都市活動を高密度に集積することで、大阪に新たな個性を持つ都市核が生み出されるとともに、鉄道ネットワークを通じて沿線価値を高め、人口減少期における大阪都市圏の活力を維持・向上することが期待される。この多様な都市活動を、緑豊かな空中のパブリックスペースを介して高度にネットワーク化することで、用途複合のシナジー効果と、思いがけないものに出会える都市的状況を生み出している。また、複合用途と高さや自然を生かした環境配慮技術、およびノーバティブな構造技術によって安全・安心で持続可能な地域社会の実現に寄与する。



原田哲夫 はらだ・てつお

1986年 竹中工務店入社

現在、大阪本店設計部設計第6部長

HEP FIVE (1998年)

第二吉本ビル (2004年)

オムロン京都啓真館 (2007年)

千趣会新本社ビル (2008年)

作品部門

アステラス製薬 加島事業場 厚生棟

〈2014年5月号〉

所在地 大阪市淀川区加島2丁目1-6

建築主 アステラス製薬株式会社

設計 清水建設株式会社関西事業本部一級建築士事務所

施工 清水建設株式会社



ジャンクション

各研究棟に分散している研究者相互のコミュニケーション活性化を主題に、研究者を「動かして」「集める」結節点として計画した。建物を研究棟群の中心に低く広く配置し、各棟とは渡り廊下でネットワーク状につながると共に、建物を貫通するパサージュを2本設け、研究棟間を往来する際には必ずこの建物を通過するしかけとした。1階にはマグネット効果の高い食堂・カフェを配置し、様々なアクティビティが行き交うことで研究者間に新たな交流が誘発され、これまでにはなかった新たなコミュニケーションの拠点となる。

積み重ねた白い箱

隣り合う研究棟に相対する壁面には、コンセントレーション（研究）とリラクゼーション（厚生）の見合いを避ける意図で開口を設けず、2階に切り込んだ5つの屋上庭園に向けてのみ開口を設けた。この切込みが光や風を採り込み、建物のボリュームを適度に分節することで周囲への圧迫感を緩和しながら、白い箱を積み重ねたようなユニークな外観を生み出した。



撮影：フジタ写真工房



鳥居健一 とりい・けんいち

1981年 清水建設株式会社入社

現在 関西事業本部 建築設計1部

主な作品

舞子後楽園ホテル、六本木ブルーマン劇場
京都駅南開発プロジェクト

加地則之 かじ・のりゆき

1990年 清水建設株式会社入社

現在 設計本部 教育・文化施設設計部

主な作品

青山学院初等部、仁川学院小中学校
京橋こども園、安田女子大学新5号館

阿部香穂里 あべ・かほり

2010年 清水建設株式会社入社

現在 関西事業本部 建築設計3部

主な作品

伊藤園関西茶業本社工場
京都信用金庫田辺支店

作品部門

神戸海星女子学院中学校・高等学校

〈2014年8月号〉

所在地 兵庫県神戸市灘区青谷町2-7-1

建築 主一学校法人海星女子学院

設計監理 一株式会社竹中工務店

施工 一株式会社竹中工務店



■長く愛される景観、長く愛される建築の再生

カトリック女子中高の中高棟の改修と図書館棟の改築である。戦後の困難な時期、ローマカトリックの寄附を中心に、マリア像を頂いた中高棟が竣工したのが昭和27年。以来、地域住民と多くの学校関係者にとって思い出深い学び舎として受け継がれてきた。この景観の継承、耐震性の確保、教育施設の充実が本計画の目的である。中高棟は校舎を使いながらの補強工事のため、外郭耐震フレームを中心とした耐震改修とし、既存外装のプロポーションとディテールを再現したRC造補強とした。図書館棟は、キャンパス景観と調和する外観とし、将来の自由度の高いフラットスラブ構造、アンダーフロア空調等、最新の構造・設備を備えた校舎として改築した。



撮影：母倉知樹



坂口武司 さかぐち・たけし

1994年 竹中工務店入社

現在 同社大阪本店設計部

主な作品

高松大学2号館、

報徳学園中学校高等学校



芹澤好徳 せりざわ・よしのり

2005年 竹中工務店入社

現在 同社大阪本店設計部

主な作品

知恩院新和順会館、

報徳学園中学校高等学校

論考部門

建築と時間

(2014年8月)

内藤 廣

建築と時間については学生の頃から考えていたテーマです。幼い知識で考えていたことを、建築を实践する中で、物の組み立てやディテールに見出そうとしたり、都市や景観に拡大したり、ひとつひとつ当てはめていこうとしています。

建築は実践の場であり、建築は人の暮らしと共にある実学です。わたしは研究者でも哲学者でもありませんから、論理的に美しくまとめることとはいいが、そのようにまとめる能力もありません。現実はいつも混乱の中にあります。したがって、この大テーマは答えの出ぬままに抱えて最後まで行くのでしょうか。しかし、この問題を脇に置いてしまうと、社会的な枠組みの中で作られる建築は、とたんに資本主義経済に呑み込まれてしまうのも確かなことです。だから、日常を支えている建築的思考から切り離せないのです。

建築が独自の価値を形成することが可能だとすれば、それは時間という価値を親しい友として内包しているはず。わたし自身が、解決がつかないまま、また、無理に解決をつけようとしないうちに、近くに居る友として考えているこの時間について、機会を見つけては文章にしようとしています。建築を志す多くの同志たちと少しでも意識を共有したいからです。

どのみち自分だけでは生きているあいだにスッキリとした答えは見いだせないでしょう。でも、絶望しているわけではありません。大切なことほどそんなものだ、とも思っているからです。多くの建築家が時間という価値に向き合うようになれば、それはこの国の建築文化の新たなステージになるはず。その時、建築は新たな未来を切り開くことが出来ると思っています。

思いがけず建築と時間に関する拙文に賞をいただくことになり、たいへん光栄に思っています。



内藤 廣 ないとう ひろし

1950年横浜市生まれ。

1976年早稲田大学大学院修士課程修了。フェルナンド・イゲーラス建築設計事務所（スペイン）、菊竹清訓建築設計事務所を経て1981年内藤廣建築設計事務所設立。2001～2011年東京大学大学院にて、教授、副学長を歴任。現在、東京大学名誉教授。

主な建築作品に、海の博物館、安曇野ひろ美術館、牧野富太郎記念館、島根県芸術文化センター、日向市駅、安曇野市庁舎、静岡県草薙総合運動場体育館などがあり、日本建築学会作品賞、村野藤吾賞、ブルネル賞など数々の賞も受賞している。

東日本大震災津波の被災以降、岩手県の復興に向け各種委員会の委員を務めるほか、市町村のまちづくり計画の策定支援に取り組んでいる。

論考部門

かたちとサイズ 力感論ふたたび

(2014年11月)

長瀬 正

私は昭和47年から50年にかけて横尾研究室に在籍しましたが、当時の横尾先生の関心は既に力感論を離れ、その後の講演でも歴史や心理、生物といったテーマが多く、先生から力感論を直接にお聞きした記憶は残念ながらありません。

私と力感論との出会いは、昭和53年の横尾先生退官記念出版の建築構造随想におさめられた一連の論文随筆でした。その後、大学での構造講義や唐招提寺金堂保存修理などを担当して、構造のしくみを構造の専門家以外に説明する機会が多くなり、構造を身近に感じてもらい、数式を使わないで感覚で解き明かすことを模索した結果、力感論に至りました。

横尾先生の力感論は重力が主たる対象ですが、棚橋先生は地震などの水平力に対するサイズ効果を論じておられます。両先生の構造センスとユニークな着眼に改めて驚かされます。

建築学会は「建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかり、もって社会に貢献することを目的とする」と謳っています。日本の建築は主に研究者（学術）、エンジニア（技術）とデザイナー（芸術）の3者が担当し、それに社会が加わります。震災のたびに、エンジニアの社会性が問われ、分かりやすいコミュニケーションの欠如が指摘されます。他者の共感を得るにはまず理解してもらう必要があります。新しい気付きと理解は感動を生み、共感へとつながります。

「でっかいものはすごいぞ」特集の小論が、読者と選考委員の皆様から評価いただいたのは、サイズの問題を60年以上前の力感論で解き明かす試みに感動、共感されたものと喜んでおります。

ありがとうございました



長瀬 正 ながせ ただし

1950年兵庫県神戸市生まれ。

1975年京都大学大学院工学研究科（建築学専攻）修了、同年株式会社竹中工務店入社、2014年竹中工務店退社、同年4月より一般財団法人日本建築総合試験所上席調査役。

主な受賞

1997年第8回JSCA賞「シーホークホテル&リゾートの構造設計」、2010年日本建築学会賞（技術）「国宝唐招提寺金堂の保存修理における構造解析を中心とした科学的手法の展開」。

博士（工学）。

▶「めんしんたすけ-SO」 新発売

この度、オイレス工業株式会社と日本インシュレーション株式会社は、オイレス式弾性すべり支承免震装置（大臣認定番号 MVBR-0463）を対象とした耐火3時間の耐火被覆システムの大

臣認定を新たに取得した。
これまで、市場にはすべり支承免震装置用としては耐火2時間までの商品しかなかったが、「めんしんたすけ-SO」により、耐火3時間の利用ニーズに対しても新たに対応できるようになった。

■背景

平成26年発売の「めんしんたすけ-S」は、20数種のすべり支承免震装置を対象とした耐火被覆システム製品として、ルートA

（仕様規定）の設計手法で適用できる耐火構造認定を取得した製品で、すべり支承免震装置を建築物の中間層に設置する場合の耐火設計を簡素化できる耐火被覆システムとして注目された。

しかしながら、「めんしんたすけ-S」の耐火構造認定の仕様は、耐火2時間用であったため、15階建て以上の高層建築物の柱など、耐火3時間の耐火構造を必要とする部位には適用できなかった。

そこで、今般、オイレス工業株式会社製の高性能弾性すべり支承免震装置（積層ゴム角型、大臣認定番号：MVBR-0463）専用の、耐火3時間の耐火構造認定をオイレス工業株式会社と共同で取得し、「めんしんたすけ-SO」として発売し、耐火3時間の利用ニーズにも対応した。

「めんしんたすけ-SO」は、特定の免震装置を被覆対象としたため、20数種類の免震装置を対象とした既存商品「めんしんたすけ-S」に対して設計仕様を見直すことにより、以下の特徴を有している。

- ①より耐火性能の高い「耐火3時間」の認定を取得。
（「めんしんたすけ-S」は耐火2時間の認定）
- ②耐火パネル厚さを65mm（内包けいカル部）で実現。
（「めんしんたすけ-S」は耐火パネル厚さ100mm（内包けいカル部）なので35mmスリム化）

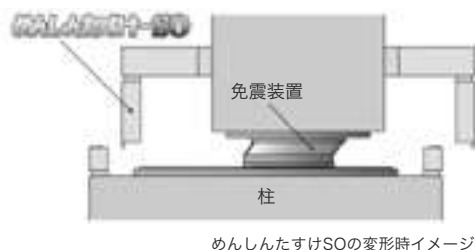
●問合せ

日本インシュレーション株式会社
建築事業部営業開発グループ

〒135-0042 東京都江東区木場2丁目17番16号

TEL：03-5875-8531/FAX：03-5875-8551

<http://www.jic-bestork.co.jp>



めんしんたすけSOの変形時イメージ

1 舟越桂 私の中のスフィンクス

舟越桂（1951年盛岡市生まれ）は、今日の日本を代表する具象彫刻家であり、その彫刻は内外で高い評価を得てきた。大理石の玉眼を使った木彫半身像は、繊細な表情を捉え、静謐で瞑想的な雰囲気を湛えている。それは、なによりもまず、ボディ全体を表現の根幹とする西洋的な規範から距離を置く独自の彫刻の構築であった。このような肖像性に突出した舟越の彫刻であるが、1990年代の半ば頃から、ヤヌスや双頭、山をダブル・イメージさせる体など、異形の姿が頻繁に現れるようになる。舟越は、そこに豊かな意味を含め、表現の拡充を図りつつ、顔と半身の関係性、全体の統一性といった造形的な課題に取り組んできた。

さらに、2004年の裸体像によって、顔に焦点が当たる従来の表現と、ボディを表現の核とする西洋的な規範の両方を統合する方向に進みはじめた。それを集約的に行ったのが、翌年からの〈スフィンクス・シリーズ〉である。半人半獣の姿であるスフィンクスをモチーフにした同シリーズ以降、その異形性についてもより大きく展開され、より豊かな世界を開示しつつある。まさに舟越の円熟を示すものといえる。

本展覧会では、以上の流れを踏まえた上で、〈スフィンクス・シリーズ〉をひとつの核とし、それ以前からの異形の流れを追い、さらに、最新作も加えて、舟越が追究してきた造形の核心とその魅力に迫る。



《荒れ野でみる夢》
2013年
個人蔵

Courtesy of Nishimura Gallery
©Funakoshi Katsura

期 間 8月30日(日)まで
10：00～18：00（金・土曜日は20：00まで）
（入場は閉館の30分前まで）

休 館 日 月曜日（ただし7/20は開館、7/21は休館）
会 場 兵庫県立美術館 企画展示室
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 [HAT神戸内]
TEL.078-262-0901

観 覧 料 一般1,300円、大学生900円
高校生・65歳以上650円
＊中学生以下は無料
＊障がいのある方とその介助者1名は各料金の半額
（65歳以上を除く）
＊割引を受けられる方は証明できるものをご持参下さい

information

2 具体の画家
正延正俊

正延正俊は、1911（明治44）年高知県高岡郡須崎町（現在の須崎市）に生まれ、高知県師範学校専攻科を卒業。高知、東京、神戸で小中学校の美術教員として教鞭をとるかたわら画家として活動した。油絵の具やエナメル塗料で幾層にも塗り重ねられた地肌。その上に置かれたおびただしい数の微細な筆触。正延の絵画は、揺らぐような空間の密度を感じさせながら、無限に変化する様を映し出しているかのようである。「生きる気持の直接的表現」と自ら称した



《作品》
1960年
国立国際美術館蔵

芸術世界は、いったいどのように生み出されていったのか。本展は、「具体」のみならず、戦後の美術史において独特の光彩を放つ画家・正延正俊の没後20年を記念して、初期から晩年までの代表作を一堂に集め、その知られざる画業を紹介する。

期 間 8月2日(日)まで
10:00~17:00（入館は16:30まで）
休 館 日 水曜日
会 場 西宮市大谷記念美術館
兵庫県西宮市中浜町4-38
TEL.0798-33-0164
観 覧 料 一般500円、高大生300円、小中生200円
＊障がい者手帳等をお持ちの方は無料
＊西宮市在住65歳以上の方は一般料金の半額（要証明）

3 白鳳
—花ひらく仏教美術—

白鳳は7世紀の半ばから710年に平城京に遷都するまでの間の文化や時代を指す言葉として、美術史学を中心に用いられてきた。白鳳美術の魅力は金銅仏に代表される白鳳仏にあると言ってもよい。白鳳仏は若々しい感覚にあふれ、中には童子のような可憐な仏像も見ることができる。神秘性や厳しさを感じる飛鳥彫刻や、成熟した天平彫刻とはまた違う魅力である。一方、考古遺物に眼を向ければ、白鳳期の瓦の文様はわが国の瓦当（がとう）文様の頂点と呼ぶにふさわしく、寺院址からは堂宇（どうう）の壁面を飾っていたと思われる美しい埴仏（せんぶつ）が出土している。奈良国立博物館は2015（平成27）年に開館120年を迎えるのを



国宝 聖観世音菩薩立像
奈良・薬師寺

記念し、仏教美術の専門館として長年にわたり構想を温めてきた白鳳美術を取り上げ、その魅力を追求する。

期 間 7月18日(土)~9月23日(水・祝)
9:30~18:00
＊金曜日と8/5~15は19:00まで
（入館は閉館の30分前まで）
休 館 日 月曜日
（ただし7/20・8/10・9/21は開館、7/21は休館）
会 場 奈良国立博物館
奈良市登大路町50
TEL.050-5542-8600（NTTハローダイヤル）
観 覧 料 一般1,500円、高大生1,000円、小中生500円
＊障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料

4 生誕三百年 同い年の天才絵師
若冲と蕪村

華麗で細密な花鳥画や斬新な「升目描き」による群獣図、童心を忘れぬ大らかな水墨画などを描いた伊藤若冲（1716-1800）。南宗画の系譜をひく雄大な山水画や、自ら詠んだ俳句を賛した軽妙洒脱な俳画などを描いた与謝蕪村（1716-1783）。二人の天才絵師はともに正徳六年（享保元年・1716）に生まれ、ともに40歳を過ぎてから本格的に絵画を描くようになった。蕪村が42歳頃京に移り住んでからは、二人は歩いて10分足らずの近くに住んでいたが、不思議なことに二人の交流を裏付ける資料は一切発見されていない。



伊藤若冲筆
《白象群獣図》
江戸時代18世紀
個人蔵
（展示：7/22-8/9）

本展覧会は、若冲と蕪村の代表作に加えて多くの新出作品を紹介する。また、ともに影響を受けた中国・朝鮮絵画や同時代の関連作品も展示し、同じ時代を生きた二人の天才絵師の画業をたどる。

期 間 7月4日(土)~8月30日(日)
10:00~17:00（入館は16:00まで）
休 館 日 月曜日（ただし7/20は開館、7/21は休館）
会 場 MIHO MUSEUM
滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷300
TEL.0748-82-3411
観 覧 料 一般1,100円、高大生800円、小中生300円

本欄掲載の1~4の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手（82円）を日本建築協会事務局までお送りください。

暑中お見舞申し上げます

平成27年盛夏

亀井 忠夫

日建設計
代表取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

近藤 徹

不二熱学工業 株式会社
代表取締役

〒542-0081 大阪市中央区南船場2-1-1 TEL(06)6261-4321

立野 純三

株式会社 ユニオン
代表取締役社長

〒550-0015 大阪市西区南堀江2-13-22 TEL(06)6532-3188

北野 晶平

ダイダグン 株式会社
代表取締役社長
最高執行責任者

〒550-8520 大阪市西区江戸堀1-9-25 TEL(06)6447-8000

理事

佐野 吉彦

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

理事

中井 進

日建設計コンストラクション・マネジメント
代表取締役会長

〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-27 TEL(03)5803-9770

会長

香西 喜八郎

株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2-6-10 TEL(06)6202-0391

副会長

設楽 貞樹

株式会社 安井建築設計事務所
常務取締役執行役員

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

千種 幹雄

株式会社 昭和設計
代表取締役社長

〒531-0072 大阪市北区豊崎4-12-10 TEL(06)7174-8787



暑中お見舞申し上げます

平成27年盛夏

設計事務所有志

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

会長 瀬戸本 淳

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-1-1 神戸郵船ビル TEL (078) 333-0138
http://www.jsao.co.jp

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長 香西 喜八郎

本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2-6-10 TEL (06) 6202-0391
大阪・東京・名古屋・九州・東北・上海
http://www.tohata.co.jp



日建設計

代表取締役社長 亀井 忠夫

東	京	102-8117	東京都千代田区飯田橋2-18-3	TEL (03) 5226-3030
大	阪	541-8528	大阪市中央区高麗橋4-6-2	TEL (06) 6203-2361
名	古	460-0008	名古屋市中区栄4-15-32	TEL (052) 261-6131

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐野 吉彦

本社: 〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371(代表)
支社: 大阪・東京・名古屋・広島・九州 www.yasui-archi.co.jp

建設業有志



時をつくる ところで創る

大林組

取締役社長 白石 達

本社 東京都港区港南 2-15-2 TEL 03 (5769) 1111

専務執行役員 鶴田 信夫
大阪本店長

大阪本店 大阪府北区中之島 3-6-32 TEL 06 (6456) 7000

子どもたちに誇れるしごとを。



清水建設株式会社

取締役社長 宮本 洋一

取締役専務執行役員関西事業本部長 田中 完治

本社 〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号 TEL 03 (3561) 1111
 関西事業本部 〒541-8520 大阪府中央区本町三丁目5番7号 御堂筋本町ビル TEL 06 (6263) 2800



大成建設

For a Lively World

社長 村田 誉之
 常務執行役員 金井 隆夫
 関西支店長

http://www.aisei.co.jp/

想いをかたちに 未来へつなぐ



TAKENAKA

竹中工務店 取締役社長 宮下正裕

〒541-0053 大阪府中央区本町 4-1-13 tel: 06-6252-1201

〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1 tel: 03-6810-5000



戸田建設株式会社

代表取締役社長 今井 雅則
 常務執行役員大阪支店長 光 用 薫

本社 〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 TEL 東京03(3535)1354
 大阪支店 〒550-0005 大阪府西区西本町1-13-47 TEL 大阪06(6531)6095
 支店 東京・首都圏土木・千葉・関東・横浜・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

建材・学校・団体有志等



大阪工業技術専門学校

OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

建築学科・インテリアデザイン学科・大工技能学科・設備環境デザイン学科・建築設計学科(リカレント生対象)
建築学科Ⅱ部(夜間)・フレックス建築学科(夜間・単位制)・建築士専科(二級建築士受験資格取得者対象)

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目8番24号 ☎ 0120-0910-19 🌐 <http://www.oct.ac.jp/> Tel. 06-6352-0093



一般社団法人 日本建築材料協会

会 長 立 野 純 三

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階 TEL(06)6443-0345 FAX(06)6443-0348
<http://www.kenzai.or.jp/>



一般社団法人 日本建築協会

会 長 香 西 喜八郎

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 TEL(06)6946-6981



一般社団法人 日本建築協会中国支部

支 部 長 高 松 隆 夫

〒730-0805 広島市中区十日市町1-1-9 (相生通り鷹匠ビル4階山陽工業(株)内) TEL(082)232-6471



一般社団法人 日本建築協会東海支部

支 部 長 篠 原 佳 則

〒460-0008 名古屋市中区栄2-10-19 (名古屋商工会議所ビル9階) TEL (052) 201-2201



一般社団法人 日本建築協会京都支部

支 部 長 長 瀬 博 一

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入橋町641 京都建設会館別館 TEL(075)211-2857

日本建築協会

月間の動き

平成27年 5月

理事会

第2回常任理事会

5月27日(水) 16:00~17:20
出席者 香西会長ほか7名
議 事 (1) 平成26年度事業報告・決算報告・公益目的支出計画実施報告
(2) 平成27年度事業計画・収支予算
(3) その他

編集委員会

第2回広告企画・編集合同委員会

5月12日(火) 18:00~19:15
出席者 米井委員長ほか6名
議 事 (1) 6月号特集 これからの学びのかたち
(2) 7月号特集 第62回青年技術者
(3) 8月号特集 建築と価値
(4) 9月号特集 空き家と向き合う
(5) 10月号特集 職人がいない!
(6) 広告依頼先検討

第1回計画系分科会

5月29日(金) 18:30~20:00
出席者 田中幹事ほか2名
議 事 (1) 1月号特集の企画

第2回構造分科会

5月11日(月) 18:15~19:30
出席者 岡田幹事ほか5名
議 事 (1) 構造の頁の企画
(2) 11月号特集の企画

第2回施工材料分科会

5月26日(火) 17:00~17:50
出席者 桜井幹事ほか3名
議 事 (1) 10月号特集の企画

第2回法令分科会

5月20日(水) 15:00~16:20
出席者 磯林委員ほか4名
議 事 (1) 法令コーナーの企画
(2) 9月号特集の企画

第2回作品作風小委員会

5月28日(木) 19:00~20:00
出席者 西田小委員会委員長ほか6名
議 事 (1) 作品の選定
(2) 作品の掲載状況、予定の報告
(3) gallery掲載報告、予定
(4) その他

事業委員会

第2回情報見学小委員会

5月14日(木) 18:00~19:00
出席者 豊田小委員長ほか11名
議 事 (1) 「武庫川女子大学」見学会の報告
(2) 本年度事業について見学先の検討

第2回U-35小委員会

5月22日(金) 19:30~21:30
出席者 興津サプリーダーほか7名
議 事 (1) 活動／組織体制
(2) 活動記録／会計
(3) 次回予定／その他

U-35小委員会「talk baton 04」

5月23日(土) 14:45~18:30
参加者 廣富委員ほか37名
ゲスト 小山隆輝

出版委員会

第2回出版委員会

5月21日(木) 18:00~19:00
出席者 西委員長ほか7名
議 事 (1) <プロのノウハウ>と特装本の経過報告
(2) 進行中のテーマの検討
(3) 新テーマ検討

100周年関連事業委員会

群像委員会

ミーティング
5月16日(土) 13:00~
出席者 吉永委員ほか4名
議 事 『群像』出版
第2回10年委員会
5月19日(火) 18:30~20:00
出席者 設楽委員長ほか5名
議 事 (1) 学生のための見学会「(仮称)城東区複合施設建設工事」
(2) 大阪ええとこ創生プロジェクト今後の展開

100周年記念事業委員会

第2回幹事会

5月27日(水) 17:30~19:20
出席者 設楽委員長ほか5名
議 事 (1) 記念出版WG、式典WG、次世代WG報告
(2) その他

大阪府知事指定講習 建築4団体共催改正建築基準法及び改正建築士法解説講習会

5月29日(金) 11:00~16:10
参加者330人

■訂正とお詫び

本誌2015年6月号に、下記の誤りがありました。

特集 これからの学びのかたち
各論1 国立大学の学修環境の充実に向けて

15頁の写真3および写真4が入れ換わっていました。**正しくは写真3が九州工業大学で、写真4が京都大学です。**
関係各位にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

編集委員会(平成27年度)

■副会長

設楽 貞樹
本多 友常
■編集担当理事
西 博康
押味 至一
佐藤 榮一
杉本 浩
竹中 統一
松本 眞一
吉村 英祐
◎米井 寛

■副委員長

○勝山 太郎
■特集小委員会
■計画分科会
★計画系
飯田 匡
鈴木 克彦
△田中 直人
紅谷 昇平
松田奈緒子
三宅 次郎
守井 辰
吉村 英祐

★建築計画系

荒木 宏之
大西 広朗
神戸 嘉也
静 茂夫
下坂 浩和
野田 隆史
橋本 祐典
樋口 展寛
△三谷 帯介
米山 剛史
渡部 剛

★インテリア・住宅

今井 充彦
川合 隆之
工藤 理隆
△黒柳 亮
酒井 雅男
塚口眞佐子
ペリー史子
間瀬 一博
■構造分科会
伊藤 栄治
△岡田 健
岸本 光平
司馬 勢也
瀧野 敦夫
角田 耕一
橋本 宗明
宮久保秀樹
向井 洋一

■設備分科会

有尾清二郎
北野 勝也
高村 聡
寺井 千佳
長澤 康弘
夏井 重行
△橋本 直樹
藤原 謙一
榊井 貴廣
宮崎ひろ志
山本 雅洋

■施工材料分科会

荻巢 友貴
後藤 尉彦
△桜井 和男
高橋 秀一
藤丸 啓一
山口 紀宏
吉田 正友
■法令分科会
磯林 雅之
岡本 亮二
查掛 靖
△黒川 正樹
河野 学
前田 俊文

■作品作風小委員会

東井 嘉信
居内 章夫
池上 明
稲垣 和江
加嶋 章博
菊池 浩輔
倉橋 尉仁
倉渕奈千子
澤田 純一
高木 秀晃
鞆野 淳司
豊田 充広

▲西田 佳代

芳谷 晴彦
増田 敬彦
■広告企画小委員会
大谷 金由
小川 雄介
小山 昭
金築 雄
藤田 昌宏
▲前田 衛
山辻 直樹

◎委員長

○副委員長

▲小委員会委員長

△幹事

(順不同)

◎委員長

○副委員長

▲小委員会委員長

△幹事

印刷 2015年6月29日
発行 2015年7月1日
発行人 一般社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電話 06-6946-6981
印刷所 榊中島弘文堂印刷所
デザイン 多田正治(多田正治アトリエ)
定価 1230円(税込)

お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応できるように

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 中島弘文堂印刷所

本社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761 / FAX.06-6976-8765

東京支社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目4-2 風雲堂別館ビル2階
TEL.03-3526-5580 / FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社 日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市里池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)8843-1235(代) FAX (06)8853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目4-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

コンクリートのひび割れ対策に

NETIS 登録済み
KT-040018-V

DENKA
DENKI KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA

高性能膨張材

デンカパワーCSA

JIS A 6202
適合品

特 性

- ・乾燥収縮の低減
- ・自己収縮の低減
- ・水密性の向上(防水性)
- ・温度ひび割れの低減

主な用途例

- ・合成デッキスラブ
- ・土間スラブ
- ・RC 構造物
- ・自己充填コンクリート
- ・マスコンクリート 他

膨張材以外にも

- ・無収縮グラウト材
(タスコン)
 - ・躯体防水材
(シャガード)
 - ・ポリマーセメントモルタル
(RIS シリーズ)
- など、各種混和材(剤)を
ラインナップしています。

●資料のご請求お問い合わせは・・・

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

小浦産業株式会社

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1丁目14番6号
TEL 06-6443-6181 FAX 06-6443-6270

写真マンガでわかる (プロのノウハウ)

工務店の クレーム対応術

日本建築協会 (企画)

四六判・220頁
本体2000円+税

玉水新吾・青山秀雄 著
阪野真樹子 マンガ

施主の満足度を高め、
選ばれる工務店に
なるためのヒントが
満載!

住宅づくりの
現場で
よくある
クレーム
を網羅!
「事前説明のしかた」と
「発生後の対応法」
がわかる



学芸出版社

〒600-8216
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811
Fax 075-343-0810

http://www.gakugei-pub.jp/
E-mail info@gakugei-pub.jp

設計・監理・
施工者のための

建築品質 トラブル予防のツボ

若手～中堅の
技術者必携!

確かな品質の建築を協力してつくるための
基本作法とトラブル予防のポイントを解説

日本建築協会 企画 仲本尚志・馬渡勝昭 著

A5判・248頁・2800円+税



敷地



屋上・防水



バルコニー



屋根



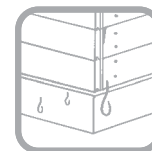
地下躯体



RC造



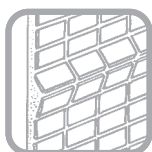
鉄骨造



パネル外壁



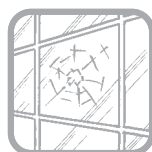
外壁石



外壁タイル



外部建具



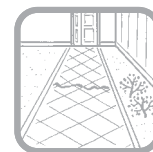
ガラス



外壁その他



内部仕上げ



外構



設備

学芸出版社

〒600-8216
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811
Fax 075-343-0810

http://www.gakugei-pub.jp/
E-mail info@gakugei-pub.jp